（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書　第７集

植田池・長滝・安松遺跡

関西国際空港連絡道路建設に伴う発掘調査報告書Ⅲ

本 文 編

１９９６．３

財団法人　大阪府文化財調査研究センター

（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書　第７集

植田池・長滝・安松遺跡

関西国際空港連絡道路建設に伴う発掘調査報告書Ⅲ

本 文 編

１９９６．３

財団法人　大阪府文化財調査研究センター

巻頭図版1　植田池遺跡、長滝遺跡、安松遺跡全景航空写真

（上が北西）

旧長滝墓地域全景（南東から）

36区124－ＯＵ棺内副葬品出土状況

27区125－OW全景

27区125－OW井筒内遺物出土状況

73区213－ＯＢ全景

73区212－ＯＰ内遺物出土状況

序　　文

泉州沖の海上に空港の建設が策定され、関西国際空港として平成６年９月４日に開港致しました。

新空港建設にあたりましては多くの関連事業が実施されています。特にアクセス交通網の整備が急がれ、阪神高速道路湾岸線・外環状線の延伸とともに近畿自動車道松原すさみ線からのアクセス道として空港連絡道路の建設が急務でありました。

大阪府教育委員会では空港関連の各種公共事業に先立つ発掘調査を円滑に進めるべく、昭和60年４月に財団法人大阪府埋蔵文化財協会を設立し、財団固有職員に加え本府教育委員会出向職員と近隣府県ならびに府下市町村からの職員の派遣も受けて調査体制を整えたところであります。

空港連絡道路建設に先立つ発掘調査は大阪府教育委員会の指導のもと同財団法人が実施し、路線内の試掘調査を経て平成元年９月から本格調査を始めることとなります。現地調査は足掛け５年の歳月をかけて平成５年３月に終了することが出来ました。

道路予定地内の調査報告書も第Ⅲ集をかぞえ、本書には植田池遺跡・長滝遺跡・安松遺跡の調査成果を掲載しております。

泉州域を横断するかたちで実施しました発掘調査の成果が泉州の歴史を解明する資料となれば幸いです。

最後になりましたが、調査の実施から遺物整理などの報告書刊行にいたるまで、事業者をはじめ関係各位にはひとかたならぬ御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。今後とも御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

平成８年３月

大阪府教育委員会

文化財保護課長　田　中　　宏

序　　文

大阪国際空港の過密化に伴い日本のハブ空港をめざした新空港は、泉州沖に空港建設が策定され、関西国際空港として平成６年９月４日に開港致しました。

新空港建設にあたってはアクセス交通網の整備が急がれ、これを受けて阪神高速湾岸線・外環状線の延伸とともに、近畿自動車道松原すさみ線からのアクセス道としての空港連絡道路の建設が計画され、昭和62年12月には空港連絡道路の事業認可も下りました。

財団法人大阪府埋蔵文化財協会は空港関連の文化財発掘調査機関として発足したものであります。道路予定地内の遺物分布調査の成果を踏まえ、大阪府教育委員会の指導のもとに試掘調査を行った結果、予定地内の全面発掘調査を行うことになります。

植田池・長滝・安松遺跡は戦時中に建設が始まった旧陸軍明野飛行学校佐野分校の飛行場跡地内に収まります。当時の大規模な地形の改変と、また戦後の開墾による耕作地造成という二度にわたる人為的な地形の改変を受けています。「昔は飛行場に、今度は飛行場への道路に」という複雑な地元住民の心境はいかばかりであったろうと考えます。しかし関係各位の御理解と御協力により、少しずつではありましたが現地調査は進み、平成元年９月より始めた調査は平成５年３月に終了することが出来ました。

調査の結果、古代の遺構・遺物や中世の遺構・遺物等も検出し、段丘面内の先駆的な開発の端緒を垣間見ることが出来ました。近世には俵屋新田の開発を契機として18世紀中頃にその画期を捉える事が出来ました。また飛行場建設により移転させられた行基伝承の残る旧長滝墓地の範囲や始期と断絶期の確認などの貴重な成果を得ることが出来ました。

財団法人大阪府埋蔵文化財協会は空港連絡道路の調査完遂後10周年を迎え、その使命を全うして、平成７年３月末をもって発展的解散をしました。解散後財団法人大阪文化財センターに合流し、名称も財団法人大阪府文化財調査研究センターに改称されました。今後も大阪府下の文化財調査の中核を担う機関として活動を続けて行くものであります。今後さらなる御指導御協力を賜りますよう御願い申し上げます。

平成８年３月

財団法人　大阪府文化財調査研究センター

理事長　坪　井　清　足

例　　言

1．　本書は関西国際空港連絡道路予定地内に所在する植田池遺跡、長滝遺跡、安松遺跡の発掘調査報告書である。

2．　調査は道路公団、大阪府土木部、関西国際空港株式会社の委託を受け、大阪府教育委員会文化財保護課の指導のもとに、財団法人大阪府埋蔵文化財協会が実施した。

3．　現地調査は平成元年9月11日より着手し、平成5年3月22日終了した。各年度の担当技師は次のとおりである。

平成元年度(1989)：有井　宏子（現大阪府教育委員会）、小川　正純（岬町教育委員会）、仁木　昭夫

平成2年度(1990)：松岡　良憲（大阪府教育委員会）、山本　彰（大阪府教育委員会）、鐵　英記（兵庫県教育委員会）、光石　鳴巳（現岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）、乾　哲也（和泉市教育委員会）、駒井　正明、田中　一廣、服部　美都里、仁木　昭夫

平成3年度(1991)：阿部　幸一（大阪府教育委員会）、松岡　良憲（大阪府教育委員会）、三宅　正浩（大阪府教育委員会）、仁木　昭夫

平成4年度(1992)：辻本　武（大阪府教育委員会）、松岡　良憲（大阪府教育委員会）

4．　調査の実施にあたっては各事業者、泉佐野市教育委員会、地元各位の協力を得た。

5．　本書の執筆は遺構を各担当者が分担し、遺物の整理と執筆および編集は仁木が行ったが、一部担当者によるものもある。遺物整理には乾・駒井・服部各氏の助言と協力を得た。編集は各担当者の意向に従い原文をほとんど変えずに使用し編集作業を行ったが、一部編集期限切れのため校正未了のまま掲載している。

6．　調査区全景および遺構写真は各担当技師が撮影した。遺物写真は平井貞子主査による。一部小倉　勝が撮影した。

7．　航空写真測量および撮影はアジア航測株式会社に委託した。

8．　第6章第2節の石器についての執筆は現地調査担当地区の関係から光石鳴巳氏の手を煩わせた。記して感謝の意を述べる。

9．　第7章の花粉分析は川崎地質株式会社に委託した。

10．　第8章の旧長滝墓地検出遺体の分析は大阪市立大学医学部に委託した。

凡　　例

1．　本書遺構図中の方位は国土座標第Ⅵ系の座標北を使用し、X・Yの座標値も併せて記している。標高はT.P.（m）で表示している。

2．　調査当初の方針で各地区ごとに遺構番号を付したが、煩雑さを避け遺構同士のつながりを明確にするため新遺構番号を付し、新旧遺構番号対照表を作成している。

3．　本書で使用した遺構記号は次のとおりである。

OW：井戸	OP：柱穴・ピット	OC：祭祀	OK：窯
OO：土坑	OB：建物	OG：土壙・墓	OL：池
OS：溝	OF：柵	OA：道路	OR：自然流路・谷
OU：墓地墓壙	OZ：田畑区画	OI：水利暗渠・石垣	OX：その他・不明

4．　遺物番号は各遺跡ごとに1から番号を付したが、植田池遺跡内に所在する旧長滝墓地域内出土遺物についても1から番号を付し、挿図と図版中の遺物番号は一致させた。

なお写真のみのものについては各遺跡の末尾番号から番号を付しているが、一部地区については執筆原稿の都合上、独自に番号を付した。

5．　旧長滝墓地にかかわる墓壙や副葬品である銭貨、煙管等のほか石塔類の法量などについては第6章に一覧表を作成し掲載している。

6．　土層の土色については「新版標準土色帖」1987年版を使用した。

（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）

7．　第7章、第8章の挿図・表については別番号を付している。

植田池遺跡新旧遺構番号対照一覧表

No. 1

新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区
1－OS	1－OS	102（墓地内）	28－OO	47－OO	37（墓地内）	72－OU	25－OU	31（墓地内）
1－OS	1－OS	30	29－OO	56－OO	37（墓地内）	73－OU	28－OU	31（墓地内）
1－OS	1－OS	31（墓地内）	30－OO	26－OO	37（墓地内）	74－OU	29－OU	31（墓地内）
1－OS	1－OS	8	31－OO	6－OO	37（墓地内）	75－OU	30－OU	31（墓地内）
1－OS	1－OS	32	32－OO	9－OO	37（墓地内）	76－OU	31－OU	31（墓地内）
1－OS	1－OS	36	33－OO	11－OO	37（墓地内）	77－OU	32－OU	31（墓地内）
1－OS	1－OS	2	34－OO	42－OO	37（墓地内）	78－OU	33－OU	31（墓地内）
1－OS	1－OS	95	35－OO	43－OO	37（墓地内）	79－OU	34－OU	31（墓地内）
1－OS	1－OS	96	36－OO	44－OO	37（墓地内）	80－OU	35－OU	31（墓地内）
2－OS	34－OS	36	37－OO	45－OO	37（墓地内）	81－OU	36－OU	31（墓地内）
3－OS	2－OS	36	38－OO	54－OO	37（墓地内）	82－OU	37－OU	31（墓地内）
4－OS	1－OS	4	39－OO	52－OO	37（墓地内）	83－OU	38－OU	31（墓地内）
4－OS	4－OS	101	40－OO	51－OO	37（墓地内）	84－OU	39－OU	31（墓地内）
4－OS	2－OS	102（墓地内）	41－OO	49－OO	37（墓地内）	85－OU	40－OU	31（墓地内）
4－OS	2－OS	115（墓地内）	42－OO	50－OO	37（墓地内）	86－OU	41－OU	31（墓地内）
4－OS	15－OS	55（墓地外）	43－OO	45－OP	36	87－OU	43－OU	31（墓地内）
5－OS	18－OS	55（墓地内）	44－OO	46－OX	36	88－OU	45－OU	31（墓地内）
5－OS	19－OS	55（墓地内）	45－OO	44－OO	36	89－OU	47－OU	31（墓地内）
6－OS	3－OS	37（墓地内）	46－OO	43－OO	36	90－OU	49－OU	31（墓地内）
6－OS	10－OS	96	47－OO	35－OO	36	91－OU	50－OU	31（墓地内）
7－OW	12－OW	102（墓地内）	48－OO	2－OO	1	92－OU	51－OU	31（墓地内）
8－OW	3－OW	31（墓地内）	49－OO		37（墓地内）	93－OU	52－OU	31（墓地内）
8－OW	38－OW	36	50－OO		37（墓地内）	94－OU	53－OU	31（墓地内）
9－OW	37－OW	36	51－OO		37（墓地内）	95－OU	54－OU	31（墓地内）
10－OW	3－OW	1	52－OO		37（墓地内）	96－OU	55－OU	31（墓地内）
11－OO	21－OO	55（墓地内）	53－OO		37（墓地内）	97－OO	1－OO	1
12－OO	22－OS	55（墓地内）	54－OO		37（墓地内）	98－OU	4－OU	36
13－OO	2－OO	95	55－OO		37（墓地内）	99－OU	6－OU	36
14－OO	44－OO	31（墓地内）	56－OO		37（墓地内）	100－OU	7－OU	36
15－OO	42－OO	31（墓地内）	57－OO		37（墓地内）	101－OU	8－OU	36
16－OO	60－OO	31（墓地内）	58－OO		37（墓地内）	102－OU	9－OU	36
17－OO	9－OO	31（墓地内）	59－OU	10－OU	31（墓地内）	103－OU	10－OU	36
18－OO	27－OO	31（墓地内）	60－OU	13－OU	31（墓地内）	104－OU	11－OU	36
19－OO	26－OO	31（墓地内）	61－OU	14－OU	31（墓地内）	105－OU	12－OU	36
20－OO	8－OO	31（墓地内）	62－OU	15－OU	31（墓地内）	106－OU	13－OU	36
21－OO	12－OO	31（墓地内）	63－OU	16－OU	31（墓地内）	107－OU	14－OU	36
22－OO	4－OO	31（墓地内）	64－OU	17－OU	31（墓地内）	108－OU	15－OU	36
22－OO	2－OO	8	65－OU	18－OU	31（墓地内）	109－OU	16－OU	
23－OO	5－OO	31（墓地内）	66－OU	19－OU	31（墓地内）	110－OU	17－OU	36
23－OO	2－OO	96	67－OU	20－OU	31（墓地内）	111－OU	18－OU	36
24－OO	8－OO	37（墓地内）	68－OU	21－OU	31（墓地内）	112－OU	19－OU	36
25－OO	48－OO	37（墓地内）	69－OU	22－OU	31（墓地内）	113－OU	20－OU	36
26－OO	46－OO	37（墓地内）	70－OU	23－OU	31（墓地内）	114－OU	21－OU	36
27－OO	49－OO	37（墓地内）	71－OU	24－OU	31（墓地内）	115－OU	22－OU	36

植田池遺跡新旧遺構番号対照一覧表

No. 2

新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区
116－OU	23－OU	36	160－OU	9－OU	96	201－OO	18－OO	39
117－OU	24－OU	36	161－OB	7－OS	31（墓地内）	202－OO	19－OO	39
118－OU	27－OU	36	162－OB	1－OB	37（墓地内）	203－OO	20－OO	39
119－OU	28－OU	36	163－OB	61－OB	37（墓地内）	204－OO	21－OO	39
120－OU	29－OU	36	164－OB	12－OS	37（墓地内）	205－OO	22－OO	39
121－OU	31－OU	36	165－OB	13－OS	37（墓地内）	206－OO	23－OO	39
122－OU	39－OU	36	166－OF	55－OF	37（墓地内）	207－OO	24－OO	39
123－OU	40－OU	36	167－OC	2－OC	37（墓地内）	208－OO	39－OO	39
124－OU	41－OU	36	168－OL	6－OS	31（墓地内）	209－OS	50－OS	39
125－OU	42－OU	36	169－OX	56－OX	31（墓地内）	210－OX	45－OX	39
126－OU	5－OU	37（墓地内）	170－OX	61－OX	31（墓地内）	211－OX	46－OX	39
127－OU	7－OU	37（墓地内）	170－OXa	41－OS	37（墓地内）	212－OX	47－OX	39
128－OU	10－OU	37（墓地内）	170－OXb	53－OO	37（墓地内）	213－OX	53－OX	39
129－OU	15－OU	37（墓地内）	171－OX	62－OX	31（墓地内）	214－OW	43－OW	38
130－OU	16－OU	37（墓地内）	172－OX	4－OX	37（墓地内）	215－OW	44－OW	38
131－OU	17－OU	37（墓地内）	173－OX	47－OX	36	216－OO	25－OO	38
132－OU	18－OU	37（墓地内）	174－OX	3－OX	36	217－OO	26－OO	38
133－OU	19－OU	37（墓地内）	175－OX	58－OX	37（墓地内）	218－OO	27－OO	38
134－OU	20－OU	37（墓地内）	176－OI	48－OO	31（墓地内）	219－OO	28－OO	38
135－OU	21－OU	37（墓地内）	176－OI	57－OS	31（墓地内）	220－OO	29－OO	38
136－OU	22－OU	37（墓地内）	177－OI	57－OI	37（墓地内）	221－OO	30－OO	38
137－OU	23－OU	37（墓地内）	178－OI	4－OI	1	222－OO	31－OO	38
138－OU	24－OU	37（墓地内）	179－OK	14－OK	37（墓地内）	223－OO	32－OO	38
139－OU	25－OU	37（墓地内）	180－OR	59－OR	37（墓地内）	224－OO	33－OO	38
140－OU	26－OU	37（墓地内）	181－OO	9－OO	40	225－OO	34－OO	38
141－OU	27－OU	37（墓地内）	182－OO	14－OO	40	226－OO	35－OO	38
142－OU	28－OU	37（墓地内）	183－OX	3－OX	40	227－OO	36－OO	38
143－OU	29－OU	37（墓地内）	184－OX	4－OX	40	228－OO	37－OO	38
144－OU	30－OU	37（墓地内）	185－OX	5－OX	40	229－OO	38－OO	38
145－OU	31－OU	37（墓地内）	186－OX	6－OX	40	230－OS	51－OS	38
146－OU	32－OU	37（墓地内）	187－OX	7－OX	40	231－OS	52－OS	38
147－OU	33－OU	37（墓地内）	188－OX	8－OX	40	232－OX	48－OX	38
148－OU	34－OU	37（墓地内）	189－OX	10－OX	40	233－OX	49－OX	38
149－OU	35－OU	37（墓地内）	190－OX	11－OX	40	234－OX	54－OX	38
150－OU	36－OU	37（墓地内）	191－OX	12－OX	40	235－OW	3－OW	12
151－OU	37－OU	37（墓地内）	192－OX	13－OX	40	236－OO	4－OO	12
152－OU	38－OU	37（墓地内）	193－OW	40－OW	39	237－OS	1－OS	12
153－OU	41－OU	37（墓地内）	194－OW	41－OW	39	238－OZ	2－OZ	12
154－OU	42－OU	37（墓地内）	195－OW	42－OW	39	240－OW	17－OW	67
155－OU	3－OU	96	196－OO	1－OO	39	241－OX	5－OX	67
156－OU	4－OU	96	197－OO	2－OO	39	242－OX	6－OX	67
157－OU	5－OU	96	198－OO	15－OO	39	243－OX	7－OX	67
158－OU	6－OU	96	199－OO	16－OO	39	244－OX	8－OX	67
159－OU	7－OU	96	200－OO	17－OO	39	245－OX	9－OX	67

植田池遺跡新旧遺構番号対照一覧表

新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区
246－ＯＸ	10－ＯＸ	67	283－ＯＳ	23－ＯＳ	55（墓地外）	323－ＯＳ	2－ＯＳ	32
247－ＯＸ	11－ＯＸ	67	284－ＯＩ	10－ＯＩ	55（墓地外）	323－ＯＳ	4－ＯＳ	32
248－ＯＸ	12－ＯＸ	67	285－ＯＸ	4－ＯＸ	55（墓地外）	324－ＯＳ	5－ＯＳ	32
249－ＯＯ	16－ＯＯ	67	286－ＯＸ	6－ＯＸ	55（墓地外）	325－ＯＺ	3－ＯＺ	32
250－ＯＯ	18－ＯＯ	67	287－ＯＸ	12－ＯＸ	55（墓地外）	326－ＯＯ	25－ＯＯ	36
251－ＯＳ	1－ＯＳ	67	288－ＯＷ	3－ＯＷ	102（墓地外）	327－ＯＸ	13－ＯＸ	67
251－ＯＳ	1－ＯＳ	69	289－ＯＷ	4－ＯＷ	102（墓地外）	328－ＯＸ	14－ＯＸ	67
251－ＯＳ	1－ＯＳ	93	290－ＯＷ	5－ＯＷ	102（墓地外）			
252－ＯＳ	2－ＯＳ	67	291－ＯＷ	6－ＯＷ	102（墓地外）			
253－ＯＳ	3－ＯＳ	67	292－ＯＷ	7－ＯＷ	115（墓地外）			
253－ＯＳ	2－ＯＳ	93	293－ＯＷ	8－ＯＷ	115（墓地外）			
254－ＯＳ	4－ＯＳ	67	294－ＯＷ	9－ＯＷ	115（墓地外）			
255－ＯＸ	15－ＯＸ	68	295－ＯＷ	10－ＯＷ	115（墓地外）			
256－ＯＸ	21－ＯＸ	68	296－ＯＷ	11－ＯＷ	115（墓地外）			
257－ＯＸ	22－ＯＸ	68	297－ＯＳ	60－ＯＳ	37（墓地外）			
258－ＯＸ	23－ＯＸ	68	298－ＯＳ	2－ＯＳ	2			
259－ＯＳ	19－ＯＳ	68	299－ＯＺ	3－ＯＺ	2			
260－ＯＳ	20－ＯＳ	68	300－ＯＷ	1－ＯＷ	7			
261－ＯＷ	2－ＯＷ	94	301－ＯＷ	8－ＯＷ	30			
262－ＯＲ	3－ＯＲ	94	302－ＯＷ	9－ＯＷ	30			
263－ＯＸ	1－ＯＸ	94	303－ＯＯ	6－ＯＯ	30			
264－ＯＷ	3－ＯＷ	4	304－ＯＯ	7－ＯＯ	30			
264－ＯＷ	6－ＯＷ	101	305－ＯＳ	10－ＯＳ	30			
265－ＯＷ	5－ＯＷ	4	306－ＯＸ	2－ＯＸ	30			
265－ＯＷ	3－ＯＷ	101	307－ＯＸ	3－ＯＸ	30			
266－ＯＯ	6－ＯＳ	4	308－ＯＸ	4－ＯＸ	30			
266－ＯＯ	5－ＯＯ	101	309－ＯＸ	5－ＯＸ	30			
267－ＯＩ	4－ＯＩ	4	310－ＯＷ	4－ＯＷ	29（西）			
268－ＯＬ	2－ＯＬ	4	311－ＯＷ	5－ＯＷ	29（西）			
269－ＯＳ	2－ＯＳ	101	312－ＯＳ	1－ＯＳ	29（西）			
270－ＯＳ	1－ＯＳ	101	313－ＯＳ	2－ＯＳ	29（西）			
271－ＯＷ	1－ＯＷ	55（墓地外）	314－ＯＲ	3－ＯＲ	29（西）			
272－ＯＷ	2－ＯＷ	55（墓地外）	314－ＯＲ	8－ＯＲ	32			
273－ＯＷ	3－ＯＷ	55（墓地外）	314－ＯＲ	9－ＯＲ	32			
274－ＯＯ	17－ＯＯ	55（墓地外）	314－ＯＲ	10－ＯＲ	32			
275－ＯＳ	5－ＯＳ	55（墓地外）	315－ＯＸ	6－ＯＸ	29（西）			
276－ＯＳ	7－ＯＳ	55（墓地外）	316－ＯＩ	2－ＯＳ	29（東）			
277－ＯＳ	8－ＯＳ	55（墓地外）	317－ＯＺ	3－ＯＺ	29（東）			
278－ＯＳ	9－ＯＳ	55（墓地外）	318－ＯＲ	7－ＯＲ	29（東）			
279－ＯＳ	11－ＯＳ	55（墓地外）	319－ＯＷ	2－ＯＷ	100			
280－ＯＳ	13－ＯＳ	55（墓地外）	320－ＯＳ	1－ＯＳ	100			
281－ＯＳ	14－ＯＳ	55（墓地外）	321－ＯＷ	6－ＯＷ	32			
282－ＯＳ	16－ＯＳ	55（墓地外）	322－ＯＷ	7－ＯＷ	32			

長滝遺跡新旧遺構番号対照一覧表

No. 1

新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区
1－OS	1－OS	61	37－OS南東	4－OS	90	74－OS	23－OS	23
1－OS	2－OS	58	38－OS	8－OS	22	75－OS	24－OS	23
2－OS	1－OS	45	39－OS	9－OS	22	76－OS	25－OS	23
2－OS	1－OS	58	40－OS	10－OS	22	77－OS	27－OS	23
3－OS	3－OS	58	40－OS	2－OS	44	78－OS	28－OS	23
4－OX	4－OX	58	40－OS	2－OS	62	79－OS	30－OS	23
5－OX	5－OX	58	41－OS	3－OS	90	80－OS群	31－OS群	23
6－OX	6－OX	58	41－OS	11－OS	22	81－OP	10－OP	23
7－OX	7－OX	58	42－OS	12－OS	22	82－OP	11－OP	23
8－OX	8－OX	58	43－OS	13－OS	22	83－OP	12－OP	23
9－OX	9－OX	58	44－OS	14－OS	22	84－OP	13－OP	23
10－OX	10－OX	58	45－OS	15－OS	22	85－OP	14－OP	23
11－OX	11－OX	58	46－OX	23－OX	22	86－OP	29－OP	23
12－OX	12－OX	58	47－OX	27－OX	22	87－OX	17－OX	23
13－OX	13－OX	58	48－OO	4－OO	44	88－OX	18－OX	23
14－OW	3－OW	45	49－OO	5－OO	44	89－OS	5－OS	62
15－OS	2－OS	45	50－OS	5－OS	90	90－OW	9－OW	24
16－OS	1－OS	107	50－OS	2－OS	23	91－OW	10－OO	24
17－OS	2－OS	107	50－OS	1－OS	44	92－OW	16－OW	24
17－OS	1－OS	22	51－OS	6－OS	44	93－OW	19－OW	24
18－OS	3－OS	107	52－OS	7－OS	44	94－OO	17－OO	24
19－OS	4－OS	107	53－OS	8－OS	44	95－OO	18－OO	24
20－OW	30－OW	22	54－OS	9－OS	44	96－OO	32－OO	24
21－OO	16－OO	22	55－OW	7－OW	90	97－OO	33－OO	24
22－OO	17－OO	22	56－OS	6－OS	90	98－OO	35－OO	24
23－OO	18－OO	22	57－OW	5－OW	23	99－OP	27－OP	24
24－OO	19－OO	22	58－OW	33－OW	23	100－OP	29－OP	24
25－OO	20－OO	22	59－OO	6－OO	23	101－OP	30－OP	24
26－OO	21－OO	22	60－OO	7－OO	23	102－OP	31－OP	24
27－OO	22－OO	22	61－OO	8－OO	23	103－OP	36－OP	24
28－OO	24－OO	22	62－OO	9－OO	23	104－OP	37－OP	24
29－OO	25－OO	22	63－OO	20－OO	23	105－OB	34－OB	24
30－OO	26－OO	22	64－OO	21－OO	23	106－OR	22－OR	24
31－OO	29－OO	22	65－OO	26－OO	23	106－OR〔109－OWK〕	9－OR	79
32－OS	2－OS	22	66－OO	32－OO	23	107－OR	23－OR	24
33－OS	3－OS	22	67－OS	1－OS	23	108－OX	24－OX	24
34－OS	2－OS	90	68－OS	3－OS	23	109－OX	25－OX	24
34－OS	4－OS	22	69－OS	4－OS	23	110－OS	2－OO	25
35－OS	5－OS	22	70－OS	15－OS	23	110－OS	7－OS	79
36－OS	6－OS	22	70－OS	3－OS	62	111－OS	3－OS	25
37－OS	7－OS	22	71－OS	16－OS	23	112－OX	1－OX	25
37－OS	3－OS	44	71－OS	4－OS	62	113－OO	1－OO	79
37－OS	1－OS	62	72－OS群	19－OS群	23	114－OO	2－OO	79
37－OS南西	1－OS	90	73－OS	22－OS	23	115－OO	3－OO	79

長滝遺跡新旧遺構番号対照一覧表

新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区
116－OO	4－OO	79	154－OP	13－OP	76	189－OR	4－OR	57
117－OS	5－OS	79	155－OW	9－OW	43	189－OR	5－OR	57
118－OS	6－OS	79	156－OW	10－OW	43	189－OR	17－OR	57
119－OS	8－OS	79	157－OO	7－OO	43	189－OR	13－OR	57
120－OR	10－OR	79	158－OO	8－OO	43	189－OR	14－OR	57
121－OL	11－OL	79	159－OO	11－OO	43	189－OR	15－OR	57
121－OL	1－OL	26	160－OO	3－OO	34	189－OR	16－OR	57
121－OL	1－OL	27	160－OO	17－OO	43	189－OR	6－OS	60
121－OL	1－OL	41	161－OW	9－OW	21	189－OR	7－OS	60
121－OL	1－OL	76	162－OW	14－OW	21	189－OR	5－OR	81
121－OL	1－OL	87	163－OW	16－OW	21	189－OR	5－OR谷	82
122－OS	10－OS	26	164－OW	18－OW	21	189－OR	21－OR	105
123－OX	4－OX	26	165－OO	7－OO	34	189－OR南	7－OR	109
123－OX	6－OS	27	166－OL	1－OL	43	189－OR北	6－OR	109
124－OX	5－OX	26	167－OO	3－OO	43	190－OW	2－OW	81
125－OW	2－OW	27	168－OO	4－OO	43	191－OW	3－OW	81
126－OS	7－OS	27	169－OX	西壁落ち込み	92	192－OW	4－OW	81
127－OG	3－OG	27	170－OO	43－OO	46	193－OW	9－OW	57
128－OG	4－OG	27	171－OO	44－OO	46	194－OW	18－OW	57
129－OG	5－OG	27	172－OO	47－OO	46	195－OO	8－OO	57
130－OS	2－OS	87	173－OS	7－OS	46	196－OS	2－OS	57
131－OW	4－OW	41	174－OS	9－OS	46	197－OS	3－OS	57
132－OW	5－OW	41	175－OS	10－OS	46	198－OS	6－OS	57
133－OW	6－OW	41	176－OS	9－OS	11	199－OS	11－OS	57
134－OW	7－OW	41	176－OS	45－OS	46	200－OL	12－OL	57
135－OO	2－OO	41	177－OS	66－OS	46	201－OW	1－OW	82
136－OO	15－OO	41	178－OZ	67～73－OZ	46	202－OW	2－OW	82
137－OO	16－OO(A)	41	179－OZ	74～96－OZ	46	203－OW	3－OW	82
138－OO	16－OO(B)	41	180－OO	8－OO	11	204－OL	4－OL	82
139－OO	16－OO(C)	41	181－OS	1－OS	11	205－OW	4－OW	75
140－OO	16－OO(D)	41	182－OS	2－OS	11	206－OW	5－OW	75
141－OS	8－OS	41	182－OS	7－OS	57	207－OO	2－OO	75
142－OS	21－OS(A)	41	182－OS	2－OS	60	208－OS	1－OS	75
143－OS	21－OS(B)	41	182－OS	3－OS	60	208－OS	15－OS	105
144－OS	21－OS(C)	41	182－OS	1－OS	81	209－OS	3－OS	75
145－OS	21－OS(D)	41	183－OS	4－OS	11	210－OS	23－OS	74
146－OP	26－OP	41	183－OS	4－OS	60	210－OS	4－OS	75
147－OP	27－OP	41	183－OS	5－OS	60	211－OW	7－OW	74
148－OP	28－OP	41	184－OI	3－OI	11	212－OW	8－OW	74
149－OP	29－OP	41	185－OI	5－OI	11	213－OW	17－OW	74
150－OO	4－OO	76	186－OX	6－OX	11	214－OW	29－OW	74
151－OO	9－OO	76	187－OX	10－OX	11	215－OO	3－OO	74
152－OS	8－OS	76	188－OS	1－OS	60	216－OO	4－OO	74
153－OS	12－OS	76	189－OR	1－OS	57	217－OO	5－OO	74

長滝遺跡新旧遺構番号対照一覧表

新番号	旧番号	地区
218－OO	6－OO	74
219－OO	10－OO	74
220－OO	15－OO	74
221－OO	16－OO	74
222－OS	2－OS	74
222－OS	18－OS	105
223－OS	9－OS	74
223－OS	19－OS	105
224－OS	13－OS	74
225－OS	14－OS	74
225－OS	16－OS	105
226－OS	22－OS	74
227－OS	34－OX	74
228－OX	12－OX	74
229－OX	30－OX	74
230－OW	1－OW	105
231－OW	2－OW	105
232－OW	3－OW	105
233－OW	4－OW	105
234－OW	5－OW	105
235－OW	6－OW	105
236－OW	7－OW	105
237－OW	8－OW	105
238－OW	9－OW	105
239－OW	10－OW	105
240－OW	11－OW	105
241－OW	12－OW	105
242－OW	13－OW	105
243－OO	14－OO	105
244－OS	17－OS	105
245－OS	20－OS	105
246－OW	1－OW	109
247－OW	2－OW	109
250－OO	5－OO	109

安松遺跡新旧遺構番号対照一覧表

新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区
1－OW	26－OW	19	28－OZ	23－OZ	18	47－OP	13－OP	110
2－OW	20－OW	19	28－OZ	24－OZ	18	48－OP	14－OP	110
3－OW	11－OW	19	29－OZ	25－OZ	18	49－OP	15－OP	110
4－OW	27－OW	19	29－OZ	26－OZ	18	50－OP	16－OP	110
5－OW	28－OW	19	30－OZ	37－OZ	18	51－OP	17－OP	110
6－OW	29－OW	19	31－OZ	39－OZ	18	52－OP	18－OP	110
7－OW	16－OW	19	32－OZ	10－OZ	18	53－OP	19－OP	110
8－OO	2－OO	19	33－OZ	4－OS	18	54－OP	20－OP	110
9－OO	9－OO	19	33－OZ	5－OS	18	55－OP	21－OP	110
10－OO	33－OO	19	33－OZ	6－OS	18	56－OP	22－OP	110
11－OO	25－OO	19	33－OZ	7－OO	18	57－OP	23－OP	110
12－OO	24－OO	19	33－OZ	8－OO	18	58－OP	24－OP	110
13－OS	1－OS	18	33－OZ	9－OO	18	59－OP	25－OP	110
13－OS	2－OS	18	33－OZ	11－OO	18	60－OP	26－OP	110
13－OS	3－OS	18	33－OZ	12－OO	18	61－OP	27－OP	110
13－OS	10－OS	19	33－OZ	13－OO	18	62－OP	28－OP	110
13－OS	19－OS	86	33－OZ	14－OO	18	63－OW	1－OW	83
14－OS	15－OS	19	33－OZ	15－OS	18	64－OW	2－OW	83
15－OS	8－OS	19	33－OZ	16－OO	18	65－OW	3－OW	83
16－OS	19－OS	18	34－OO	17－OO	18	65－OW	7－OW	86
16－OS	18－OS	19	35－OW	1－OW	110	67－OO	4－OO	83
17－OF	4－OP	19	36－OO	2－OO	110	68－OO	5－OO	83
17－OF	6－OP	19	37－OO	3－OO	110	69－OO	6－OO	83
17－OF	7－OP	19	38－OO	4－OO	110	70－OO	7－OO	83
18－OF	19－OP	19	39－OZ	5－OZ	110	71－OO	8－OO	83
18－OF	17－OP	19	40－OR	33－OR	86	72－OO	9－OO	83
19－OF	31－OP	19	40－OR	6－OR	110	73－OO	10－OO	83
19－OF	30－OP	19	40－OR	1－OS	42	74－OO	11－OO	83
19－OF	35－OP	19	40－OR	2－OR	99	75－OO	12－OO	83
20－OZ	40－OZ	19	40－OR	1－OS	71	76－OO	13－OO	83
21－OZ	39－OZ	19	40－OR西	38－OR	83	77－OO	14－OO	83
22－OZ	38－OZ	19	40－OR西	6－OR	89	78－OO	15－OO	83
23－OZ	37－OZ	19	40－OR西	6－OR	98	79－OO	16－OO	83
24－OZ	36－OZ	18	40－OR中	4－OR	89	80－OO	17－OO	83
24－OZ	36－OZ	19	40－OR中	8－OR	98	81－OO	18－OO	83
25－OF	30－OP	18	40－OR東	37－OR	83	82－OO	19－OO	83
25－OF	31－OP	18	40－OR東	5－OR	89	83－OO	20－OO	83
25－OF	32－OP	18	40－OR東	7－OR	98	84－OO	21－OO	83
25－OF	33－OP	18	41－OP	7－OP	110	85－OO	22－OO	83
25－OF	34－OP	18	42－OP	8－OP	110	86－OO	23－OO	83
26－OF	27－OP	18	43－OP	9－OP	110	87－OS	24－OS	83
26－OF	28－OP	18	44－OP	10－OP	110	88－OS	25－OS	83
26－OF	29－OP	18	45－OP	11－OP	110	89－OS	26－OS	83
27－OZ	21－OZ	18	46－OP	12－OP	110	90－OS	27－OS	83

安松遺跡新旧遺構番号対照一覧表

新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区
91－OS	28－OS	83	135－OI	2－OI	42	169－OR	3－OR	99
92－OS	29－OS	83	136－OW	6－OW	20	169－OW	1－OW	98
93－OS	30－OS	83	137－OS	1－OS	20	170－OS	2－OS	98
94－OS	31－OS	83	138－OS	2－OS	20	171－OS	3－OS	98
95－OZ	32－OZ	83	139－OS	4－OS	20	171－OS	7－OS	71
96－OZ	33－OZ	83	140－OS	2－OS	14	172－OS	4－OS	98
97－OZ	34－OZ	83	140－OS	5－OS	20	173－OZ	5－OZ	98
98－OZ	35－OZ	83	141－OS	7－OS	20	174－OO	3－OO	72
99－OZ	36－OZ	83	142－OS	8－OS	20	175－OO	4－OO	72
100－OW	1－OW	86	143－OS	9－OS	20	176－OO	5－OO	72
101－OW	2－OW	86	144－OS	10－OS	20	177－OS	1－OS	72
102－OW	3－OW	86	145－OS	19－OS	20	178－OW	1－OW	97
103－OW	4－OW	86	146－OS	1－OS	14	179－OW	2－OW	97
104－OW	5－OW	86	146－OS	25－OS	20	180－OS	3－OS	97
105－OW	6－OW	86	147－OZ	24－OZ	20	181－OS	4－OS	97
106－OO	8－OO	86	148－OZ	26－OZ	20	182－OS	5－OS	97
107－OO	9－OO	86	149－OZ	12－OS	20	183－OS	6－OS	97
108－OO	10－OO	86	149－OZ	27－OZ	20	184－OP	7－OP	97
109－OO	11－OO	86	150－OZ	20－OS	20	185－OP	8－OP	97
110－OO	12－OO	86	151－OZ	14－OO	20	186－OP	9－OP	97
111－OO	13－OO	86	151－OZ	15－OO	20	187－OP	10－OP	97
112－OO	14－OO	86	151－OZ	16－OS	20	188－OP	11－OP	97
113－OO	15－OO	86	151－OZ	17－OO	20	189－OW	2－OW	16
114－OO	16－OO	86	151－OZ	18－OS	20	190－OL	3－OL	71
115－OO	17－OO	86	152－OZ	21－OS	20	190－OL	12－OL	111
116－OO	18－OO	86	152－OZ	22－OS	20	190－OL	19－OL	112
117－OS	20－OS	86	152－OZ	23－OS	20	190－OL	1－OL	16
118－OS	21－OS	86	153－OR	3－OS	20	190－OL	1－OL	103
119－OS	22－OS	86	154－OR	11－OO	20	190－OL	1－OL	113
120－OS	23－OS	86	154－OR	13－OS	20	190－OL	1－OL	114
121－OS	24－OS	86	155－OO	16－OO	14	190－OL	1－OL	116
122－OS	25－OS	86	156－OO	11－OO	14	190－OL	1－OL	117
123－OS	26－OS	86	157－OO	12－OO	14	190－OL	1－OL	118
124－OZ	27－OZ	86	158－OO	15－OO	14	190－OL	2－OL	59
125－OZ	28－OZ	86	159－OO	13－OO	14	191－OS	2－OS	71
126－OZ	29－OZ	86	160－OO	2－OO	15	192－OS	4－OS	71
127－OZ	30－OZ	86	161－OO	3－OO	15	193－OB	6－OB	71
128－OZ	31－OZ	86	162－OS	1－OS	15	194－OB	5－OB	71
129－OZ	32－OZ	86	163－OS	1－OS	124	195－OW	1－OW	111
130－OW	3－OW	42	164－OS	2－OS	124	196－OW	2－OW	111
131－OW	4－OW	42	165－OS	1－OS	89	197－OO	3－OO	111
132－OW	5－OW	42	166－OS	2－OS	89	198－OO	4－OO	111
133－OW	6－OW	42	167－OS	3－OZ	89	199－OO	5－OO	111
134－OW	7－OW	42	168－OS	1－OS	99	200－OO	6－OO	111

安松遺跡新旧遺構番号対照一覧表

新番号	旧番号	地区	新番号	旧番号	地区
201－OO	7－OO	111	229－OS	13－OS	112
202－OS	2－OS	73	230－OS	14－OS	112
202－OS	8－OS	111	230－OS	6－OS	113
202－OS	3－OS	123	230－OS	1－OS	53
203－OS	9－OS	111	230－OS	1－OS	54
204－OS	10－OS	111	230－OS	1－OS	59
204－OS	8－OS	112	231－OS	15－OS	112
204－OS	7－OS	113	232－OS	16－OS	112
204－OS	4－OS	54	233－OZ	17－OZ	112
204－OS	4－OS	59	234－OZ	18－OZ	112
205－OZ	11－OZ	111	235－OX	2－OX	114
206－OP	13－OP	111	236－OW	2－OW	116
207－OP	14－OP	111	237－OW	4－OW	113
208－OP	15－OP	111	238－OO	2－OO	113
209－OBa	16－OP	111	239－OO	3－OO	113
209－OBb	17－OP	111	240－OS	5－OS	113
209－OBc	18－OP	111	241－OS	3－OO	54
209－OBd	19－OP	111	241－OS	5－OS	54
209－OBe	20－OP	111	242－OS	2－OS	54
209－OBf	21－OP	111	243－OO	3－OO	59
209－OBg	22－OP	111	244－OS	1－OS	52
209－OBh	23－OP	111	244－OS	3－OS	53
209－OBi	24－OP	111	244－OS	1－OS	51
209－OBj	25－OP	111	244－OS	1－OS	85
210－OP	26－OP	111	245－OX	2－OX	53
211－OP	27－OP	111	246－OO	2－OW	51
212－OP	1－OP	73	247－OS	3－OS	85
213－OB	3－OB	73	248－OX	2－OX	85
214－OO	1－OO	123	249－OW	1－OW	50
215－OS	2－OS	123	250－OO	2－OW	50
216－OO	2－OO	117	251－OS	4－OS	50
217－OW	2－OW	118	251－OS	3－OS	119
218－OW	1－OW	112	252－OX	3－OX	50
219－OW	2－OW	112	253－OW	1－OW	119
220－OS	3－OS	112	254－OW	2－OW	119
221－OS	1－OS	70	255－OW	1－OW	84
221－OS	4－OS	112	256－OX	3－OX	121
222－OS	5－OS	112	256－OX	1－OX	125
223－OS	6－OS	112	257－OW	1－OW	120
224－OS	7－OS	112	258－OZ	2－OZ	120
225－OS	9－OS	112	259－OW	1－OW	121
226－OS	10－OS	112	260－OW	2－OW	121
227－OS	11－OS	112	261－OW	2－OW	48
228－OS	12－OS	112	262－OS	1－OS	48

目　　次

巻頭図版

1　植田池遺跡、長滝遺跡、安松遺跡全景航空写真

2　上：植田池遺跡旧長滝墓地域全景

　下：植田池遺跡36区124－ＯＵ棺内副葬品出土状況

3　上：長滝遺跡27区125－ＯＷ全景

　下：長滝遺跡27区125－ＯＷ井筒内遺物出土状況

4　上：安松遺跡73区213－ＯＢ全景

　下：安松遺跡73区212－ＯＰ内遺物出土状況

序　　文　　大阪府教育委員会

序　　文　　㈶大阪府文化財調査研究センター

例　　言

凡　　例

植田池遺跡新旧遺構一覧表

長滝遺跡新旧遺構一覧表

安松遺跡新旧遺構一覧表

本　文　目　次

第１章　調査の経過および遺跡の位置と環境 …… 1

　第１節　調査の経過 ……（山本）…… 1

　第２節　遺跡の位置と環境 ……（仁木）…… 2

第２章　調査区の設定と基本層序 …… 5

　第１節　調査区の設定 ……（辻本）…… 5

　第２節　基本層序 ……（駒井）…… 7

第３章　植田池遺跡の調査 …… 9

　第１節　各地区の位置と層序および検出遺構 …… 9

　　第１項　38・39・40（６区含む）……（田中）…… 9

第2項　67・68・69区 …… (田中) …… 15
第3項　66区 …… (仁木) …… 20
第4項　12・93（13区含む）・94区 …… (仁木) …… 21
第5項　4区 …… (仁木) …… 27
第6項　101・104（5区含む）・126区 …… (松岡) …… 29
第7項　56区 …… (三宅) …… 31
第8項　102・115（17区含む）区：旧長滝墓地域含む …… (仁木) …… 31
第9項　29・30・32・100、旧長滝墓地域内31（7・8区含む）・36（1～3区含む）・37・95・96区 …… (仁木・乾) …… 34
第10項　55区 …… (服部) …… 92
第2節　出土遺物 …… (仁木) …… 94
第4章　長滝遺跡の調査 …… 97
第1節　各地区の位置と層序および検出遺構 …… 97
第1項　61区 …… (松岡) …… 97
第2項　107区 …… (松岡) …… 98
第3項　90区 …… (松岡) …… 99
第4項　22・23・44・45・58・(62区含む) …… (田中) …… 100
第5項　24・25（9区含む）区 …… (松岡) …… 116
第6項　79区 …… (三宅) …… 119
第7項　26・27（10区含む）・28・35・41・76・77・87区 …… (松岡) …… 122
第8項　21・34・43・78区 …… (松岡) …… 130
第9項　33・47・64・65・91・92・108・122区 …… (松岡) …… 134
第10項　11・46区 …… (服部・仁木) …… 136
第11項　74区 …… (服部) …… 139
第12項　57・60・63・75・80～82区 …… (仁木) …… 141
第13項　105区 …… (三宅) …… 151
第14項　109区 …… (三宅) …… 156
第2節　出土遺物 …… (仁木) …… 158
第5章　安松遺跡の調査 …… 179
第1節　各地区の位置と層序および検出遺構 …… 179

第1項　18・19区 …… （仁木） …… 179
第2項　83区 …… （三宅） …… 186
第3項　86区 …… （三宅） …… 193
第4項　110区 …… （三宅） …… 200
第5項　42区 …… （駒井） …… 204
第6項　14・15・20区 …… （仁木） …… 205
第7項　89区 …… （三宅） …… 209
第8項　97区 …… （三宅） …… 211
第9項　98区 …… （三宅） …… 214
第10項　99区 …… （三宅） …… 216
第11項　70～73区 …… （駒井） …… 218
第12項　111区 …… （三宅） …… 220
第13項　112区 …… （三宅） …… 226
第14項　123区 …… （辻本） …… 231
第15項　124区 …… （辻本） …… 232
第16項　16・103・113・114・116～118区 …… （辻本） …… 233
第17項　52～54・59区 …… （駒井） …… 237
第18項　48～51・84・85・88・106・119～121・125区 …… （辻本） …… 238
第2節　出土遺物 …… （仁木） …… 244
第6章　検出遺構と出土遺物の検討 …… 251
第1節　旧長滝墓地の遺構と遺物 …… 251
第1項　遺構と遺物 …… （仁木） …… 251
第2項　旧長滝墓地に伴う瓦 …… （駒井） …… 307
第2節　長滝・安松遺跡出土の石器 …… （光石） …… 311
第3節　検出した神社・池跡遺構 …… （仁木） …… 339
第7章　安松遺跡における花粉分析 …… （川崎地質株式会社　渡辺正巳） …… 343
第8章　旧長滝墓地遺構から出土した人骨について
（大阪市立大学　嶋田武男　安部みき子） …… 349
第9章　まとめ …… （松岡） …… 375

挿　図　目　次

第1図　周辺の遺跡分布図 …… 3
第2図　地形分類図 …… 4
第3図　調査区設定図 …… 6
第4図　基本層序概略図 …… 7
植田池遺跡
第5図　38～40区概略図 …… 9
第6図　67～69区概略図 …… 16
第7図　66区概略図 …… 20
第8図　66区基本層序図 …… 21
第9図　12・93（13区含む）・94・101（4区含む）区概略図 …… 22
第10図　12区基本層序図 …… 23
第11図　12区236－OO平面・断面図 …… 23
第12図　94区基本層序図・263－OX断面図 …… 26
第13図　4区検出遺構配置図 …… 27
第14図　4区267－OI（石垣）立面・断面図 …… 28
第15図　101（4区含む）・104（5区含む）・126区概略図 …… 30
第16図　101区270－OS断面図 …… 30
第17図　56区概略図 …… 31
第18図　56区基本層序図 …… 31
第19図　102・115（17区含む）区概略図 …… 32
第20図　102・115（17区含む）区基本層序図 …… 32
第21図　29区基本層序図 …… 34
第22図　29・30・32・100区概略図 …… 35
第23図　29区310－OW・312－OS・314－OR断面図 …… 36
第24図　29区311－OW・313－OS・315－OX断面図 …… 37
第25図　30区基本層序図 …… 38
第26図　32区基本層序図 …… 40
第27図　32区321・322－OW断面図 …… 40
第28図　32区1・323・324－OS断面図 …… 41
第29図　100区基本層序図 …… 42
第30図　（写真）慰霊祭風景 …… 42
第31図　31（7.8区含む）・36（1～3区含む）・37・95・96区概略図 …… 43
第32図　31区基本層序図 …… 44
第33図　36区基本層序図 …… 44
第34図　37区南半部上層遺構概略図 …… 45
第35図　37区西壁・南壁・南斜面整地土断面図 …… 46
第36図　旧長滝墓地内遺構（墓壙）配置図 …… 48
第37図　31区1－OS断面図 …… 49
第38図　36区3－OS断面図 …… 49
第39図　旧長滝墓地域内37区南半部上層遺構配置図 …… 50
第40図　36区8－OW平面・立面図 …… 51
第41図　1区（36区内）10－OW、48－OO、97－OU、178－OI平面・断面図 …… 53
第42図　31区20・21・23－OO、168－OL断面図 …… 54
第43図　37区25～28－OO平面・立面図 …… 56
第44図　31区62・72－OU平面・立面図 …… 60
第45図　31区65・66・68－OU平面・立面図 …… 61・62
第46図　31区83～85－OU平面・立面図 …… 65
第47図　31区87－OU平面・立面図 …… 66
第48図　31区90～96－OU平面・立面図 …… 67・68
第49図　36区101・104－OU平面・立面図 …… 70
第50図　36区108・120－OU平面・立面図 …… 72
第51図　36区112～114－OU平面・立面図 …… 73
第52図　36区122～124－OU平面・立面図 …… 74
第53図　36区124－OU木棺内検出状況 …… 75
第54図　37区137－OU平面・立面図 …… 78
第55図　37区162－OB、167－OC平面・断面図 …… 79・80
第56図　37区164・165－OB断面図 …… 82
第57図　31区169－OX平面・立面図 …… 84
第58図　36区173－OX平面・断面図 …… 86
第59図　36区174－OX平面・立面図 …… 88
第60図　37区179－OK全体図 …… 90
第61図　37区179－OK窯体実測図、遺物出土状況図 …… 91
第62図　55区概略図 …… 93
第63図　55区271－OW・286－OX断面図 …… 93
第64図　植田池遺跡遺構出土遺物（1） …… 95

第65図　植田池遺跡遺構出土遺物（2）…… 96
第66図　植田池遺跡包含層出土遺物 …… 96
長滝遺跡
第67図　61・90・107区概略図 …… 97
第68図　107区16・18・19－OS断面図 …… 98
第69図　90区50・56－OS断面図 …… 99
第70図　22・23・44・45・58・62区概略図 …… 100
第71図　24・25（9区含む）区概略図 …… 117
第72図　24区105－OB柱穴群検出状況図 …… 118
第73図　79区概略図 …… 119
第74図　79区基本層序図 …… 119
第75図　79区113・114－OO、110－OS、106－OR
断面図 …… 120
第76図　26・27（10区含む）・28・35・41・76・77・
87区概略図 …… 123
第77図　41区136～140－OO平面・断面図 …… 125
第78図　27区127～129－OG断面図 …… 127
第79図　27区125－OW平面・断面図 …… 128
第80図　41・76区142～145－OS平面図 …… 129
第81図　41・76区柱穴群平面図 …… 130
第82図　21・34・43・78区概略図 …… 131
第83図　43区160－OO平面・断面図 …… 134
第84図　33・47・64・65・91・92・108・122区概略図
…… 135
第85図　11・46区概略図 …… 136
第86図　46区基本層序図 …… 137
第87図　46区175～177－OS・172－OO断面図 …… 137
第88図　11区186－OX平面・断面図 …… 138
第89図　74区概略図 …… 139
第90図　74区基本層序図 …… 140
第91図　74区224－OS、220・221－OO断面図 …… 140
第92図　74区213－OW平面・断面図 …… 141
第93図　57・60・63・75・80～82区概略図 …… 142
第94図　57区基本層序図 …… 143
第95図　60区基本層序図 …… 143
第96図　75区基本層序図 …… 143
第97図　82区基本層序図 …… 144
第98図　57区谷部断面図 …… 145
第99図　60区182－OS断面図 …… 146
第100図　60区188－OS断面図 …… 146
第101図　81区189－OR谷部中央・182－OS・
190－OW断面図 …… 147
第102図　57区189－OR、196・197－OS断面図 …… 148
第103図　75区208－OS断面図 …… 149
第104図　57区251－OW平面・立面図 …… 151
第105図　105・109区概略図 …… 152
第106図　105区基本層序図 …… 152
第107図　109区基本層序図 …… 156
第108図　長滝遺跡遺構出土遺物（1）…… 159
第109図　長滝遺跡遺構出土遺物（2）…… 161
第110図　長滝遺跡遺構出土遺物（3）…… 162
第111図　長滝遺跡遺構出土遺物（4）…… 163
第112図　長滝遺跡遺構出土遺物（5）…… 165
第113図　長滝遺跡遺構出土遺物（6）…… 166
第114図　長滝遺跡遺構出土遺物（7）…… 168
第115図　長滝遺跡遺構出土遺物（8）…… 169
第116図　長滝遺跡遺構出土遺物（9）…… 170
第117図　長滝遺跡遺構出土遺物（10）…… 171
第118図　長滝遺跡遺構出土遺物（11）…… 172
第119図　長滝遺跡遺構出土遺物（12）…… 173
第120図　長滝遺跡遺構出土遺物（13）…… 175
第121図　長滝遺跡遺構出土遺物（14）…… 176
第122図　長滝遺跡遺構出土遺物（15）…… 177
第123図　長滝遺跡包含層出土遺物 …… 177
安松遺跡
第124図　18・19区概略図 …… 179
第125図　18区基本層序図 …… 180
第126図　19区基本層序図 …… 180
第127図　19区4－OW断面図 …… 181
第128図　19区5－OW平面・立面図 …… 182
第129図　19区7－OW、9－OO、16－OS
平面・断面図 …… 184
第130図　83・86・110区概略図 …… 186
第131図　83区基本層序図 …… 186
第132図　83区64－OW断面図 …… 187
第133図　83区40－OR西側断面図 …… 193
第134図　86区基本層序図 …… 193
第135図　86区100・102～105－OW断面図 …… 195
第136図　86区40－OR断面図 …… 199
第137図　110区基本層序図 …… 201

第138図　110区40－ＯＲ断面図 …… 202
第139図　42区概略図 …… 204
第140図　42区135－ＯＩ立面図 …… 204
第141図　14・15・20区概略図 …… 205
第142図　89区概略図 …… 209
第143図　89区基本層序図 …… 209
第144図　97～99区概略図 …… 211
第145図　97区基本層序図 …… 212
第146図　98区基本層序図 …… 214
第147図　98区169－ＯＷ断面図 …… 215
第148図　99区基本層序図 …… 216
第149図　99区40－ＯＲ断面図 …… 217
第150図　70～73区概略図 …… 218
第151図　71区193－ＯＢ平面・断面図 …… 219
第152図　71区194－ＯＢ平面・断面図 …… 220
第153図　73区213－ＯＢ平面・断面図 …… 221
第154図　73区212－ＯＰ平面・立面図 …… 222
第155図　111・112区概略図 …… 222
第156図　111区基本層序図 …… 223
第157図　112区基本層序図 …… 226
第158図　112区204・221・223・230－ＯＳ断面図 …… 228
第159図　123区概略図 …… 231
第160図　124区概略図 …… 232
第161図　16・103・113・114・116～118区概略図 …… 233
第162図　116区基本層序図 …… 234
第163図　三ヶ尻池位置図 …… 235
第164図　52～54・59区概略図 …… 237
第165図　48～51・84・85・88・106・119～121・125区
概略図 …… 239
第166図　120区基本層序図 …… 239
第167図　121区259－ＯＷ断面図 …… 240
第168図　50区249－ＯＷ・250－ＯＯ、51区246－ＯＯ
平面・立面図 …… 241
第169図　安松遺跡近代遺構概要図 …… 242
第170図　安松遺跡時期不明遺構概要図 …… 244
第171図　安松遺跡遺構出土遺物（1） …… 245
第172図　安松遺跡遺構出土遺物（2） …… 246
第173図　安松遺跡包含層出土遺物（1） …… 247
第174図　安松遺跡包含層出土遺物（2） …… 248

検出遺構と出土遺物の検討

第175図　（写真）現在の長滝墓地に移築された「お堂」
…… 252
第176図　（写真）現在の長滝墓地「礼場」 …… 252
第177図　（写真）現在の長滝墓地無縁塔群 …… 252
第178図　旧長滝墓地周辺水利図 …… 253
第179図　長滝村極楽寺三昧境内図 …… 253
第180図　旧長滝墓地整地土出土遺物（1） …… 258
第181図　旧長滝墓地整地土出土遺物（2） …… 259
第182図　旧長滝墓地整地土出土遺物（3） …… 260
第183図　旧長滝墓地整地土出土遺物（4） …… 261
第184図　旧長滝墓地整地土出土遺物（5） …… 261
第185図　旧長滝墓地整地土出土遺物（6） …… 262
第186図　旧長滝墓地整地土出土遺物（7） …… 263
第187図　旧長滝墓地遺構出土遺物（1） …… 263
第188図　旧長滝墓地遺構出土遺物（2） …… 264
第189図　旧長滝墓地遺構出土遺物（3） …… 265
第190図　旧長滝墓地遺構出土遺物（4） …… 266
第191図　旧長滝墓地墓壙出土遺物（1） …… 269
第192図　旧長滝墓地墓壙出土遺物（2） …… 270
第193図　旧長滝墓地墓壙出土遺物（3） …… 271
第194図　旧長滝墓地出土飾り金具拓影 …… 273
第195図　旧長滝墓地整地土（炭層含む）出土
各種渡来銭・寛永通宝拓影 …… 274
第196図　旧長滝墓地整地土（炭層含む）出土
各種近代銭拓影 …… 275
第197図　旧長滝墓地墓壙出土銭貨拓影 …… 275
第198図　旧長滝墓地出土煙管（1） …… 276
第199図　旧長滝墓地出土煙管（2） …… 277
第200図　旧長滝墓地出土石塔（1） …… 279・280
第201図　旧長滝墓地出土石塔（2） …… 281
第202図　旧長滝墓地墓壙出土釘 …… 292
第203図　長滝遺跡石器出土調査区 …… 312
第204図　長滝遺跡41・76区石器分布図 …… 314
第205図　長滝遺跡41・76区器種別石器分布図 …… 315
第206図　長滝遺跡出土の石器（1） …… 317
第207図　長滝遺跡出土の石器（2） …… 318
第208図　長滝遺跡出土の石器（3） …… 320
第209図　長滝遺跡出土の石器（4） …… 321
第210図　長滝遺跡出土の石器（5） …… 323

第211図　長滝遺跡出土の石器（6）…… 324
第212図　長滝遺跡出土の石器（7）…… 325
第213図　長滝遺跡出土の石器（8）…… 326
第214図　長滝遺跡出土の石器（9）…… 326
第215図　安松遺跡石器出土調査区　…… 328
第216図　安松遺跡出土の石器（1）…… 330
第217図　安松遺跡出土の石器（2）…… 331
第218図　日根郡長滝村水利図　…… 340
第219図　日根郡佐野村水利図　…… 342
第220図　「佐野村水利絵図」　…… 342

表　目　次

第1表　旧長滝墓地検出墓壙楠形座棺法量表 …… 256
第2表　旧長滝墓地検出墓壙箱形座棺法量表 …… 256
第3表　石造物点数表 …… 278
第4表　組合せ式五輪塔点数表 …… 278
第5表　組合せ式五輪塔空風輪法量表 …… 278
第6表　組合せ式五輪塔火輪法量表 …… 278
第7表　組合せ式五輪塔水輪法量表 …… 278
第8表　組合せ式五輪塔地輪法量表 …… 278
第9表　組合せ式五輪塔台座法量表 …… 278
第10表　一石五輪塔地輪法量表 …… 278
第11表　旧長滝墓地検出墓壙一覧表 …… 286
第12表　旧長滝墓地検出墓壙出土釘点数一覧表 …… 292
第13表　旧長滝墓地出土飾り金具一覧表 …… 293
第14表　旧長滝墓地出土銭貨一覧表 …… 294～296
第15表　旧長滝墓地出土煙管一覧表 …… 297
第16表　一石五輪塔一覧表 …… 298～303
第17表　組合せ式五輪塔一覧表 …… 304・305
第18表　石仏・塔婆・台座他一覧表 …… 306
第19表　長滝遺跡調査区別石器組成表 …… 312
第20表　安松遺跡調査区別石器組成表 …… 328
第21表　出土石器一覧表 …… 335～338

付　図　目　次

1　植田池遺跡遺構配置図
2　長滝遺跡遺構配置図
3　安松遺跡遺構配置図
4　旧長滝墓地域遺構配置図

第１章　調査の経過および遺跡の位置と環境

第１節　調査の経過

４工区の本格的な調査は事業者の強い要望もあり平成元年度から開始した。事業者の用地買収の遅れにより発掘調査体制との不整合が生じた結果、広い面積の調査が困難な状況となる。暫定的な処置として、ごく狭い面積の調査を実施したり、未買収地の地権者の同意のもと借地をして調査を実施することとなる。

これらの場合でも調査区周辺が未買収地であり、調査用の進入路確保は困難で、通常の発掘調査のように機械による表土の掘削は実施できず、すべて人力掘削というように極めて効率の悪い発掘調査となり、まさに「労多くして効少なし」の感がある。

平成２年度は、本格的に買収が行われるとのことであったので調査を担当する職員も前年度の３名から９名に増員し体制を整えることとなったが、事業者による用地買収が当初の計画通りには進まず、筆ごとの買収を待って調査に入ることとなった。この傾向は調査の終了まで続くこととなる。

以上のような形態を取りながらも、用地買収は比較的進歩を見せ調査用の進入路や残土の仮置き場所も確保することができるようになり、人海戦術も相俟って発掘調査終了面積は大幅に増大していくこととなった。

一方、発掘調査の終了面積の増大に伴い、平成２年度の後半からは道路本体部分の橋脚の工事が始まることになったことから、工事との工程調整が必要となり発掘調査以外の協議事項が増加することとなる。これに伴い、当然のことではあるが残土の仮置き場所の確保に問題が生じることとなり、相当離れた場所に残土の仮置きを行ったこともあった。

また、同時期頃から事業者との協議の結果、本体工事に合わせた調査地の優先順位が付けられることとなり、以後優先順位に基づいて調査を実施して行くこととなった。

平成３年度の調査は、基本的に平成２年度の協議内容を踏まえ、用地買収の進捗状況と残りの調査面積を勘案した結果、調査担当技師５名の体制とし年度内の調査の終了をめざすが、用地買収の関係から一部地域は平成４年度に調査を実施することとなる。

平成４年度の調査は、調査担当職員２名の体制で実施し平成５年３月25日に現地におけるすべての調査を終了することとなった。

第2節　遺跡の位置と環境

遺跡の所在する泉佐野市は大阪府の南西部に位置している。市域の南東部は和泉山脈の分水嶺と接する標高400～500mの山々によって構成される基盤山地と標高200～300mの丘陵、中央部は洪積段丘中位面と樫井川沿いの氾濫原及び谷底低地の平野、北西部は大阪湾に面する海沿いの低地平野に分かれる。

大阪府文化財地名表（1990年3月・大阪府教育委員会）によれば、植田池遺跡は泉佐野市長滝・日根野に所在する。遺跡は東西1100m、南北600mの範囲とされ、中世集落跡として周知されている。長滝遺跡は泉佐野市長滝に所在する。遺跡は東西240m、南北760mの範囲とされ、中世集落跡・遺物散布地として周知されている。安松遺跡は泉佐野市安松に所在する。遺跡は東西200m、南北500mの範囲とされ、中世集落跡・遺物散布地として周知されている。いずれの遺跡も洪積段丘中位面に位置しており、空港連絡道路の建設に先立つ当該路線地区の遺跡分布調査により確認されたものである。[1]

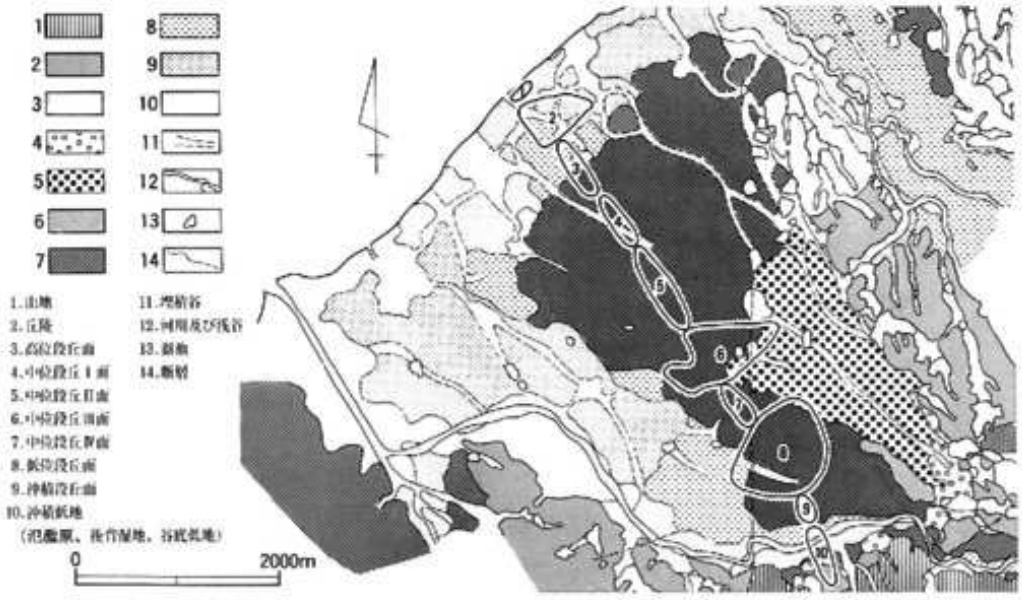
旧石器時代のナイフ形石器は湊遺跡、三軒屋遺跡、郷之芝遺跡や長滝遺跡で出土している。[2] 縄文時代晩期には樫井川右岸沿いの沖積段丘上から洪積段丘にまたがる三軒屋遺跡内に集落が存在したようで、集落の境界と思われる溝や石器製作の作業場などが確認されている。[3] 洪積段丘面の内陸にも上之郷遺跡が出現する。樫井川対岸のフキアゲ山東遺跡や佐野川沿いの上町東遺跡のように洪積段丘面と沖積段丘面との変換点付近にも遺跡の出現をみる。

弥生時代には縄文後期から続く三軒屋遺跡のほかに道ノ池遺跡、夫婦池遺跡、[4] 船岡山遺跡や[5]三軒屋遺跡のすぐ北側に諸目遺跡などが出現する。いずれも旧樫井川沿いの沖積段丘面と洪積段丘面に立地する。弥生時代後半には棚原遺跡のように丘陵上にも小規模な集落が営まれていたようである。[6]

古墳時代には弥生時代と同じく三軒屋遺跡、船岡山遺跡、諸目遺跡など旧樫井川沿いに集落が営まれていたようである。羽倉崎遺跡では製塩土器が採集されている。湊遺跡、松原遺跡でも[7]製塩土器が出土しており、製塩炉の出土はないが出土状況やその量から製塩専業集落の存在した可能性がある。古墳は洪積段丘上に立地する城の塚古墳が周知されている。樫井川左岸の基盤山地上に鏡塚古墳が立地するほか、三軒屋遺跡付近の樫井川左岸の洪積段丘面や丘陵に兎田古墳群、新家古墳群などが立地しており、墓域と集落の関係が注目される。最近では三軒屋遺跡内でも一辺約15～20m規模の方墳数基（5世紀後半）が確

1　松原遺跡
2　中開遺跡
3　末廣遺跡
4　安松遺跡
5　長滝遺跡
6　植田池遺跡
7　郷之芝遺跡
8　日根野遺跡
9　机場遺跡
10　鞆原遺跡
11　羽倉崎遺跡
12　羽倉崎東遺跡
13　葛祥神社本殿
14　吉見藩陣屋跡
15　船岡山遺跡A・B・C地点
16　岡本廃寺
17　田尻遺跡
18　夫婦池遺跡
19　樫井西遺跡
20　船岡山南遺跡
21　藤波遺跡
22　樫井城跡
23　奥家住宅
24　岡ノ崎遺跡
25　道ノ池遺跡
26　中萬蒲遺跡
27　岸ノ下遺跡
28　諸目遺跡
29　城ノ塚古墳
30　ダイジョウ寺跡
31　禅興寺跡
32　三軒屋遺跡
33　兎田古墳群
34　フキアゲ山東遺跡
35　フキアゲ山１号墳
36　フキアゲ山２号墳
37　新家古墳群
38　新家オドリ山南遺跡
39　フキアゲ山西遺跡
40　引谷池窯跡
41　新家オドリ山東遺跡
42　下村１号墳
43　下村２号墳
44　新家オドリ山遺跡
45　新家遺跡
46　向井山遺跡
47　一丘神社遺跡
48　海会寺跡
49　厩戸王子跡
50　北野遺跡
51　海宮宮池遺跡
52　弧池遺跡
53　向井代遺跡
54　意賀美神社本殿
55　向井池遺跡
56　上之郷牛神
57　港遺跡
58　檀波羅蜜寺跡
59　檀波羅遺跡
60　佐野王子跡
61　山出遺跡
62　中嶋遺跡
63　岡口遺跡
64　小塚遺跡
65　十二谷遺跡
66　丁田遺跡
67　大坪遺跡
68　北庄司邸の樟
69　宮ノ前遺跡
70　野々宮遺跡
71　総福寺鎮守天満宮本殿
72　垣外遺跡
73　川原遺跡
74　向井山遺跡
75　母山遺跡
76　母山近世墓地
77　梨谷遺跡

第１図　周辺の遺跡分布図　Ｓ＝１／40000



第２図　地形分類図　Ｓ＝１／80000

（註）豊田兼典氏作成の地形分類図を基に作成した。
遺跡名は第１図を参照されたい。

認されており、樫井川右岸の平野部にも存在[8]することが確認されている。

歴史時代には古代寺院として存在した可能性の高い禅興寺のほか岡本廃寺、ダイジョウ寺などの寺院が出現をみる。樫井川沿いの沖積段丘面では条里制の土地区割[9]が現われる。中世には中世の日根荘の姿を現代に伝える日根野遺跡が成立し、洪積段丘面の開発が行われる。『和泉国日根野村絵図』（正和５年）には当時のようすが描かれており、洪積段丘面と思われる絵図の中央部分は『荒野』の文字が見られ、まだ広範囲の開発が進んでいないことをうかがわせるが、『古作』の文字も見られることより、水利条件の良好な場所については拠点的な開発が先駆的に行われていたようである。室町時代後半には、守護細川氏などの武士の侵入を受けて、荘園が機能しなくなっていたと思われる。

註

１）空港連絡道路・空港連絡鉄道予定地内「埋蔵文化財分布調査概要」　1985.3
大阪府教育委員会
２）泉佐野の歴史と文化財　第２集「泉佐野の遺跡」－原始・古代編－　1993.3.31
泉佐野市教育委員会
３）「泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要・Ｖ」　1985.3　泉佐野市教育委員会
４）「夫婦池遺跡発掘調査報告書」－市営住宅建築に伴う調査－　1986.3
泉佐野市教育委員会
５）「船岡山遺跡Ｂ地点発掘調査報告書」84－３区の調査　1985.2
泉佐野市教育委員会
６）空港連絡道路の調査でも竪穴式住居が検出された（報告書未刊行）。
７）空港連絡道路の調査で検出された（報告書未刊行）。
８）「三軒屋・諸目遺跡発掘調査概要」　1992.3　泉佐野市教育委員会
「三軒屋遺跡」　92－９区の調査　1993.3　泉佐野市教育委員会
９）「泉佐野市史」　復刻版　S55.12.01　復刻　泉佐野市役所

第２章　調査区の設定と基本層序

第１節　調査区の設定

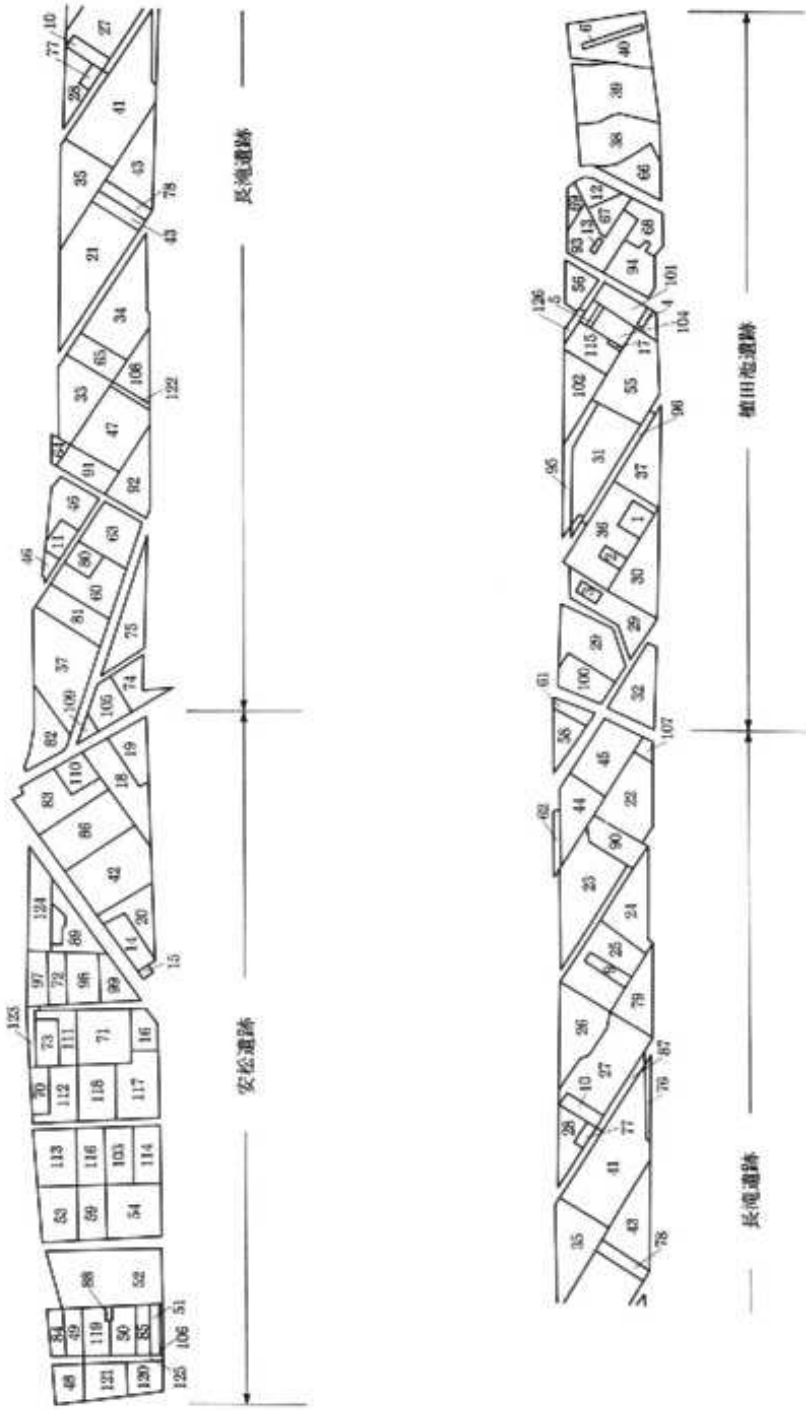
当工区における調査は、全長約２㎞、面積約20万㎡が対象となるものである。そこには大阪府教育委員会により一応植田池遺跡、長滝遺跡、安松遺跡の三遺跡が登録されている。しかしこの三遺跡の実態ははっきりしておらず、また実際の調査は、用地買収が完了し、ある程度まとまった面積を確保できた所から順番に調査に掛かっていくやり方をとらざるを得なかったので、登録された三遺跡の区別を考慮することは不可能であった。したがって、当工区では調査に入っていった順番に調査区のナンバーを設定した。調査区名の数字がアトランダムに並ぶ様相を呈するのは、このような事情によるものである。ところが調査にかかる予定でナンバーを付けても、地権者や事業者等の都合により、すぐには調査できなかった所も多く、調査区の数字がそのまま実際に調査に入っていった順番を表すとは限られるものではない。

なお旧協会の調査規程によれば、地区割方法は2500分の１の新版大阪府都市計画図に基づき、500m、100m、４mの区画に英数字の記号を付けるものであるが、当工区はこの区画に対し斜めに走り、しかも長大な形状の調査対象地であるので、かかる区画による記号表記を現地調査で使用することは混乱を招くことが予想された。したがって、当工区の調査における地区割は旧協会の調査規程に基づかず、また本報告書作成にあたっても規程の地区割は考慮されていないことを、あらかじめお断りしたい。

検出遺構の表現は例言に記した。現地調査では各調査区ごとに１番から順次遺構番号を付した。結果的に調査区内の遺構の総点数を示すのみで、隣接調査区との関連性や遺跡間の関連性など一貫性を欠く結果となっている。

報告書作成にあたっては煩雑さを避けるため、最低限遺跡ごとの遺構番号の整理・統一が必要との判断から、南側の調査地区から新たに新番号を付している。新番号は基本的に掲載遺構のみ番号を付したが、掲載遺構との関連を考えて番号を付したものもある。植田池遺跡については旧長滝墓地域を囲む結界溝内の遺構を優先し番号を付した。

なお基本的な整理は旧番号で行われているので、遺跡ごとの新旧遺構番号の対照は新旧遺構番号対照表を参照願いたい。



第 3 図　調査区設定図

第２節　基本層序

植田池・長滝・安松遺跡の位置するところは、先の大戦時旧陸軍明野飛行学校佐野分校飛行場建設により一帯は均一化された。現在においても、当時の地割は明瞭に確認することができるが、言い換えれば、当地域の歴史上最大規模の土地改変が行われたことを示している。今日、目のあたりにする整然とした田園風景は、それによるところが大きい。

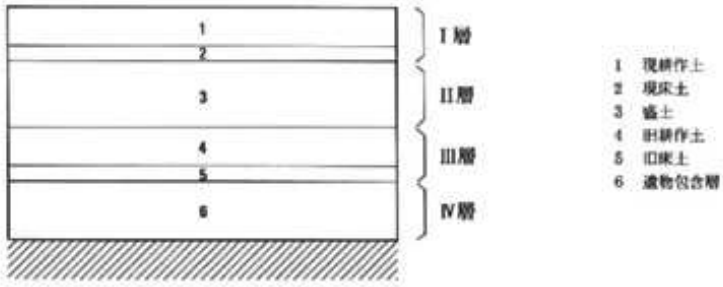
以下、調査区における基本層序を記述するが、個々の調査区の様相を述べるとかえって煩雑になるので、最大公約数的な概略を述べるにとどめる。なお個別的特徴については、それぞれの調査成果の項を参照されたい。

さてこの一連の改変行為は、土中に埋もれた遺構・遺物のみならず、遺物包含層にもかなりの悪影響を与えているものと予想された。事実、調査区内の土層堆積を観察すると、ほとんど例外なく現耕作土・床土層（Ⅰ層）の下に盛土（Ⅱ層）と思われる土層を確認した。盛土層の厚みは、それ以前の地盤高に規制されているため、一定ではない。この盛土層が、先述の飛行場建設と密接な関係があると指摘することに異論はない。しかし、敗戦後に施された盛土の存在を否定することはできない。

盛土層下層には、所々で旧耕作土層や旧床土層（Ⅲ層）が堆積する。これらを観察すると、均された部分や畦状を呈する部分があり、水田・畑地として利用されていたことを窺い知ることができる。とともに、そのような状況は急いで盛土を施したことを物語っており、飛行場建設が逼迫した状況下で実施されたことを彷彿させる。

遺物包含層（Ⅳ層）は、調査区全域で必ずしも確認できたわけではない。むしろ存在を確認できなかったところの方が多かった。また堆積した包含層が、いつ形成されたのかについても場所によって異なる。詳細は個別調査成果によられたい。

地山は、植田池・長滝遺跡の大半が礫混じり層で、安松遺跡はシルト質層であった。



第４図　基本層序概略図

第３章　植田池遺跡の調査

第１節　各地区の位置と層序および検出遺構

第１項　38・39・40（６区含む）（第５図、図版６・133）

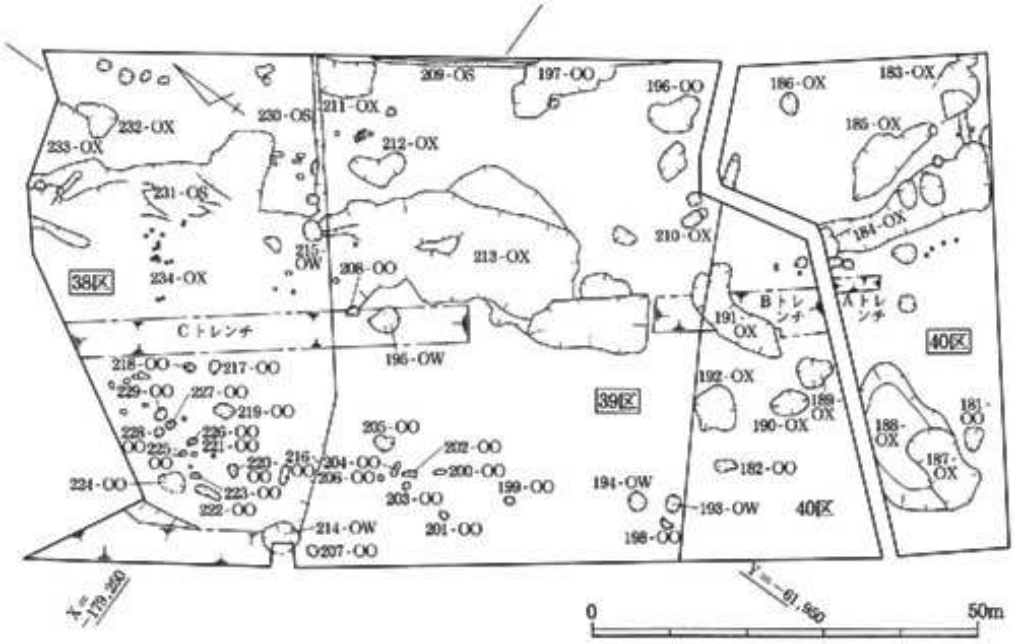
４－38・39・40区の調査

１　位置と層序

位置と経過

調査地は、植田池遺跡南辺の大Ｃ３－２Ｅ11・12・16・17に位置し、府道を挟んで３工区、水路を挟んで４－66区に隣接する。

４－40区の調査区内には、先行して調査が実施された４－６区が、調査地内に包括される。現状は畑地と水田・植木畑地の荒れ地で、現代の水田地割り７枚が対象であった。調査面積は約7,860㎡。４工区遺跡調査の中で、唯一、戦時中に存在した「佐野飛行場用地」の外にあたり、現在の地割りは、近代の地割りを踏襲してきたものである。調査区が比較的



第５図　38～40区概略図

大きいので、進入路と土砂置場との関係で、南北方向に縦割りする反転掘りの方法をとった。

調査は、西調査区を1990年９月８日より10月20日まで実施し、埋め戻しを待って、東調査区を11月５日から12月14日に実施した。平面図の作成は、２回のクレーンを用いた写真測量図化によった。

層序

現標高はT.P.＋29.55～28.65mを測る。地山面はT.P.＋28.90～27.04m。G区南端との比高差は約1.8mである。１層（蜜柑畑造成に伴う盛り土層）・２層（現水田耕作土と元の耕土・床土層）・３層（近世～近代の旧耕作土層）・４層（耕土以外の自然堆積層）・５層（大阪層群の地山層）に大別される。５層地山は黄橙・灰黄色粘土とその下のシルト質の緑灰色砂層・段丘礫層に分けられる。

１層（盛り土）地山土混じりの浅黄色土を基本とする蜜柑畑の盛り土層、約30～20cm。株掘り方の新旧の攪乱があった。

２層（元の耕作土）蜜柑畑造成に伴って全体に削平を受ける。２ａはオリーブ色・灰黄色砂質土、２ｂは橙褐色土である。１・２－ＯＺでは30～20cmと地味土は厚い。

３層（近世～近代耕作土）３～４枚以上の水田層が認められる。幾度となく繰り返されたほ場整備の結果である。灰オリーブ色の耕土・間層として粘土質の黄・灰色が入る。盛り土は、地山礫層や青灰色・灰白色の堅く締まった土である。１・２－ＯＺでは土手の積み土も黄褐色・灰橙色のよく締まった土で、各時期、外側へ広がっている。

４層（耕土以外の自然堆積層）24－ＯＸや23－ＯＬの埋土にあたる。シマ状に砂が堆積する地山土混じりの灰白色砂質土で、全体に広がっている。23－ＯＬ埋土の黄灰色砂質土は、中世の遺物を包含していた。さらにその下層の黒灰粘質土層・黒灰色砂礫層は、植物遺体と共に瓦器類を包含する。

５層（大阪層群の地山層）全体は黄橙色・灰黄色の粘質土が覆っている。その下層には淡灰色の砂礫層が堆積する。粘土や礫層の下には、緑灰色や青灰色のシルト質土層が互層を成しており、沖積状況を示し、非常に土質は硬い。西から東に傾きをもって堆積している。下層ほど鉄分をおび、厚さ１ｍで再び黄色粘土と細砂とが互層を成している。

２　遺構

検出された遺構は、現代の地割りにそった耕作関係の遺構である溝・暗渠・井戸・粘土採掘坑がある。東調査区の大規模な粘土採掘坑213・234－ＯＸは近世以前に遡る可能性があるものの、それ以外はすべて近世以後近代時期の範疇に入るものと判断された。西調査

区の39区では、昭和50年代の植木穴の攪乱が地山面まで数多く穿たれているが、それ以外に、埋土が褐色粘質土を呈し、地山礫層を切り込んだ土坑大小26基（182・198～208・216～229－ＯＯ）を検出した。出土遺物も全くなく、それぞれの大きさ・形・深さ等まちまちで、底面も規則性がない。水田形成以前のものと判断され、近世以前の時期が考えられる。浅く大きいものは地山窪地に自然堆積したものと、深いものについては風倒木などの木根跡と判断しておきたい。

また、自然谷地形と地山層の堆積を確認する為に、幅５ｍで長さ110ｍのＡ～Ｄトレンチを設定し、遺構検出面より平均２ｍ程掘削した。西調査区の38区で東西方向の４－66区に延びる谷地形を確認した。谷は中心の幅20ｍと比較的狭い。

遺構は、土坑29基・溝３条・粘土採掘坑17基・井戸５基・落込みと谷状地形がある。時期不明の風倒木などの木根跡以外は総て水田に伴った遺構であった。

以下、主要な遺構に解説を加える。

196－ＯＯ

39区東隅で検出した、長径約6.83ｍ・短径約3.71ｍの土坑。埋土は黄灰褐色砂質土で、深さ約0.42ｍを測った。土師器壺口縁部１片が出土した。

197－ＯＯ

39区東端に位置し、東半は調査区外へ延びる浅い不定形の土坑。209－ＯＳに切られている。埋土は灰褐色粘質土であった。幅約10.80ｍ・深さ概ね0.53ｍである。出土遺物は須恵器の蓋１片があるが、調査時に混乱があり、他地区からの混入の可能性がある。

183～188－ＯＸ

40区で検出した粘土採掘坑。埋土は概ね礫および礫混の粘質土である。採掘後、地山礫で埋め戻している。183－ＯＸは、長径7.0ｍ前後・短径5.1ｍ前後の不整方形で、深さ約0.55ｍ。184－ＯＸは、長径23.0ｍ以上・短径11.5ｍ前後の溝状に掘削。深さは概ね0.45ｍ前後。周りには小さい穴ぼこが所々に穿たれている。185－ＯＸは、長径14.1ｍ以上・短径5.65ｍ前後・深さ約0.61ｍの採掘坑。186－ＯＸは、長径約2.42ｍ・短径約2.03ｍの小形の採掘坑。深さは0.26ｍ前後。187－ＯＸは、長径約10.9ｍ・短径約5.6ｍの大形の採掘坑。深さは約0.95ｍを測り、188－ＯＸを切っている。肩部分をオーバーハング気味に大規模に掘削する。188－ＯＸは、長径約13.0ｍ・短径約11.0ｍ・深さ0.5ｍ前後を測る。主に礫のみで埋め戻されている。

181－ＯＯ

40区南、187－ＯＸの東で検出した、長径約2.94m・短径約2.27mの土坑。深さ0.73m前後。埋土は礫混りの黄灰色砂質土であった。出土遺物はない。

189～192－ＯＸ

40区西部に位置する粘土採掘坑。地山層は礫が多く混る黄橙色粘質土のため、比較的掘削された穴は浅い。埋土は礫であった。189－ＯＸは、長径約4.6m・短径約3.5mの不整円形。深さは約0.08m。190－ＯＸは、径2.0m前後の穴。礫が覆っていた。191－ＯＸは、長径約14.7m・短径4.5m前後の不整楕円形。深さ約0.5m前後。192－ＯＸは、長径約6.20m・短径約6.15mの不整方形。深さ約0.52m前後を測る。

182・198～208・216～229－ＯＯ

38・39・40区西半で検出した、礫の混じらない褐色粘質土を埋土とする土坑群。地山面の橙色砂礫層に穿たれ、楕円・不整円形など形状にはばらつきがある。出土遺物は皆無であった。182－ＯＯは、長径約1.80m・短径約0.75mの楕円形。深さ概ね0.26m。198－ＯＯは、長径約1.40m・短径約1.16mで、底部は凸凹。深さ0.1m前後。199－ＯＯは、攪乱坑に破壊されてはいるが、長径約1.03m・短径約0.94mの円形と思われる。深さ約0.22m。200－ＯＯは、長径約2.02m・短径約0.94mの楕円形。底部は比較的フラットで、深さ0.43～0.20m。201－ＯＯは、長径約1.22m・短径約0.89mの円形。深さ約0.32m。202－ＯＯは、一部攪乱坑に切られるが、長径約2.75m・短径約1.15mの不整楕円形。深さ0.4～0.2m前後。203－ＯＯは、長径約0.95m・短径約0.63mの楕円形。深さ概ね0.25m。204－ＯＯは、長径約1.72m・短径約0.67mの不整形。深さ概ね0.17m。205－ＯＯは、長径約2.60m・短径約1.68mの不整形。深さ概ね0.23m。206－ＯＯは、長径約0.70m・短径約0.55mの円形。深さ概ね0.31m。207－ＯＯは、長径約1.40m・短径約1.32mの隅丸方形。深さ概ね0.22mで擂鉢状を呈する。216－ＯＯは、長径約2.48m・短径約0.94mの楕円形。深さ0.2m前後。217－ＯＯは、長径約1.70m・短径約1.26mの楕円形。深さ0.20～0.15m前後。218－ＯＯは、長径約1.54m・短径約1.06mの楕円形。深さ概ね0.11m。219－ＯＯは、長径約2.87m・短径約1.94mの不整形。深さ概ね0.25m。220－ＯＯは、長径約1.56m・短径約1.14mの楕円形。深さ概ね0.14m。221－ＯＯは、長径約0.41m・短径約0.32mの小ピット。222－ＯＯは、長径約3.94m・短径1.8m前後の楕円の大形土坑。223－ＯＯは、長径約1.15m・短径約0.70mの不整形小ピット。深さ概ね0.10m。224－ＯＯは、長径約3.29m・短径2.8m前後の不整形。深さ0.35m前後で均一ではない。225－ＯＯは、長径約0.76m・短径約0.60mの小ピット。深さ0.12m前後。226－ＯＯは、長径約1.3m・

短径約0.9mの不整円形。深さ0.33m前後。227－OOは、長径約1.2m・短径約0.9mの楕円形。深さ0.21m前後。228－OOは、長径約1.2m・短径約0.9mの不整形。深さ0.14m前後。229－OOは、長径約1.80m・短径約1.14mの不整形。深さ0.23m前後。208－OOは、長径約1.65m・短径約1.08mの楕円形。深さ0.56m前後。

193・194－OW

39区南端の現里道下で検出した。旧畦畔を挟んで存在する。2基とも素掘りの井戸で、地山の砂礫層を穿っている。かなりのオーバーハングが見られ、全面掘削は断念した。最終埋め戻し時期は、20世紀第3四半期である。193－OWは、長径約2.06m・短径約1.75m・深さ1.5m以上。194－OWは、長径約2.3m・短径約1.9m・深さ1.0m以上。埋土から193－OWより若干古い様相と思われ、近世後期にまで遡る可能性もある。

195－OW

39区中央北寄りで検出した。旧水田畦畔に沿って存在する素掘りの井戸。長径約3.74m・短径約2.97m・深さ2.0m以上。オーバーハング・湧水が激しく、平面的な掘削は断念した。2層から切り込まれており、近世まで遡る可能性もある農業井戸である。

214－OW

38区南端の現水路下で確認した素掘りの農業井戸。長径約4.84m・短径2.4m以上で、深さは1.5m以上。掘り方は摺鉢状を呈し、湧水が激しく幾度も水没した関係で完掘は行っていない。何等遺物は出土しなかったが、近世まで遡る可能性もあろう。

215－OW

38区南端の旧水田畦畔や水路が交差する地点で検出した。長径約2.55m・短径約2.05mの不整円形である。地山の黄褐色粘土層・砂礫層を穿っており、埋土は灰褐色粘質土を基調とする。深さ1.5m以上の近世の農業井戸と考えられる。

210－OX

39区東隅で確認した、長径約2.78m・短径約1.48mの不整楕円形の大形土坑。深さ0.58m以上あり、埋土は灰黄色粘質土と礫が覆っていた。一種の水溜的性格の土坑であろうか。

211－OX

39区北東隅で確認した、長径約7.2m・短径約4.6mを呈する方形の落込み。深さ0.53～0.30mで、埋土は4層に大別され、層厚約0.1mがそれぞれ東方向から西方向に斜めに堆積している。上層から黄灰色粘質土・堅い灰黄色砂質土・赤褐色砂質土で下層は暗灰色砂礫層が広がっていた。出土遺物は無い。

212・232・233－ＯＸ

38・39区東半で検出された粘土採掘坑。拳大の礫の礫層を間層として、上層橙色混りの灰黄色粘質土と下層淡灰色粘質土の埋土を持つ。212－ＯＸは、長径約7.18m・短径約3.34mを測り、深さ0.28m前後。232－ＯＸは、長径約5.1m・短径約4.36mの不整形。深さ概ね0.25m。233－ＯＸは、長径約4.43m・短径3.52m以上を測り、調査区外に延びる。深さ0.60～0.50m前後。

209－ＯＳ

39区東側で検出した竹を埋め込んだ暗渠。230－ＯＳにジョイントする。溝の掘り方幅約0.55m・深さ約0.2～0.15mであった。20世紀前半の産物。

230－ＯＳ

38区東端で検出した畦畔に沿った水田水路。溝幅約1.15m・深さ約0.25m。埋土は、10ＹＲ5/2灰黄褐色細砂土・2.5Ｙ7/1灰白色砂質土であった。

231－ＯＳ

38区中央部を北西方向から南東方向に走行する旧耕作水路。時期を違え３条がそれぞれ南流する。234－ＯＸの粘土採掘坑の堆積後、それぞれ溝が設けられている。最初の溝は採掘坑でできた段を利用して溝としたもので、溝幅約2.40m・深さ約0.65m。埋土は、下層は粘性の強い灰黄色砂質土（10ＹＲ6/6明黄褐色）、上層は拳大の礫混りの灰黄色砂質土（10ＹＲ7/6明黄褐色）、間層は灰色粘土混りの礫であった。

溝を水田との関係でとらえると１次期水田として礫混りの黄灰色粘質土・黄褐色粘質土の溝である。２次期水田としてそれを切って灰黄色砂質土（10ＹＲ7/3にぶい黄橙色）が広がる。３次期水田として暗灰色粘質土（10ＹＲ6/1褐灰色土）で、一部石積みをしている層もある。出土遺物は皆無であったが、近世から近代の所産であろうか。

213・234－ＯＸ

38・39区中央で検出した大形粘土採掘坑。それぞれ溝状に大規模に露天掘りしている。213－ＯＸは、幅約12.2mの規模で黄灰色や赤褐色の地山粘土を採掘している。埋土の下層は赤い灰色土混の礫層が覆う。中層・上層は淡灰色砂礫層・黄色赤灰色粘土・灰黄色砂質土・礫混りの灰褐色土が斜めに堆積しており、採掘後に埋め戻されている。234－ＯＸも露天掘りしているが、231－ＯＳが堆積土を掘削しているのと、後世の３時期の水田造成でかなり削平されていて、全容は知れない。213－ＯＸ同様、黄灰色砂質土（7.5ＹＲ7/6橙色）・礫混りの淡灰黄色砂質土（10ＹＲ7/6明黄褐色）等が堆積土として認められる。両

採掘坑とも出土遺物が皆無であり、時期は確定できないが、堆積土・遺構の切り合い有り様より判断して、他の採掘坑とは異なる。時期的に古く位置づけられるのであろうか。長滝墓地内で確認した瓦窯や禅興寺との関係（瓦生産用粘土坑？）も注目してよいのかもしれない。

3　遺物

196－OO：(1)は、196－OOから出土した土師質の壺口縁部の破片。外面部に指頭痕を多く残す。

197－OO：(2)は197－OOから出土したと思われる須恵器坏の蓋。平城宮Ⅳ期以後の奈良後期であろう。

包含層：(3)～(7)は、1層耕作土より採集した管状土錘5点。同一地点からの出土。焼成は堅く、赤味を帯びた赤褐色を呈する。長さ概ね4.35～4.1cm・径概ね1.35～1.2cm・孔径は細い方で概ね0.46～0.4cm・太い方で0.50～0.45cm・質量は(3)が5.01g・(4)が5.49g・(5)が5.53g・(6)が6.33g・(7)が6.04gである。稲の「ダテガケ」の際に鳥避け網に付けられていた遺物であろう。

第2項　67・68・69区（第6図、図版7・8）

4－69区の調査

1　位置と層序

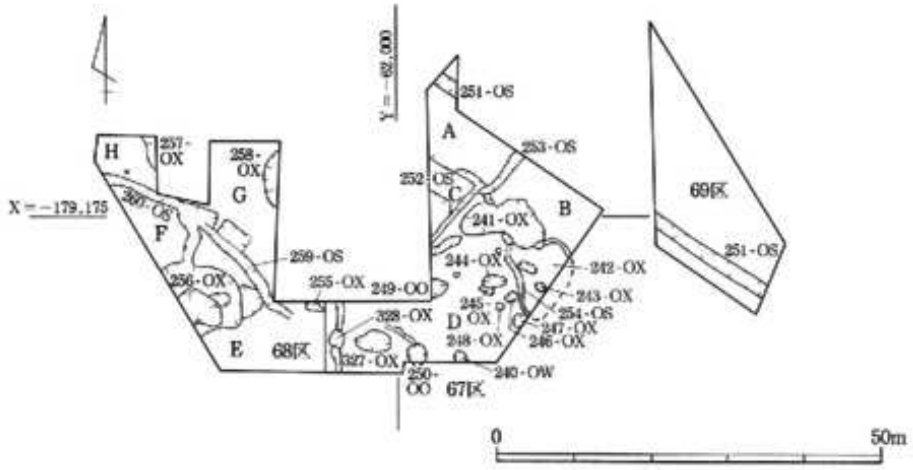
位置と経過

調査地は、大C－3－2 E06に位置し、4－12・4－93工区に接する。現状は宅地跡で、調査面積約703㎡であった。地割りは旧飛行場造成にあたり改変を受け、戦後の農地造成や住宅造成で削平を受けている。元来、周辺部の調査区より数メートル比高が高い地点で、隣接の4－12・67区側は現在も崖面となっており、1m前後比高差がある。

調査は、1991年1月23日より2月6日まで行い、合わせてクレーンによる写真測量を4－67・68区に実施した。

層序

現標高はT.P.＋30.90～30.80mを測る。地山はT.P.＋30.20～30.09m。G区南端との比高差は約1.8mである。1層（蜜柑畑造成に伴う盛り土層）・2層（現水田耕作土と元の耕土・床土層）・3層（近世～近代の旧耕作土層）・4層（耕土以外の自然堆積層）・5層



第６図　67～69区概略図

（大阪層群の地山層）に大別される。５層地山は黄橙・灰黄色粘土とその下のシルト質の緑灰色砂層・段丘礫層に分けられる。

１層（盛り土）約30～20cmの地山土混じりの浅黄色土を基本とする蜜柑畑の盛り土層。株掘り方の新旧の攪乱があった。

２層（元の耕作土）蜜柑畑造成に伴って全体に削平を受ける。２ａはオリーブ色・灰黄色砂質土、２ｂは橙褐色土である。１・２－ＯＺでは30～20cmと地味土は厚い。

３層（近世～近代耕作土）３～４枚以上の水田層が認められる。幾度となく繰り返されたは場整備の結果である。灰オリーブ色の耕土・間層として粘土質の黄・灰色が入る。盛り土は、地山礫層や青灰色・灰白色の堅く締まった土である。１・２－ＯＺでは土手の積み土も黄褐色・灰橙色のよく締まった土で、各時期、外側へ広がっている。

４層（耕土以外の自然堆積層）24－ＯＸや23－ＯＬの埋土にあたる。シマ状に砂を堆積させる地山土混じりの灰白色砂質土で、全体を覆っている。23－ＯＬ埋土の黄灰色砂質土は、中世の遺物を包含していた。さらにその下層の黒灰粘質土・黒灰色砂礫層は、植物遺体と共に瓦器類を包含する。

５層（大阪層群の地山層）全体は黄橙色・灰黄色の粘質土が覆っている。その下層には淡灰色の砂礫層が堆積する。粘土や礫層の下には、緑灰色や青灰色のシルト質土層が互層を成しており、沖積状況を示し、非常に土質は硬い。西から東に傾きをもって堆積している。下層ほど鉄分をおび、厚さ１ｍで再び黄色粘土と細砂とが互層を成している。

２　遺構

面的には削平のため遺構は一切検出されず、黄橙色粘土混り砂礫層の地山面の検出を見た。崖面で飛行場造成以前から踏襲された溝を確認・掘削した。

251－ＯＳ

69区の崖面南端を走る水路。溝幅1.80ｍ前後・深さ1.05～0.95ｍ前後を測る。埋土は現代の攪乱ゴミ層下に暗灰色粘質土および灰白色砂が互いに堆積していた。上限は近世期にまで遡る可能性がある。

３　遺物

無し。

４－67・68区の調査

１　位置と層序

位置と経過

調査地は、大Ｃ－３－１Ｈ101・大Ｃ－３－２Ｅ06に位置し、４－12・４－93・94工区に接する。現状は、住宅跡地と駐車場・水田荒れ地など、現在の地割り７区画が対象であった。調査面積約1025㎡。尚、当調査区は旧飛行場敷地内にあたり、以後の改変を受けており、近代以前の地割り景観を有さない。

調査は、1991年２月７日より分厚い盛り土やコンクリートの除去から開始し、クレーンによる写真測量図化を行って３月５日終了した。地形・地割りが改変を受けている為、旧地割り・地形の復原も考慮して調査を実施した。尚、隣接の４－12区は、上層面で最終遺構面としており、一部南東に拡張しているが、検出面は不整合となっている。

層序

現標高はＴ.Ｐ.＋29.71～29.60ｍを測る。地山面はＴ.Ｐ.＋29.03～27.80。Ｇ区南端との比高差は約1.8ｍである。１層（蜜柑畑造成に伴う盛り土層）・２層（現水田耕作土と元の耕土・床土層）・３層（近世～近代の旧耕作土層）・４層（耕土以外の自然堆積層）・５層（大阪層群の地山層）に大別される。５層地山は黄橙・灰黄色粘土とその下のシルト質の緑灰色砂層・段丘礫層に分けられる。

１層（盛り土）約30～20㎝の地山土混じりの浅黄色土を基本とする蜜柑畑の盛り土層。株掘り方の新旧の攪乱があった。

２層（元の耕作土）蜜柑畑造成に伴って全体に削平を受ける。２ａはオリーブ色・灰黄色砂質土、２ｂは橙褐色土である。１・２－ＯＺでは30～20㎝と地味土は厚い。

3層（近世～近代耕作土）3～4枚以上の水田層が認められる。幾度となく繰り返されたほ場整備の結果である。灰オリーブ色の耕土・間層として粘土質の黄・灰色が入る。盛り土は、地山礫層や青灰色・灰白色の堅く締まった土である。1・2－OZでは土手の積み土も黄褐色・灰橙色のよく締まった土で、各時期、外側へ広がっている。

4層（耕土以外の自然堆積層）24－OXや23－OLの埋土にあたる。シマ状に砂を堆積させる地山土混じりの灰白色砂質土で、全体を覆っている。23－OL埋土の黄灰色砂質土は、中世の遺物を包含していた。さらにその下層の黒灰粘質土・黒灰色砂礫層は、植物遺体と共に瓦器類を包含する。

5層（大阪層群の地山層）全体は黄橙色・灰黄色の粘質土が覆っている。その下層には淡灰色の砂礫層が堆積する。粘土や礫層の下には、緑灰色や青灰色のシルト質土層が互層を成しており、沖積状況を示し、非常に土質は硬い。西から東に傾きをもって堆積している。下層ほど鉄分をおび、厚さ1mで再び黄色粘土と細砂とが互層を成している。

2　遺構

4－67・68区において検出した遺構は、盛り土・元水田面下の旧水田面と地山面に穿たれたものがある。遺構は、土坑2基・粘土採掘土坑14基・溝6条・井戸1基と水田面8面（A～H）を把握した。遺構内からは顕著な遺物の出土をみないが、近世から近代の遺構と判断された。溝・井戸・畦畔や8面の水田に伴った遺構が大半である。尚、4－68調査区中央を南西方向に貫く大溝は、飛行場の造成直前に掘削された大暗渠で、現代も機能していることが判明した。全体的に地山が南東から北西に向かって傾斜する谷地形となる。以下、一括して遺構に解説を加える。

A～H－OZ

調査区内で確認できた8枚の水田は、近世から近代（飛行場造成直前）にかけてのものである。調査区内でA水田を高所として谷水田の雛段に造成されていた様子が判明する。水田は全容が調査区内で納まらないので大きさの推定はできないが、259・260－OSには大畦畔が巡る。一つの区画は概ね谷地形に沿った小規模なものと確認した。

251－OS

67区の北端を横切り69区251－OSにつながる、西から東への流水を示す水路。溝幅約3.4m・深さ0.41m前後。a・b二時期が把握された。a期は69区251－OSに似た堆積を示すが、b期では礫混りの灰褐色粘質土を埋土としていた。近世後期に遡る可能性もある。

252～254－OS

67区で確認したＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ水田を画する小水路。Ａ水田では石で補強する護岸が部分的に施されていた。241・243－ＯＸの粘土採掘坑に切られている。埋土は概ね淡灰色粘質土（10ＹＲ6/3にぶい黄橙色）・下層は灰黄褐色粘質土（10ＹＲ6/4にぶい黄橙色）であった。252－ＯＳは幅約0.55m・深さ0.4m前後。253－ＯＳは幅約1.05～0.9m・深さ0.35m前後。254－ＯＳは幅約0.65m・深さ0.25m前後。

13・14・241～248・255・327・328－ＯＸ

67区中央から68区東部にかけて検出された粘土採掘坑群。大小あり、不定形である。埋土は粗砂礫混りの10ＹＲ4/5にぶい黄褐色砂質土などであった。241－ＯＸは長径約10.9m・短径約4.9mの不整形。深さ約0.8～0.6m。242－ＯＸはＢ水田の粘土を長さ約９mにわたって採掘した坑。東４－12調査区に広がる。243－ＯＸはＣ水田の粘土を約4.7mの採掘坑。４－93調査区に広がる。244－ＯＸは長径約3.0m・短径約1.45m・深さ約0.45mの楕円形。245－ＯＸは長径約1.6m・短径約0.75m・深さ0.25m前後。246－ＯＸは長径約1.65m・短径約1.1m・深さ0.3m前後。247－ＯＸは長径約2.1m・短径約1.7m・深さ0.45m前後。248－ＯＸは長径約0.95m・短径約0.9m・深さ0.3m前後。327－ＯＸは長径約4.65m・短径約2.8m・深さ0.3m前後。328－ＯＸは北東方向より走行する253－ＯＳを切っている。長径約2.25m・短径約1.9m・深さ0.45m前後で、礫を多量に含んでいた。255－ＯＸは長径約2.05m・短径0.75m以上・深さ0.2m前後。出土遺物は特に無い。

249－ＯＯ

67区西端で検出した。近代の旧水田畦畔下に設けられており、一部調査区外に延びる。長径約2.25m・短径1.6m以上・深さ約0.55m。埋土は、礫を多く含む10YR4/6褐色粘質土、中・下層は地山土混りの褐色粘質土であった。出土遺物は無し。

240－ＯＷ

67区南側で検出した農業用の素掘り井戸。掘り方長径約1.5m・短径約1.4m。深さ約1.0m掘削したが、道路際であった為完掘は行わなかった。

250－ＯＯ

67区南側の240－ＯＷの西隣で検出した。大半が道路下の調査区外にある、径1.20m以上の落ち込み。井戸であろうか。

259－ＯＳ

68区中央を北西方向に斜めに走行する溝。昭和17年の水田耕土下に確認でき、北側に近代の水田畦畔を伴う。幅約1.5m・深さ0.6～0.3m前後の19～20世紀初頭の水路である。

260－ＯＳと交わる所はやや広く、集水枡的機能を想定できる。

260－ＯＳ

68区で検出した259－ＯＳに取り付いている溝。幅約1.5m・深さ約0.22m。256－ＯＸの採掘坑で破壊されている。

256－ＯＸ

68区西端に位置する。昭和17年の耕土下で確認される大形の粘土採掘坑。一部調査区外に延びる。長径約10.3m・短径8.5m前後・深さ約0.45～0.15m。前後２回の切り合いが確認でき、古い方は10ＹＲ5/4にぶい黄褐色粘質土の礫の混じらない軟らかい埋土で、新しい方は上層5ＹＲ4/8赤褐色粘質土、下層は細砂礫混りの7.5ＹＲ4/3褐色粘質土であった。出土遺物は無い。

257・258－ＯＸ

68区北辺隅で確認した粘土採掘坑。大半が調査区外に延びる。257－ＯＸは旧耕作土下で確認される、幅4.0m前後の南東方向に延びる採掘坑。埋土は礫混りの灰茶褐色軟砂質土である。採掘坑の切り合いで、地山面では溝状になっている。258－ＯＸは257－ＯＸを切り込む採掘坑。埋土は礫。出土遺物は無し。

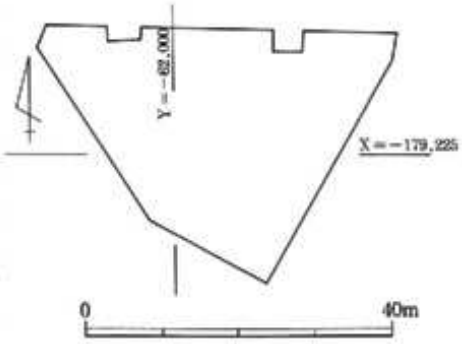
３　遺物

無し。

第３項　66区

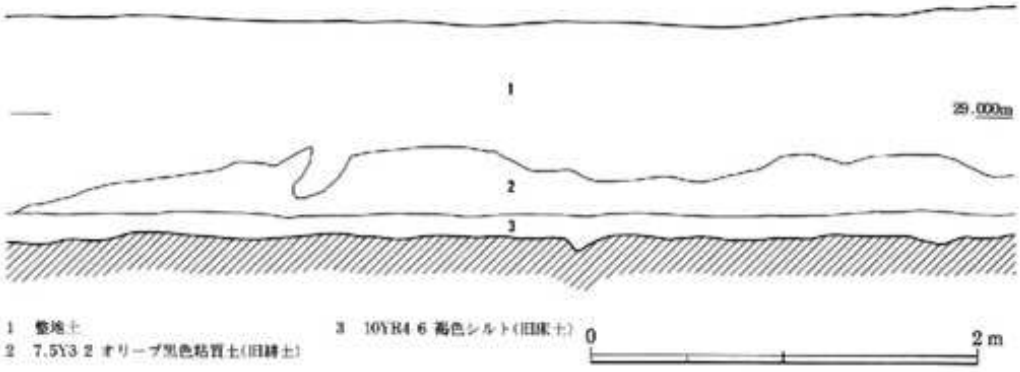
１　位置と層序（第７・８図）

植田池遺跡の東南部に位置する。調査前の状況は田畑で土層断面に畦の起伏が観察できる。小規模な宅地開発のために最大１m盛土されていた。調査区の形状は底辺が北を向いた多角形である。標高は28.8mをはかる。



第７図　66区概略図

基本層序は第１層（現耕作土）オリーブ黒色（7.5Y3/2）で層厚0.25mをはかる。第２層（床土）褐色シルト（10ＹＲ4/6）で層厚0.15mをはかる。第３層（地山）にぶい黄褐色粘質シルト（10ＹＲ4/3）で層厚0.40mをはかる。第４層



第８図　66区基本層序図

（地山）黄褐色（10Ｙ R5/8）である。

２　遺構

調査では地山面で僅かな土層の起伏を確認したのみで遺構・遺物の出土をみていない。

第４項　12・93（13区含む）・94区

植田池遺跡の東南部にあたり、調査前の現況は田畑や居宅および工場敷地に供されていた。調査地西および南方向に急激に比高を下げる。調査地は旧陸軍明野飛行学校佐野分校の横風用滑走路跡地南端部にあたる。

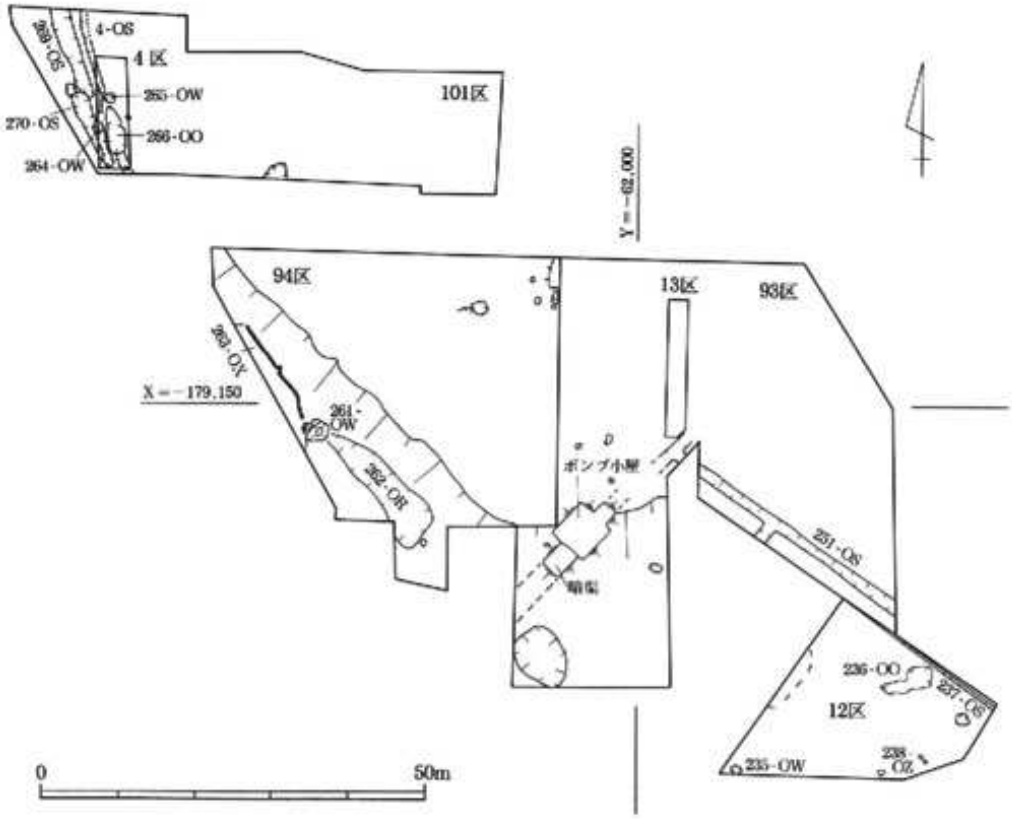
12区の調査

調査地北東側は急激に比高を上げる。これは開墾によるものであろうと思われるが、当該地が中位段丘面の傾斜変換点にあたると思われるので、調査地北東から南西方向のトレンチを設定して土層の堆積状況と遺構の有無の確認に努めた。

１　位置と層序（第９・10図）

調査地は底辺が西を向いた台形で、標高は29.6mをはかる。調査前の現況は田畑と居宅でそのほとんどは田畑に供されていた。調査地北東部は崖状の段をなしており急激に比高を上げる。

基本層序は第１層（表土）灰色砂質土（7.5Ｙ4/1）である。層厚0.05mをはかる。第２層（整地土）にぶい黄橙色砂質土（10Ｙ R6/3）で層厚0.15mをはかる。第３層（整地土）にぶい黄橙色砂質土（10Ｙ R6/4）で層厚0.30mをはかる。第４層（旧耕作土）灰色砂質土（N6/）で層厚0.15mをはかる。第５層（旧床土）黄褐色粘質土（10Ｙ R5/8）で層厚



第９図　12・93（13区含む）・94・101（４区含む）区概略図

0.07ｍをはかる。第６層（地山）明黄褐色粘質土（マンガン粒を含みややシルト質）（2.5Y7/6）で層厚0.02mをはかる。第７層（地山）橙粘質土（2.5Y R6/6）で層厚0.05ｍをはかる。第８層（地山）橙色砂質土（14cm迄の礫・７mm迄の砂粒多い）（2.5Y R6/6）で層厚0.10mをはかる。第９層（地山）淡赤橙色砂質土（2.5Y R7/4）である。

２　遺構（第11図）

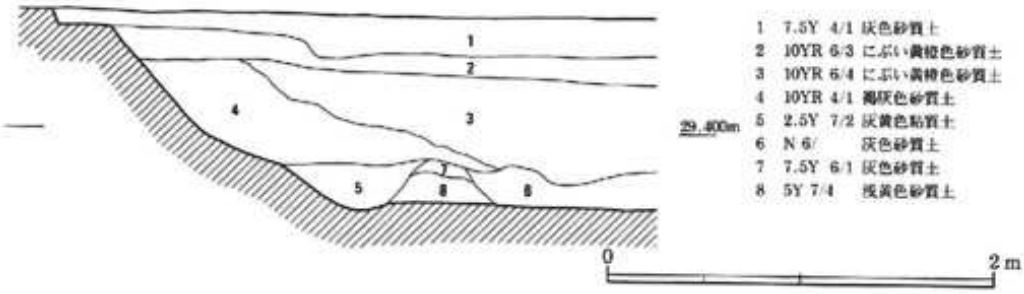
遺構は耕作に関連する溝および小溝数条と土坑１基、井戸１基を検出している。ほとんど近代から現代に関するものである。

237－ＯＳ

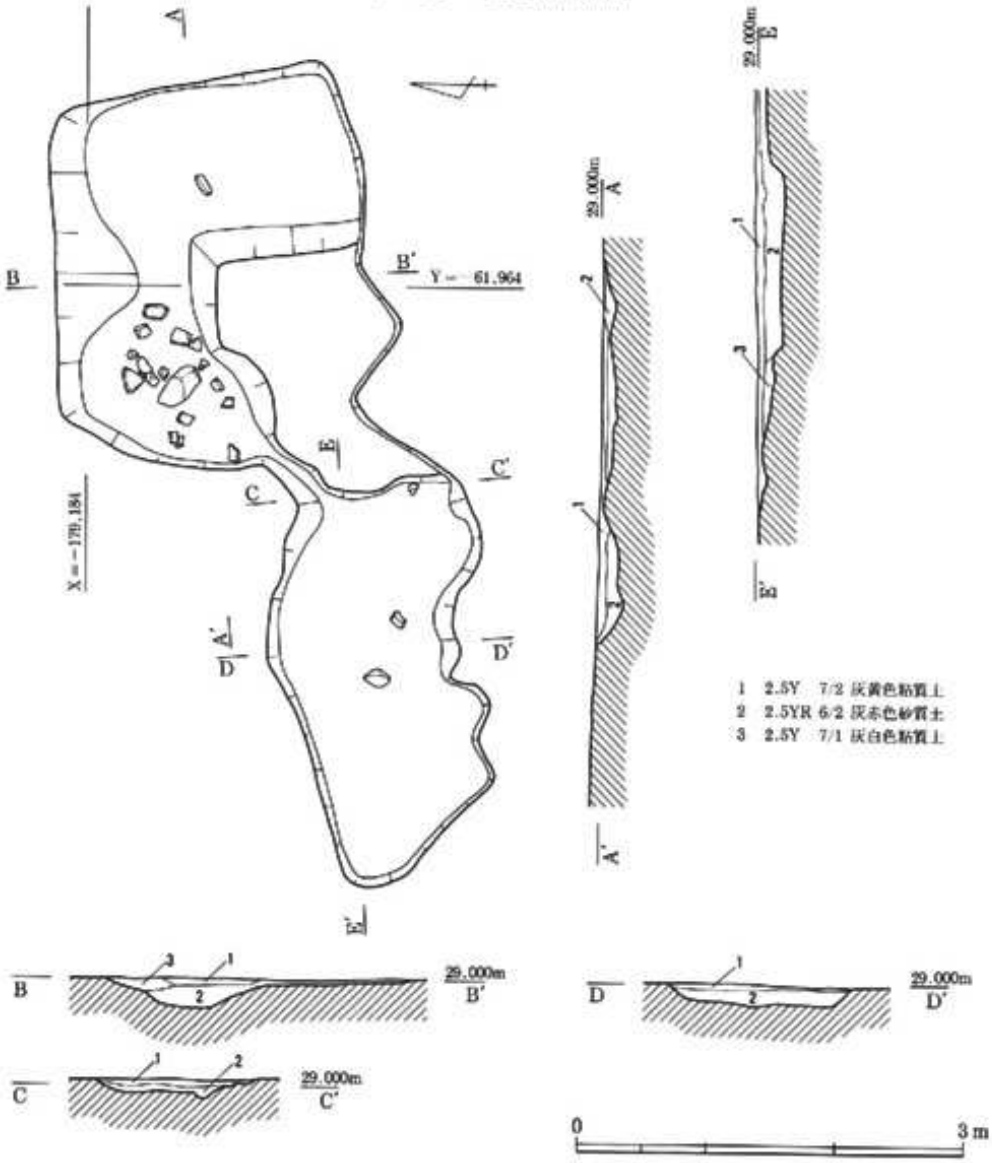
調査区北東端部で検出した。中位段丘面内の傾斜変換点開墾後の段落ち溝である。検出長18.0mをはかる。北西から南東方向に直線的に延び、深度は0.1mをはかる。

238－ＯＺ

調査区北西部を中心に検出した耕作小溝群である。検出長１ｍ前後をはかり、北西から南東の方向性をもつ。幅約0.20m、深度0.05m前後をはかる。



第10図　12区基本層序図



第11図　12区236－００平面・断面図

235－OW

調査区南西端部で検出した。いわゆる野井戸である。南西から北東方向に長く、上部の長径1.4m、短径1.1mをはかる。深度は0.8mまで確認したが不明である。断面形状は2段で上部が口の開いた逆台形状をしめす。

236－OO

調査区中央部の北東寄りで検出した。平面形状は東西に長い不整形をしめす。検出面の標高29.0mをはかる。長径6.0m、短径1.5mをはかる。深度は北側中央付近で0.24m、南側中央付近で0.19mをはかる。底部の起伏が認められる。埋土は上部を赤褐色土系の地山ブロック混じりの灰黄色粘質土（2.5Y7/2）が、下部は灰赤色砂質土（2.5Y R6/2）とにぶい橙色粘質土（2.5Y R6/3）が堆積している。埋土中には砂粒と共に最大38cm×20cmの人頭大の大礫や4～5cmの小礫が混じるほか、炭や須恵器広口壺、土師器、瓦器片が土坑北側西寄りの深み部分を中心に散乱した状態で出土している。

土坑底部の起伏や埋土内の遺物出土状況より考えて、旧耕作地構築以前の段階で中位段丘面の傾斜変換点上部よりの流れこみによる二次堆積跡と考えられる。とくに須恵器の器種を考えた場合調査区北側に存在する旧長滝墓地構築以前の墓域を考える資料とはならないであろうか。

93区の調査（13区含む）

1　位置と層序（第9図）

中位段丘面傾斜変換点の北側および西側にあたる。調査区の形状は底辺が南を向いた多角形である。北側の標高30.3mをはかる。旧飛行場建設に伴う削平が顕著である。西側は中央部付近から南西方向に幾分急に下降する。傾斜地には現代の水利施設であるポンプ小屋が存在した。

北側の基本層序は第1層（現耕作土）褐灰色土（10Y R4/1）で層厚0.3mをはかる。第2層（整地土）は礫および赤褐色シルトの地山と耕作土との混合層で層厚0.2mをはかる。第3層（地山）黄橙砂礫（10Y R7/8）で上面の標高29.8mをはかる。西側の層序については94区を参照願いたい。

2　遺構

削平整地が著しく現代の施設のみしか遺存しない。西側傾斜面南側で赤褐色土系の地山の流れた堆積層を確認したのみである。

94区の調査

１　位置と層序（第９・12図）

調査区の形状は底辺が北を向いた台形状をしめす。調査区中央の南東から北西にかけて中位段丘面の傾斜面が横切り、南西方向に幾分急に下降する。北東部の傾斜面上部の標高29.1mをはかる。

第１層は現代の整地層で層厚0.5mをはかる。第２層は戦後の耕作土である。褐灰色砂質土（5Y R4/1）で層厚0.2mをはかる。第３層（床土・整地層）橙色粘質土（5Y R6/6）で層厚0.1mをはかる。第４層は黄褐色礫混じり粘質土（10Y R5/6）で層厚0.4mをはかる。第５層（地山）黄橙砂礫（10Y R7/8）で上面の標高27.9mをはかる。

２　遺構（第12図）

調査区北東側は削平整地が著しく、工場兼居宅の基礎等の攪乱が顕著にみられる。遺構は傾斜面南西部で石列１条、井戸１基、自然流路１条を検出した。

263－ＯＸ

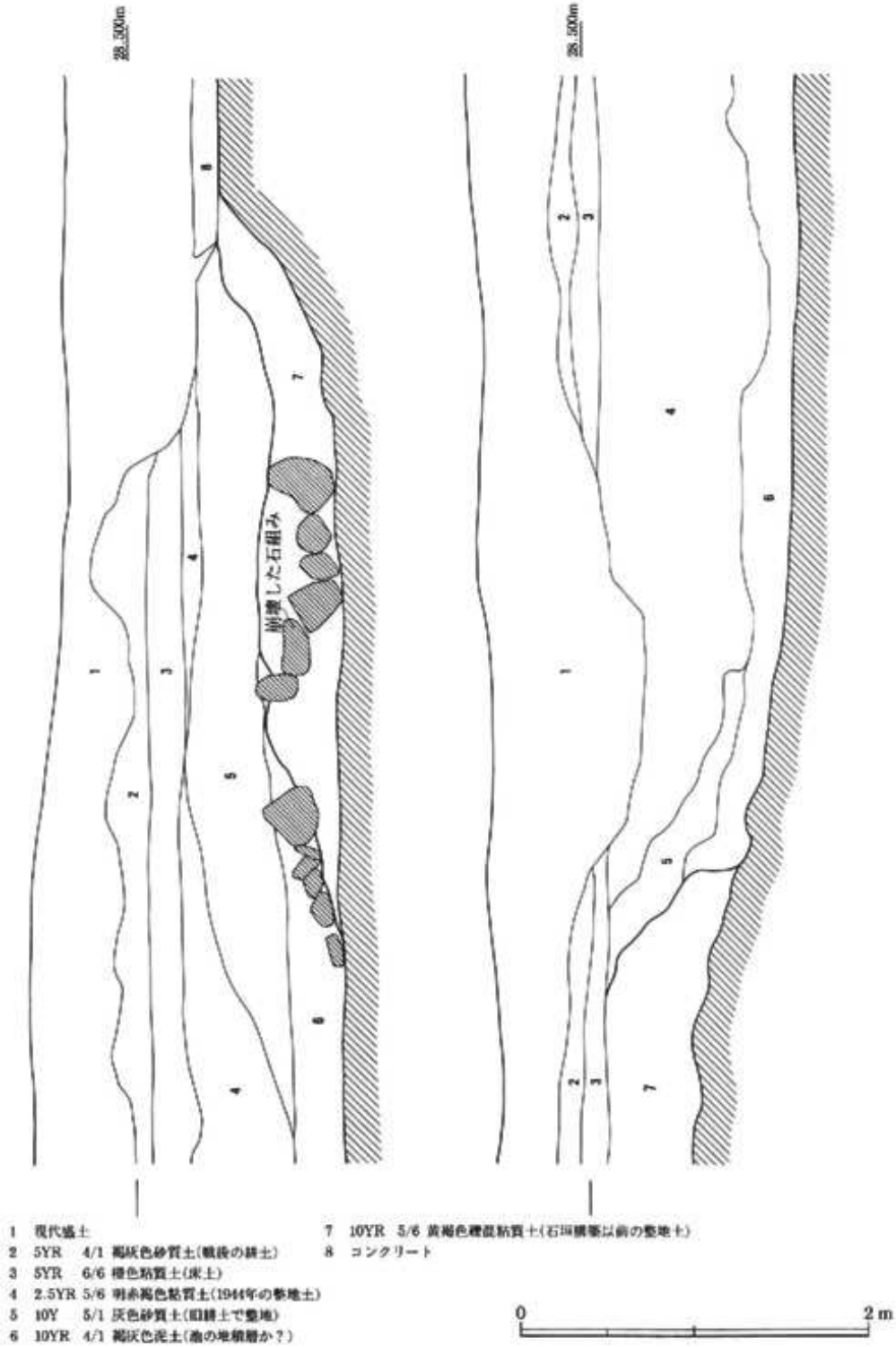
調査区中央西端部で検出した。検出長15.5m、検出幅1.75m、深度1.15mをはかる。断面観察によると池のようにも思われるが、一部分の検出であり、判然としない。検出した遺構の東側は傾斜面の延びる方向と平行に石列が並ぶ。平面的には石列状に見えるが、断面に見える石の配列状況より観て、石垣が崩壊して最下部のみが遺存したと考えられる。石列の北西側は現在の舗装道路を挟んで４区が位置する。４区では北西から南東方向に延びる石垣を確認しており、これらは傾斜変換点斜面に構築された一連の、連続する石垣と考えられる。

261－ＯＷ

調査区中央西端部のやや南側で検出した。いわゆる野井戸である。長径3.1m、短径2.1mをはかる。平面形状はいびつな楕円形で、断面形状は２段で上段が開く逆台形状である。北東側が深くほぼ直に掘り込まれており、深度0.9mまで確認したが深さは不明である。北東側に接して瓦質の土管を４個連続して並べる。その先端は263－ＯＸと接する。井戸から溢れた水を263－ＯＸへ供給する機能を有するものと思われる。

262－ＯＲ

261－ＯＷに接して検出した自然流路である。傾斜面の水を集め261－ＯＷに自然と水を集める機能をもつ。検出長径18m、短径３m、深度0.7mをはかる。



第12図　94区基本層序・263－ＯＸ断面図

第５項　４区

植田池遺跡の中央部にあたり、旧陸軍明野飛行学校佐野分校横風用滑走路跡地（以後横風用滑走路跡地と呼ぶ）南端部から北へ約100mに位置している。調査前の現況は平坦な田畑であった。空港連絡道路建設に伴う文化財調査の初期の頃の調査区であり、借地をしての調査であったため、掘削土の置場等の制約により南北にながい長方形の調査区となっている。

調査途中で調査区をほぼ南北に縦断する石垣（267－ＯＩ）を確認している。このため調査区内では下層の遺構との関係や石垣全体の規模等を把握する必要から、石垣に直行する方向でサブトレンチをいれ、土層の堆積状況の確認のみにとどめ、ビニールシートにて保護し一旦埋め戻している。

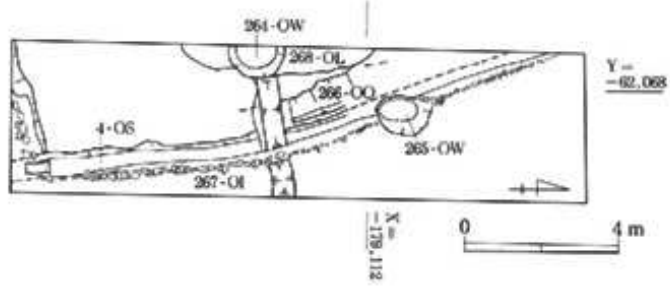
その後101区の調査時に再度掘削されたが、連絡道路全体の調査の進捗状況などの影響や調査担当者の認識の違いから、101区の調査成果とは必ずしも符合しない結果となっている。そればかりか、石垣全体の規模などや旧長滝墓地域との連続的な景観のつながりなど不透明な部分を生み出してしまった事は否めない。

１　位置と層序（第９・13・15図）

調査地は横風用滑走路建設前は田畑として利用されている。石垣（267－ＯＩ）構築以降は小規模な池として利用されていた時期があったと思われる。調査区は中位段丘傾斜面にあたり、石垣を挟んで東側は横風用滑走路建設のため大きく削平を受けている。

基本層序は調査区東側で第１層黄灰色砂質土（現耕作土：2.5Y5/1）で上面の標高28.7mをはかり、層厚は0.15mである。第２層にぶい黄色粘質土（現床土：2.5Y6/3）で層厚0.10mをはかる。以下段丘礫層である黄褐色土系の砂礫層となる。

西側の層序は第１層と第２層が同じである。第３層は黄灰色土系の池埋土と考えられる

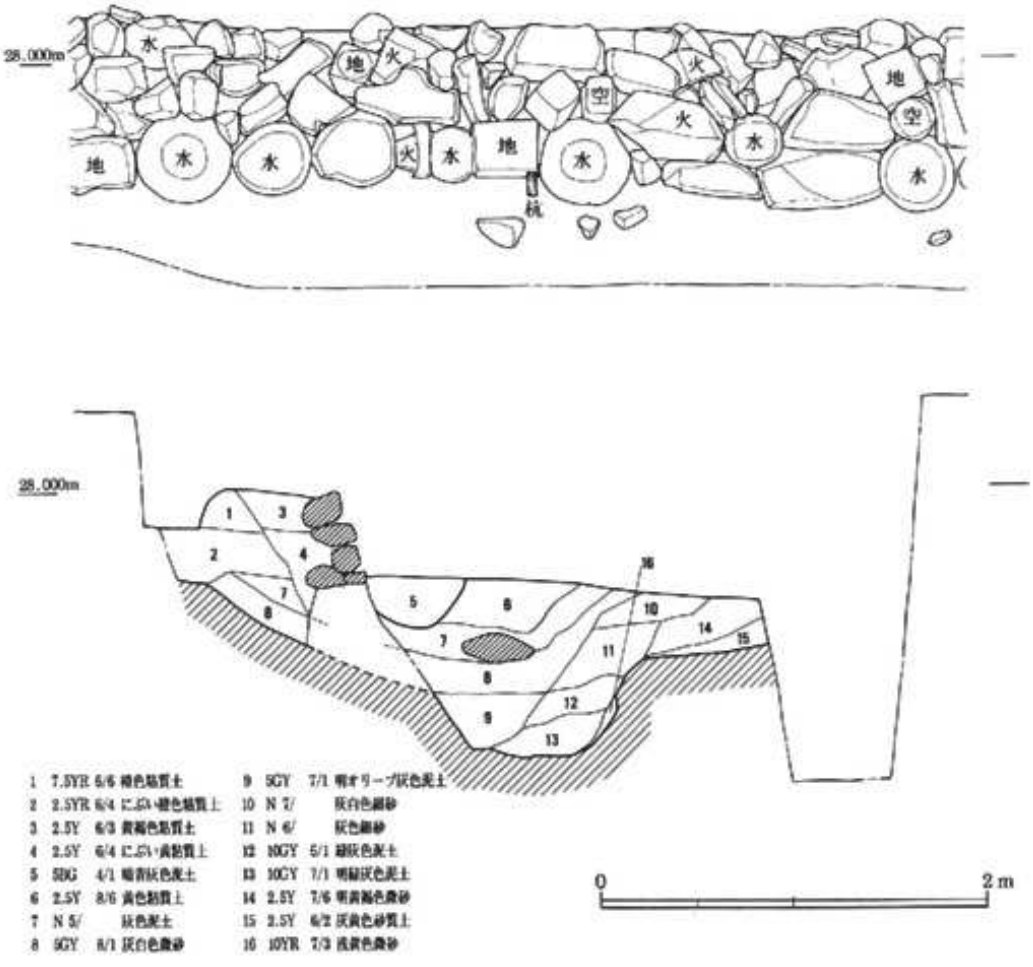


第13図　４区検出遺構配置図

整地土層で最大層厚0.95mをはかる。第4層黄灰色粘質土（旧耕作土：2.5Y6/1）で上面の標高27.9mをはかり、層厚0.10mをはかる。第5層黄色粘質土（2.5Y8/8）で3㎝までの礫を含む。上面の標高27.9mをはかる。第6層は地山で黄色土系の粘質土もしくは粗砂（2.5Y7/8）である。

2　遺構（第14図）

調査区を縦断する石垣から東側は削平を受け皆無である。中位段丘面傾斜変換点にあたる西側については石垣、溝、池のほか井戸2基を確認している。これらの中で最も古いのが石垣（267－ＯＩ）であるが、使用されている石材中に旧長滝墓地の墓石が多く含まれることより、横風用滑走路建設に伴う墓地移転（昭和19年(1944)3月）時のものである。構築時期については調査中付近住民の方から貴重な話も聞くことができた。



第14図　4区267－ＯＩ（石垣）立面・断面図

４－ＯＳ

267－ＯＩに沿って流れる農業用水路で検出長12.5m、幅0.35m、深度0.25mをはかる。水路肩口の標高と第４層（旧耕作土）上面の標高は一致する。第４層と同一時期に存在したものである。

268－ＯＬ

調査区中央西付近で確認した池底の一部である。断面観察によると調査区南西隅に堤状の土層の高まりが観察できる。旧耕作土（第４層）を切り込んで存在する。

264－ＯＷ

268－ＯＬを掘り下げる過程で検出している。池構築以前のいわゆる野井戸である。井戸肩口は池底によって失われているが、断面観察による層位関係より観て、一連の旧耕作土に伴う遺構である。検出最大径1.4mをはかり、ほぼ直に掘り込まれている。深さ１mまで確認したが深度は不明である。

267－ＯＩ（４区４－ＯＳと石垣裏込め土充塡の範囲を含む）

中位段丘面傾斜変換点に構築された石垣である。ただ単に傾斜面の崩壊を防ぐ目的で造られたものか、あるいは旧飛行場建設の施設との兼ね合いで造られたものか判然としないが、構築時期ははっきりしている。

検出長15m、最大検出高1.4mをはかる。現時点で確認できた墓石数（破片を１点とする）62点を数える。

265－ＯＷ

267－ＯＩを切り込むいわゆる野井戸である。直径1.5mをはかる円形をしており、断面は上部が口の開いた逆台形をしめす。深度1.5mまで確認したが不明である。

266－ＯＯ

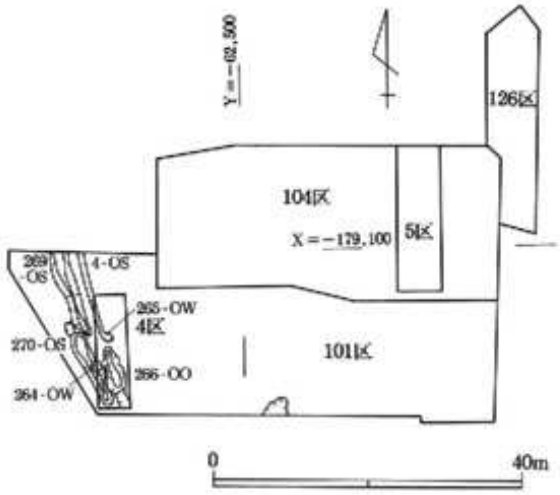
267－ＯＩに直交するサブトレンチ断面で確認したもので、規模等は不明である。101区の調査では長径6.25m、短径2.25mの不定形土坑とされる。当区で確認した深度は0.9mをはかる。

第６項　101・104（5区含む）・126区

１　位置と層序（第15図）

調査前、101・104区は、工場が建っており、126区は、道路部分である。この地域もま

た旧陸軍飛行場の建設時に、地形が大きく改変されている地域であり、さらに工場及び道路の建設時にも整地されている。それらの整地層を掘り下げると、平坦な現地形とは異なる段丘崖状の地形が、101区の西側で400m²程の範囲に検出された。その他の部分は、いきなり段丘礫層が全面に検出され、工場建設以前の住宅の区画を示す第二次大戦後の杭列跡が検出されるため、沖積層は完全に消失している。



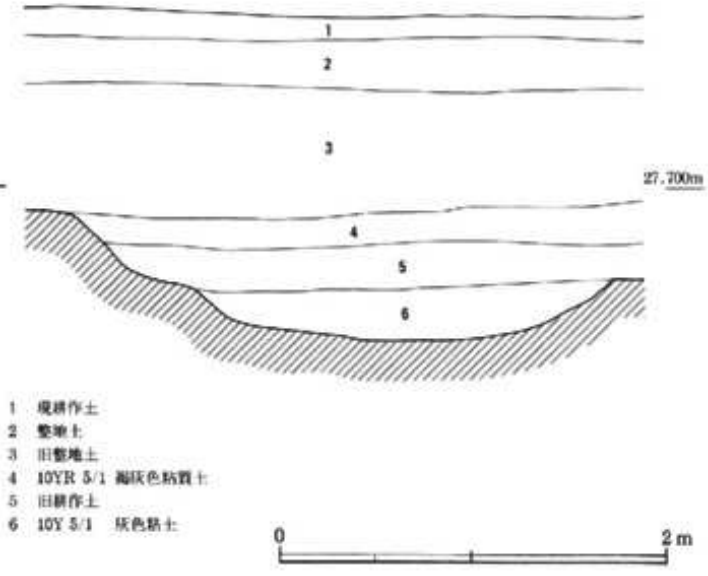
第15図　101（4区含む）・104（5区含む）・126区概略図

2　遺構（第16図）

遺構は、101区でのみ検出している。地形が段状に変化する所で、等高線に沿うように井戸（264・265－OW）、土坑（266－OO）、溝（4・269・270－OS）などである。

遺構を検出しているあたりは、湧水の豊富な場所であるため、検出した遺構の全ては、灌漑用水を得るために造られた施設であろう。4－OSは、その検出状況から265－OWからの水を流したとみて、溝の認定は間違いないが、それ以外の溝とした遺構は、1.5m程の深さをもち、規模の大きさからして、井戸に近い機能を持っていたと推定できる。

遺構の時期であるが、全て近世末から近代のもので、4－OS、264・265－OWの各遺構は新しく、266－OO、269・270－OSの各遺構が埋没後に掘られており、近代のものである。

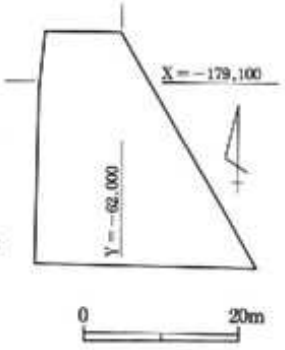


第16図　101区270－OS断面図

第７項　56区

１　位置と層序（第17・18図）

植田池遺跡の中央部で道路予定地の東北辺に当たり、道路を挟んで93区の北、101・104区の東に位置する。調査直前は個人住宅であった。標高は30.45mである。調査区の形状は底辺が南を向いた台形である。調査面積は585㎡である。



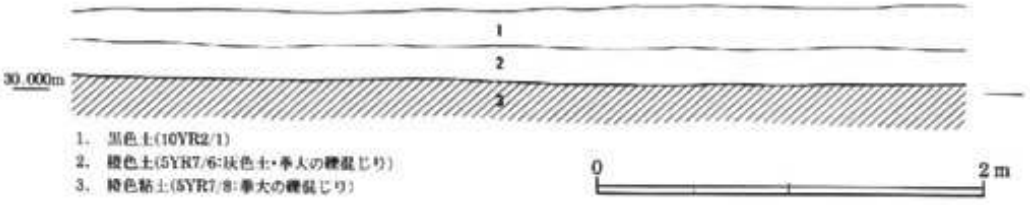
第17図　56区概略図

調査により確認した土層は基本的に３層ある。

第１層　　東南半部の駐車場を除いてほぼ水平堆積している。層厚は0.25mを測る。現代の耕作土である。遺物は出土しなかった。

第２層　　西南方向に向かって厚く堆積している。上面の高さは30.20mである。層厚は0.2mを測る。遺物は出土しなかった。

第３層　　西南方向に約0.4m低くなっている。上面の高さは東南隅で30.00m、西南隅で29.60mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第18図　56区基本層序図

２　遺構

遺構は検出されなかった。遺物も出土しなかった。

第８項　102・115（17区含む）区　：旧長滝墓地域含む

植田池遺跡の中央部にあたり、調査前の現況は居宅に供されていた。いくぶん高く盛土がなされているため、調査地西側は急激に比高を下げる。調査地は横風用滑走路跡地南端より北へ約50mに位置する。また調査地の約半分は旧長滝墓地域にあたる。

102区の調査

調査地西側は現代の耕作地区画による段差が認められる。東側にも段差を認めうる。生

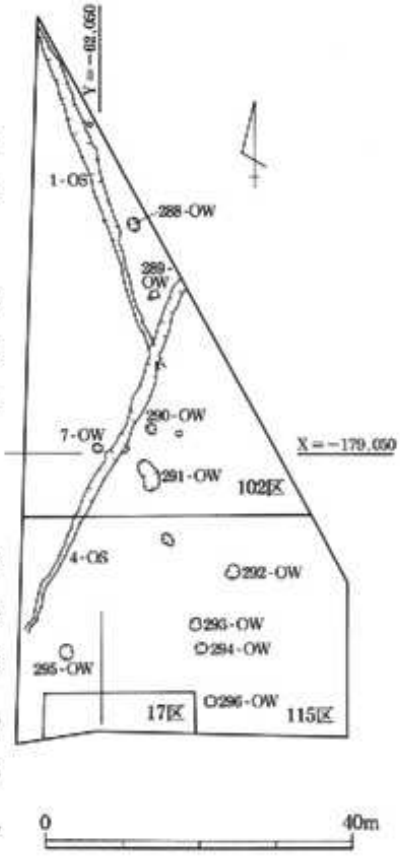
活の知恵とでも言うのであろうか、双方共に滑走路のコンクリート片を積み上げ畔畦を造り上げている。

1　位置と層序（第19・20図）

調査地は南西隅が直角になる直角三角形で、標高30.25mをはかる。第1層は現代の盛土で層厚1mをはかる。第2層は現代の耕作土（黒褐色土7.5Y3/2）で層厚は0.15mをはかる。第3層は現代の床土（赤褐色粘質土5YR4/8）で層厚0.05mをはかる。第4層は地山（明黄褐色粘土10YR6/8）で上面の標高29.05mをはかる。

2　遺構

遺構は井戸5基、溝2条を検出した。すべての遺構は横風用滑走路建設時に削平を受けている。溝は旧長滝墓地域を画するものである。井戸は墓地域外に営まれたいわゆる野井戸がほとんどである。埋土はほとんどが赤褐色土系の地山混じりの耕作土で充塡されている。移転前の墓地域は結界溝を挟んで耕作地が隣接していたようである。



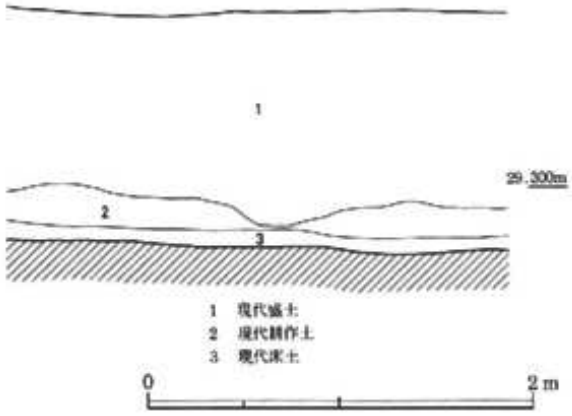
第19図　102・115（17区含む）区概略図

1－OS

調査区を北北西から南南東方向に縦断する。4－OSと交差する付近で削平を受け消滅している。旧長滝墓地域の東側を画する結界溝で安松川と呼ばれる。検出長44m、最大検出幅1.75m、深度0.35～0.05mをはかる。

4－OS

調査区北北東から南南西方向に縦断する。旧長滝墓地域の南東側を画する溝である。現在の耕作地区画になるとき暗渠化されたと考えられる。断面観察によると溝の



第20図　102・115(17区含む)区基本層序図

底に地山粘土（にぶい橙色粘土2.5Y6/4）を充塡し、その上部に土管を据えているのが観察できる。検出長（115区含む）50m、最大検出幅1.6m、深度0.5～0.1mをはかる。

７－OW

調査地墓地域内で検出した。長径1.3m、短径1.1mをはかる。やや楕円気味の井戸でほぼ直に掘り込まれている。深度１mまで掘り下げたが深さは不明である。規模や埋土とも墓地域外検出のものと大きく変わるものではないが、隣接する55区内に旧長滝墓地入口の存在を想定しているので、墓地に付随する井戸と考えている。現代の墓地の多くも入口付近に井戸等の水汲み場を設けており、墓地と水場との関係を想定した。

288－OW

１－ＯＳ東側で検出した。長径1.5m、短径1.2mをはかる。楕円形を呈する井戸である。ほぼ直に掘り込まれており、深度１mまで掘り下げたが深さは不明である。いわゆる野井戸で墓地域外に営まれた耕作地の水利に供するものと考えている。

289－OW

288－OWの南側約10mのところで検出した井戸である。墓地域との関係や形態・用途は他の井戸と変わらない。直径１mをはかり、ほぼ円形を呈している。

290－OW

４－ＯＳ東側で検出した。規模・形態など289－OWと変わらない。

291－OW

290－OW南側５mで検出した。長径４m、短径２mをはかる不定形な土坑状の井戸である。深度１mまで確認している。

115区の調査（17区含む）

１　位置と層序（第19・20図）

調査地は102区の南側に接して東西に長い長方形である。各層序や標高・層厚などは102区と変わらない。

２　遺構

調査地は居宅・擁壁などの攪乱が顕著にみられる。遺構は溝１条と井戸５基を検出している。溝については102区検出の４－ＯＳの延長部分を検出しているが、南端部を後世の水利溝に攪乱されているので、特に旧墓地域外の隣接調査区との接合関係など不鮮明である。井戸の用途・形態・埋土などは102区検出のものとほとんど変わらない。

292－OWは長径1.8m、短径1.5mの不整な楕円。293－OWは長径1.7m、短径1.5mの隅丸方形。294－OWは一辺1.25mの隅丸方形。295－OWは直径２mの少し歪な円形。296－OWは一辺1.25mの隅丸方形。いずれも深さ１mまで掘削したが深度は不明である。

第９項　29・30・32・100、旧長滝墓地域内31（７・８区含む）・36（１～３区含む）・37・95・96区

植田池遺跡の中央部から北西部一帯にあたる。調査前の現況はほとんどが田畑であり、一部居宅や工場が存在した。また調査地は横風用滑走路跡地であると共に、その大部分が滑走路建設により移転させられた旧長滝墓地跡でもある。

29区の調査

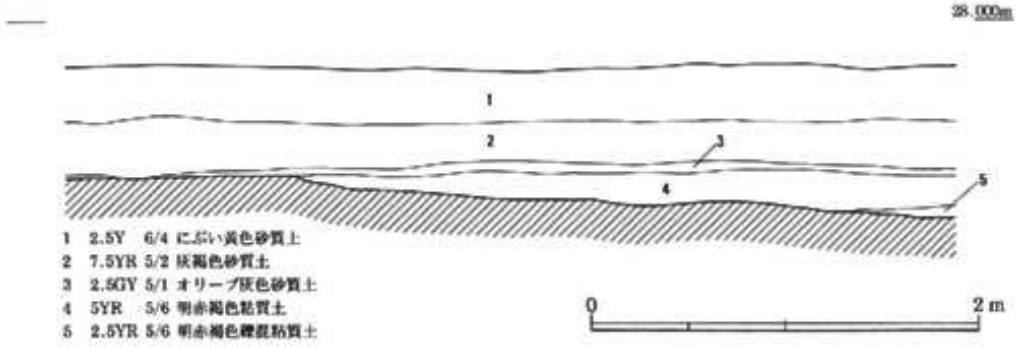
調査地西および北側は現代の耕作区画の段差が認められ標高を下げる。調査前の現況は田畑に供されていた。

１　位置と層序（第21・22図）

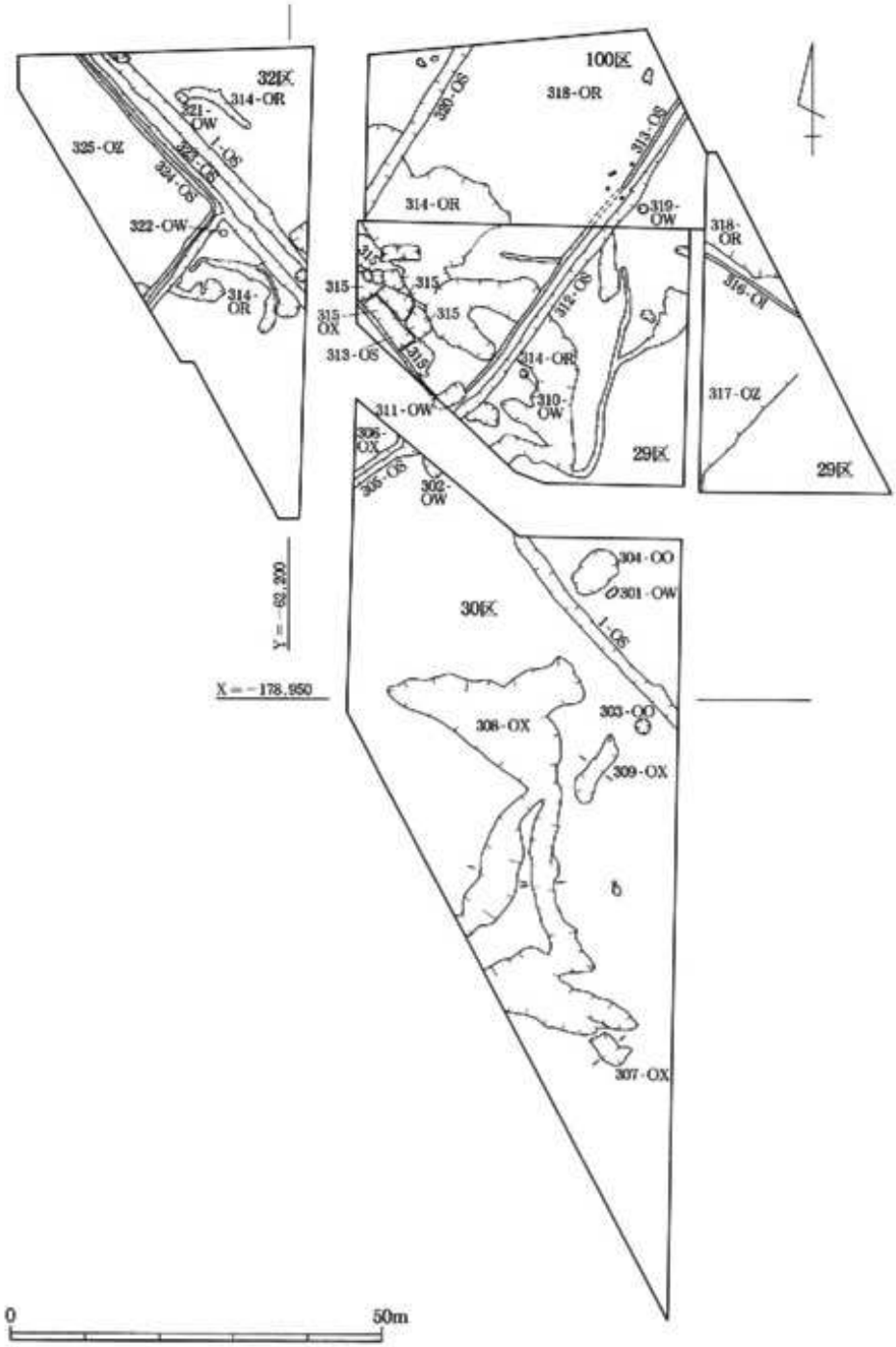
調査地は直角三角形と台形が接合した不整形で、標高は27.8mをはかる。第１層は現代の整地層で層厚は0.3mをはかる。第２層は旧飛行場滑走路建設時の整地層で、層厚は0.2～0.3mをはかる。第３層は第２層充塡時の昭和19年当時の耕作土で、削平を受けて層厚は0.05mしか遺存しない。第４層および第５層は318－OR埋土である。層厚はそれぞれ0.2mをはかり、第５層は礫混じりである。

２　遺構（第23・24図）

遺構は井戸２基、溝２条、暗渠水路１条、自然流路２条のほか粘土採掘坑群を検出している。



第21図　29区基本層序図



第22図　29・30・32・100区概略図

310－ＯＷ

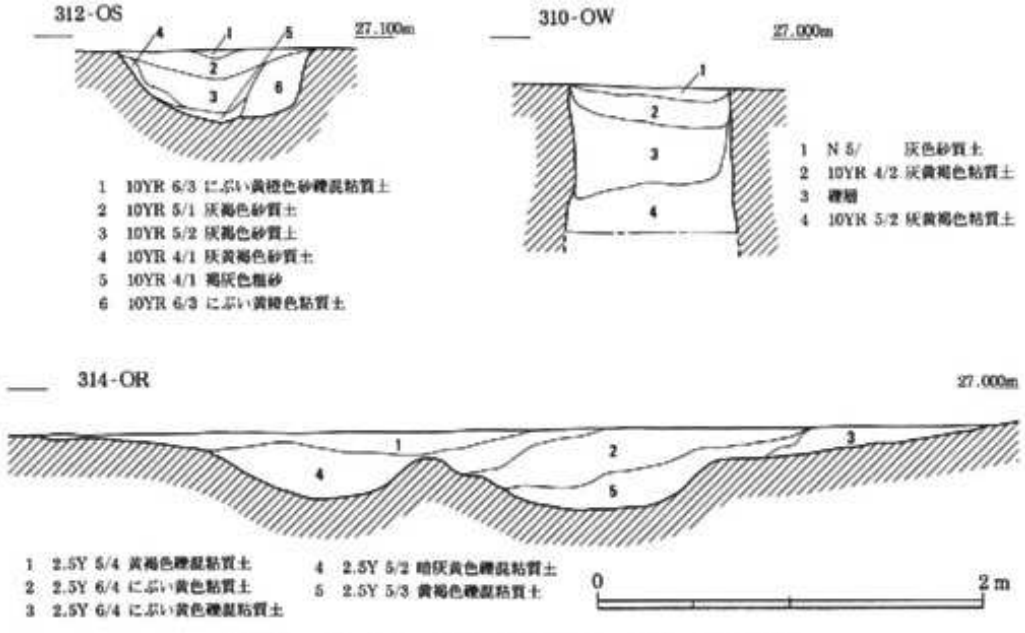
南西寄りで検出した。長径1.0m、短径0.8mをはかり、ほぼ直に掘り込まれた楕円形の井戸である。深度は0.8mまで確認したが、314－ＯＲの地下水脈の影響を受け湧水も激しく掘削を断念した。埋土中から現代の瓦片が出土しており、耕作に伴ういわゆる野井戸である。

311－ＯＷ

南西隅で検出した。312・313－ＯＳと接して存在しており、機能は310－ＯＷと同じで両溝よりの集水機能を併わせもつ。一部調査地外であり、全体の規模は不明であるが、北東方向に長い楕円形を呈すると思われる。検出規模は長径3.5m、短径2.1mをはかる。断面は上部が口の開いたＵ字形を示し、埋土はレンズ状に堆積している。湧水激しく、深度0.9mまで掘削した。

312－ＯＳ

１－ＯＳは空港連絡道路用地内を南東から北西方向に貫く旧安松川と呼ばれる幹線水路である。312－ＯＳは同溝に取りつく分水路と考えている。取り付き部分は調査地外で不明である。南西から北東方向に伸びる。検出長33m、検出幅１m、深度0.4mをはかる。調査地南東側とはこの溝を挟んで北西側が検出面では0.2m低い。断面は基本的に口の開いた浅いＵ字形であるが、東側片口に石垣状の礫積の痕跡が認められ、実際上は幅0.5m



第23図　29区310－ＯＷ・312－ＯＳ・314－ＯＲ断面図

程度の水路と考えられる。

313－ＯＳ

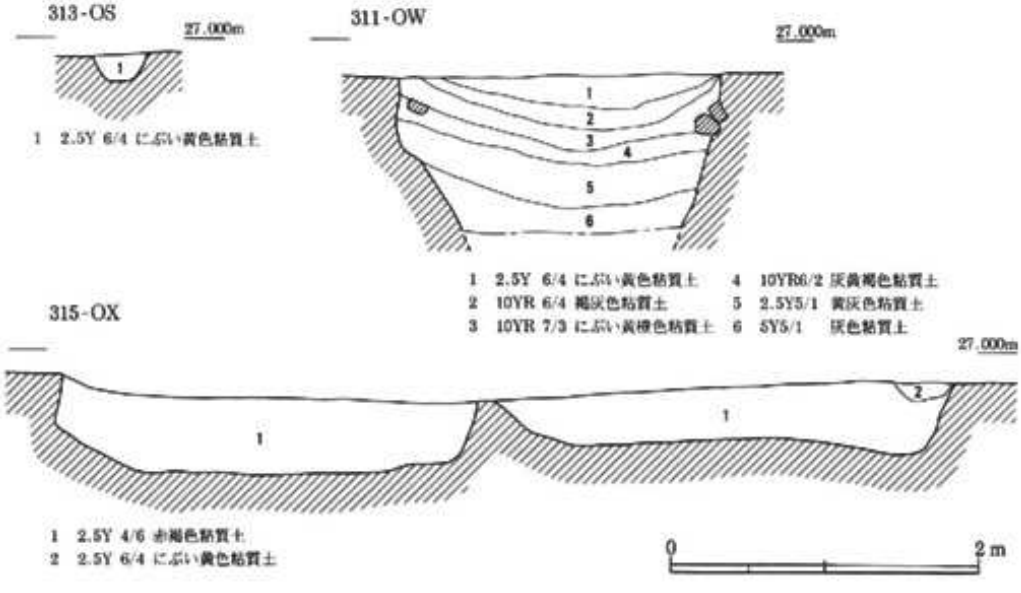
312－ＯＳと幅約１ｍの畦畔を挟んで並列する段落ち溝である。耕作地区画に沿って存在すると考えているが、南東側では１－ＯＳとの並列状況や311－ＯＷとの接合関係などは調査地外のため不明である。検出長43ｍ、検出幅0.35ｍ、深度0.18ｍをはかる。断面はロの開いたＵ字形である。

314・318－ＯＲ

それぞれ南東から北西方向に向かって流れる自然流路である。遺物は含まないので時期は不明である。314－ＯＲは複雑に蛇行しながら、32区にもその痕跡をとどめる。318－ＯＲは100区へと広がり、314－ＯＲとは明確に深度や層序も違うことから新しいと考えている。

315－ＯＸ

西隅部で検出した。粘土採掘坑群である。明瞭に区画を判別しうるものは４カ所あるが、さらに北西部に連続して存在している。調査区内での立地を考えると概ね312－ＯＳから東側は地山が礫層であり、なおかつ耕作地区画溝である313－ＯＳに沿って存在していることを考えれば、該当する耕作区画に規制された遺構といえよう。掘削時期も313－ＯＳよりは古いが、区画そのものの構築時期より大幅に遡らないと考えられる。ただ残念なこ



第24図　29区311－ＯＷ・313－ＯＳ・315－ＯＸ断面図

とに掘削後の充塡埋土からの遺物の出土は全くなかった。しかし充塡埋土中には比較的よく締まった赤褐色土系の地山粘土（明黄褐色10ＹＲ6/8）や最大0.2mまでの地山礫を混合させており、耕作地そのものの保全を意識した埋土充塡方法の傍証と捉えられないであろうか。検出長径4.0～8.5m、検出短径2.3～3.5m、深度0.4～0.7mをはかり、それぞれ不整な長方形や楕円形を示す。断面形状も一定でなく、垂直に掘られていたりオーバーハング気味に掘られている。

316－ＯＩ

現代の暗渠水路である。312－ＯＳと直交する形で、南東から北西方向へ伸びる。検出長16m、検出幅0.3m、深度0.25mをはかる。318－ＯＲの南東肩口に沿って伸びており、317－ＯＺの前段階の区画を反映しているものかもしれない。

317－ＯＺ

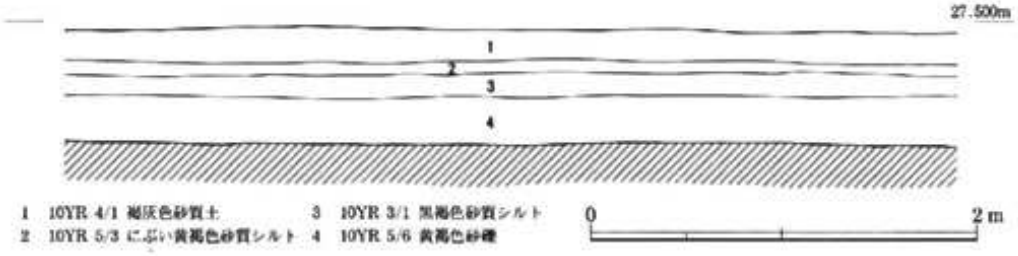
南東部で検出した。312－ＯＳとほぼ平行に南西から北東方向へ続く段で、北西側が0.15m低い。319－ＯＷ・316－ＯＩとの接合点（調査地外）・30区304－ＯＯ・29区311－ＯＷ付近をそれぞれのコーナーとすれば、約45m×30m＝1350㎡程度の区画となる。付近の耕作区画を観察してみると、それぞれの区画の隅部には集水機能を備えた、いわゆる野井戸を配置している。

30区の調査

調査地東側の36区とは旧飛行場滑走路のコンクリートを利用した畦畔による段差が認められる。標高は27.4mをはかり、約0.7m低い。調査前の現況は田畑に供されていた。

1　位置と層序（第22・25図）

調査地は長辺が東向きの台形に北側に三角形が取りつく不整な五角形を呈する。調査地全般に大きく削平を受け、南端部は旧長滝墓地の一角を占めるが、該当する遺構の検出はない。第１層は現耕作土で層厚0.20mをはかる。第２層は現床土で層厚0.06mをはかる。



第25図　30区基本層序図

第３層は戦後（第二次世界大戦）の旧耕作土で層厚0.15mをはかる。第４層は戦後の旧耕作面構築に伴う整地土である。

２　遺構

戦前の旧耕土や旧飛行場建設に伴う整地土も削平を受け、比較的深い遺構のみが遺存している。井戸２基、土坑２基、溝２条、粘土採掘抗群などを検出している。

301－ＯＷ

掘削前から確認し得た野井戸である。満々と水を湛えており掘削を断念した。平面形状は1.5m×1.0mの楕円形である。

302－ＯＷ

北西部で検出したが大半が調査地外であるため不明な部分が多い。埋土は第３層が堆積している。検出範囲は3.0m×1.5mの半楕円形である。

303・304－ＯＯ

北東部で検出した。303－ＯＯは直径３ｍでほぼ楕円形を示し、深度１ｍをはかる。304－ＯＯは6.5m×4.0mの楕円形で深度1.5mをはかる。それぞれほぼ垂直に掘り込まれており、第３層が堆積している。

１－ＯＳ

旧安松川と呼ばれる幹線水路である。調査地内での検出長は32mをはかる。上部は削平を受け、検出幅1.5m、深度0.2mしか遺存しない。断面形状は口の開いた浅いＵ字形を示す。埋土は礫および赤褐色土系の地山粘土で、旧飛行場建設時の整地土が充填されている。

305－ＯＳ

戦後の耕作地区画溝である。検出長９ｍ、検出幅0.5～２ｍをはかり不規則である。深度は0.1m程度遺存する。断面形状は浅いＵ字形で、埋土は第３層が堆積している。

306－ＯＸ

305－ＯＳ北西側で第３層の堆積を確認した。調査地北西端部の狭い範囲の確認であり、遺構記号をＯＸとしたが305－ＯＳに画された耕作区画と考えている。

307・308・309－ＯＸ

調査地中央部で検出した粘土採掘坑群である。採掘に規則性はなく、特に308－ＯＸは規模も大きい。50m×26mの範囲を縦横無尽に採掘している。採掘深度は0.2～0.6mと不規則であるが、充填埋土は赤褐色土系の粘土と地山礫との混合土である。埋土中からは染付茶碗・土師器・格子目瓦片が出土した。

32区の調査

調査前の現況は調査区北側が田畑に供され、南側は農道の高さまで盛土がなされて果樹園に供されている。

1　位置と層序（第22・26図）

植田池遺跡の北西端部に位置する。長辺が北を向いた台形を接続した形を呈する。東側農道を挟んだ調査区より0.6m低く、農道より1m低い。標高26.4mをはかる。現代の盛土を除くと第1層は現耕作土である。直下は明黄褐色微砂（10YR6/8）の地山となる。断面観察によれば地山を削りだした畦畔が観察され、調査地が大きく削平されて現代の耕作地区画が造られたことがわかる。また調査地北東部の一角が段状に落ち込んでいるのが確認された。

第26図　32区基本層序図

2　遺構（第27・28図）

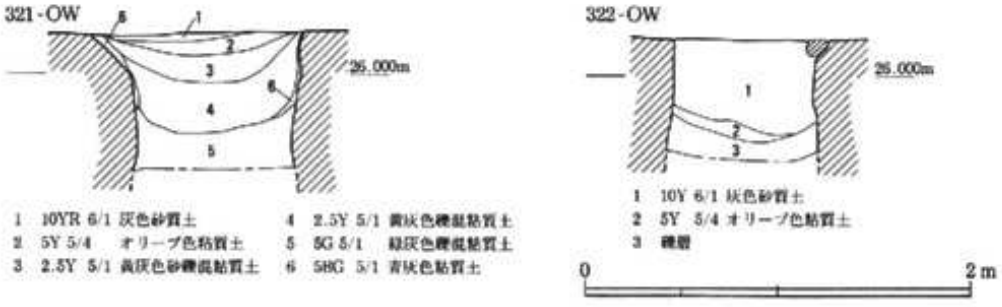
調査では井戸2基、溝3条、耕作地1区画、自然流路群を検出した。

321－OW

北部で検出した形状が隅丸方形を示す素掘の野井戸である。長径1.5m、短径1.0mをはかる。深度0.7mまで確認したが湧水もあり掘削を断念した。断面は北西側上部が開くが基本的には直に掘り込まれている。

322－OW

中央部で検出した円形の素掘の野井戸である。直径0.75mをはかる。やや下方に開き気



第27図　32区321・322－OW断面図

味に掘られており0.6mで掘削を断念した。

１－ＯＳ

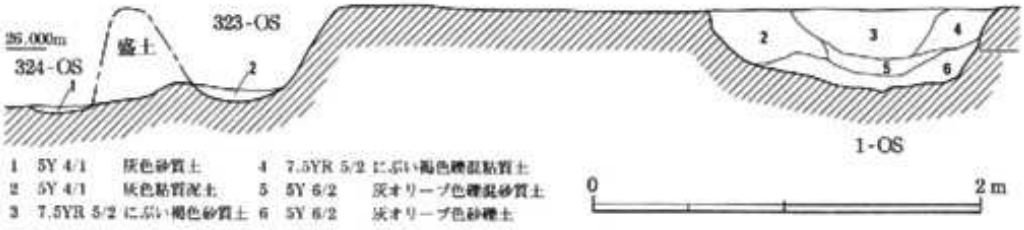
旧安松川と呼ばれ南東から北西方向に直進する溝である。検出長40mをはかる。検出幅1.5m、深度0.4mをはかる。断面は口の開いた浅いＵ字形を示す。

323－ＯＳ

１－ＯＳと幅２ｍの旧農道跡と考えられる空間を挟んで並列する溝である。中央部で幅を狭めるとともに、ほぼ直に南西方向に屈曲するものと直進するものに分かれる。分水部付近には人頭大の礫を並べる水口導水部が観察された。さらに２条に分かれた溝それぞれには324－ＯＳへの水口部と見られる人頭大の礫の集積が認められる。残念ながら324－ＯＳとの間に存在した畦畔の盛土は掘り飛ばしてしまったが、わずかな地山の盛り上がりによりその位置と、調査地の断面観察によりその存在を復元しえた。畦畔基底部の幅0.5m、畦畔高0.5mと推定される。分水部までの溝の幅、深度等は１－ＯＳと変わらない。分水後の幅は0.7m、深度0.45mをはかる。

324－ＯＳ

323－ＯＳ分水後の流路と畦畔を挟んで並進する耕作区画段落ち溝である。検出長43m、幅0.3mをはかる。



第28図　32区１・323・324－ＯＳ断面図

325－ＯＺ

323・324－ＯＳにより画された耕作区画である。調査地内で検出した溝・井戸・道とは一連のセット関係にあり、昭和19年以前の幹線水路・農道・分水路と耕作区画との立地上の景観を示す一例と言えよう。

314－ＯＲ

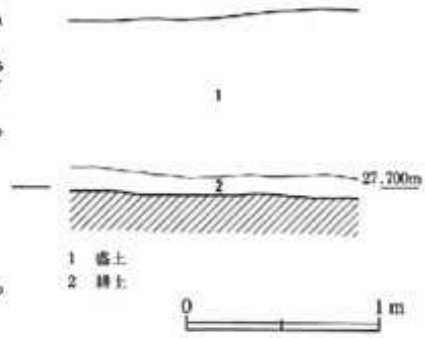
隣接する29区より伸びる自然流路の一群である。調査地が大きく削平され全般的なつながりは確認できない。

100区の調査

植田池遺跡の北西端部にあたる。調査前は工場敷地でかなり盛土されている。隣接調査地29区とは段差が認められる。

1　位置と層序（第22・29図）

調査地は長辺が29区と接する不整な五角形をしている。標高28.8mをはかる。第1層は工場敷地の盛土である。層厚0.9mをはかる。第2層は現耕作土である。層厚0.1mをはかる。



第29図　100区基本層序図

2　遺構

基本的に29区検出の314・318－ＯＲが全面に広がる。1－ＯＳの分水路1条、井戸1基を検出した。

319－ＯＷ

東部で検出した直に掘られた素掘の野井戸である。317－ＯＺの区画北西隅部にあたる。直径1mをはかる。深度0.7mまで掘削した。第2層が堆積する。

320－ＯＳ

1－ＯＳとの接続部は調査地外のため不明である。312－ＯＳと幅・深度などは変わらない。検出長27mをはかる。

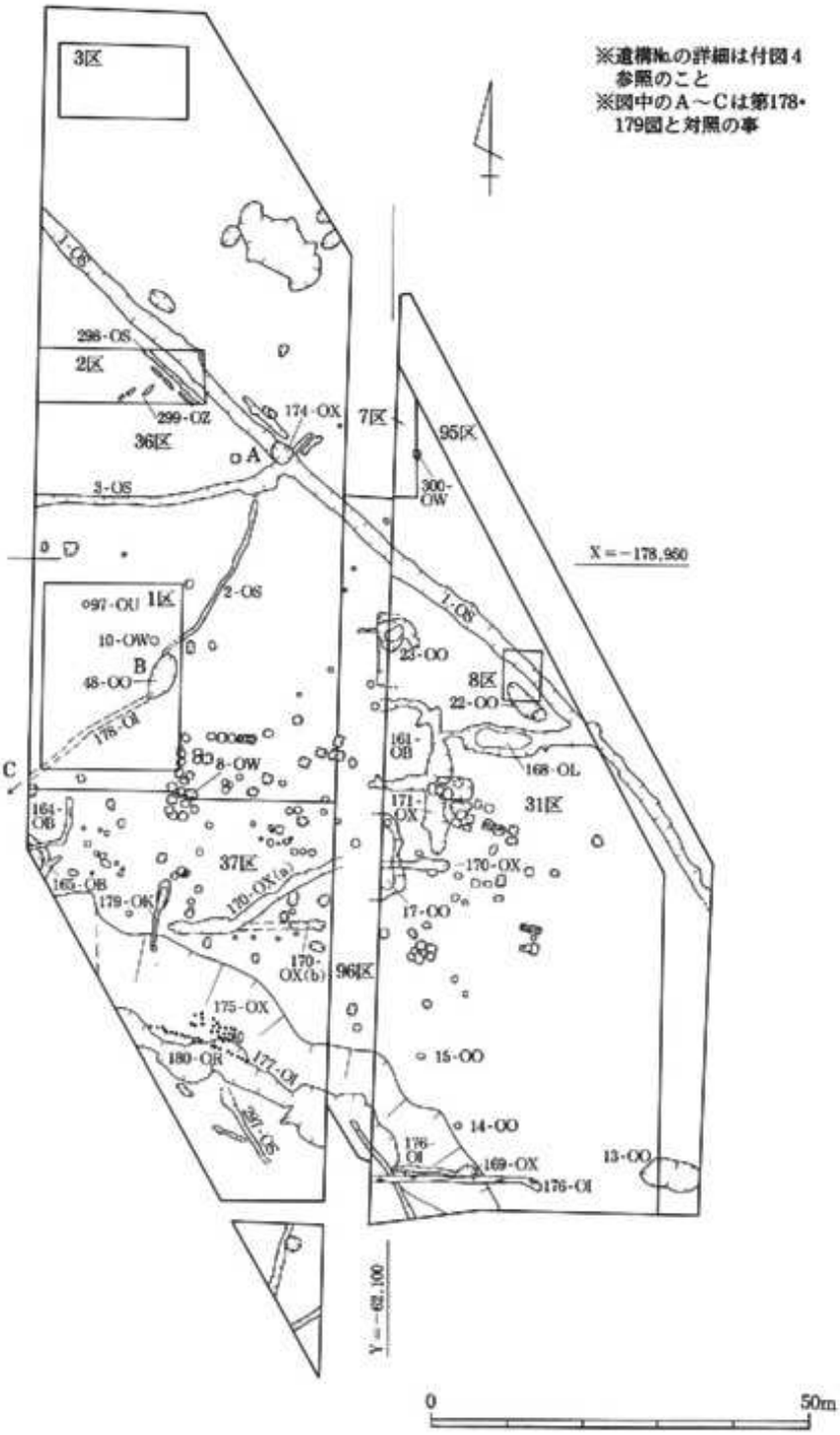
旧長滝墓地域内31（7・8区含む）・36（1～3区含む）・37・95・96区の調査

墓地域を含む各調査地は南北方向に伸びる農地区画道路（行政的には個々に空港道路番号が与えられる）を挟んで、東側にいくほど比高を上げる。調査前の現況はほとんどが田畑に供されており、泉州名産の玉葱を集積する「タマネギ小屋」と呼ばれる農作業小屋が散見される。一部東端部ではコンクリート擁壁内を高く盛土した居宅が存在した。

第30図　慰霊祭風景

1　位置と層序（第30～36図）

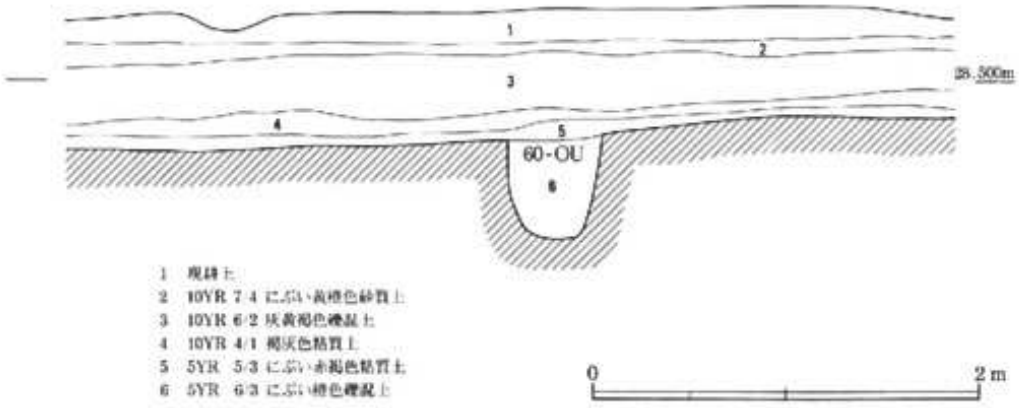
旧長滝墓地域は、明治年間作成の「日根郡長瀧村切図」（本稿挿図では水利と道を抽出し水利図として掲



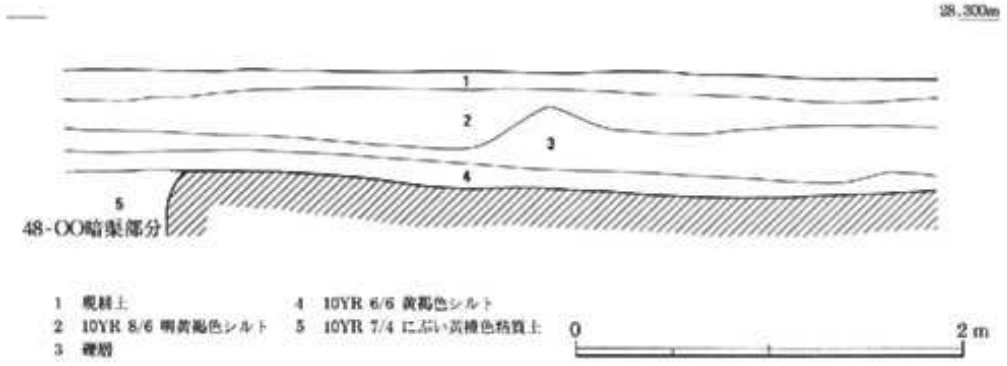
第31図　31（７．８区含む）・36（１～３区含む）・37・95・96区概略図

載している・以後水利図と呼ぶ）によると北北西から南南東に長く北西部が一部突出した形となっている。旧安松川などの結界溝で区画されていたらしい。調査地内で検出した溝との位置関係などの比較から明治年間の切図に示された旧墓地域の範囲を辛うじて確認することが出来た。一部は調査地外のため全ての範囲確認は出来なかったが９割以上の範囲を確認している。旧長滝墓地域にかかる各調査区は農道や進入路等々の確保の制約もあり、形状が台形もしくは台形を接合した形となっている。

31区の標高28.85mをはかる。第１層は現耕作土で層厚0.30mをはかる。第２層は現床土で層厚0.1mをはかる。第３層は旧飛行場建設に伴う整地土で層厚は0.20～0.35mをはかる。第４層は旧長滝墓地存在時の整地層で層厚0.05～0.10mをはかる。第５層は同じく墓地存在時の整地層で161－ＯＢ構築時のものである。層厚は0.05～0.10mをはかる。第６層は60－ＯＵ隅部の掘方埋土である。



第32図　31区基本層序図



第33図　36区基本層序図

36区の標高28mをはかる。第１層は現耕作土で層厚0.1mをはかる。第２・第３層は戦後の耕作地構築のための整地層である。層厚は第２層0.1～0.3m、第３層0.1～0.3mをはかる。第４層は旧長滝墓地存在時の整地層である。層厚0.1mをはかる。第５層は48－ＯＯを水源とする178－ＯＩの掘方埋土である。

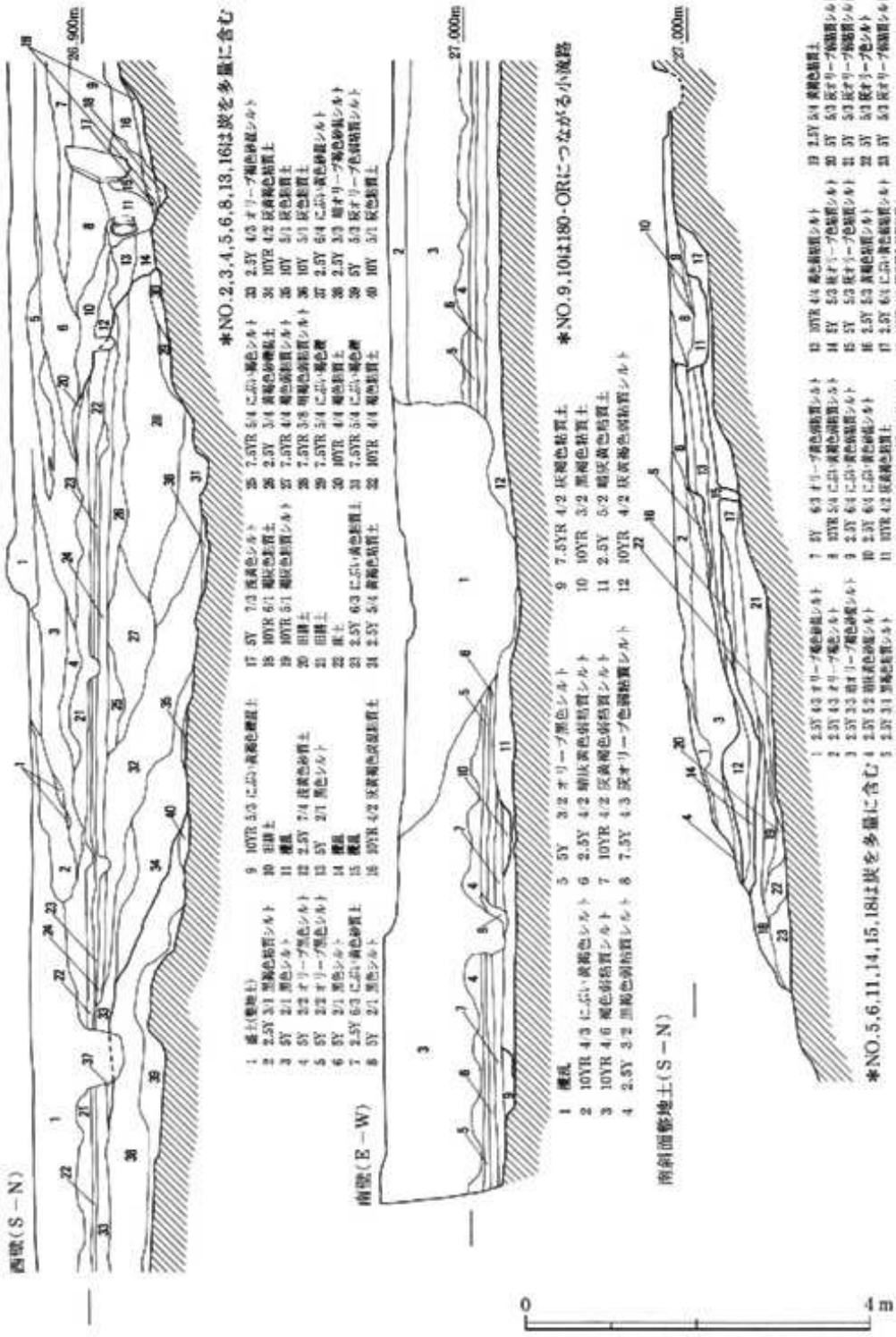
37区の標高27.7mをはかる。調査地中央部付近が中位段丘面の傾斜変換点にあたるため調査地北側の層序と中央部および南側の層序とは大幅に違いがある。北側の層序は第１層が現耕作土で層厚0.15mをはかる。第２層は旧飛行場建設時の整地層（灰黄褐色礫混土：10ＹＲ6/2）で層厚は0.25～0.4mをはかる。第２層直下は黄褐色土系のシルト質粘土混じりの砂礫層（地山）である。

中央部は第２層直下に旧長滝墓地の整地土が堆積している。この整地土は中位段丘面傾斜変換地点の斜面に堆積しており、火葬後の灰を斜面下方に押し退けたり、あるいは南斜面に向かって墓地の整備・拡張のための盛土がされたため、炭層と互層をなしている。炭層の堆積層ごとに旧長滝墓地の時間的な遺構面が想定されるが、墓地域全体が後世の大規模な削平（旧飛行場滑走路建設）を受けているため、墓地域内検出の遺構と整地土内の遺構面との関係はあまり判然としない。しかし整地土中に包含される遺物などから墓地域内検出遺構との時間的な先後関係などはおおむね看取される。たとえば165－ＯＢの罹災建物と苅入り焼土塊と二次焼成を受けた瓦等の遺物を包含する整地土との関係を考えると、建物罹災以後にそれらの遺物を傾斜面に投棄・整理することにより整地土も形成されたと言える。

第34図　37区南半部上層遺構概略図

なお旧長滝墓地域内で使用する「整地土」とはこれらの段丘面傾斜変換点斜面に堆積した「炭層」などの土層を指し示す。整地・拡張に伴って墓地域内外を隔絶する、いわゆる「結界溝」も移動することとなる。「整地土」と「結界溝」とは地形的な条件もあり、旧長滝墓地南側ではセット関係にある。

南部は墓地域外にあたり、第２層直下に昭和19年当時の旧耕作土・旧床土が堆積する。層厚はそれぞれ0.2・0.1mをはかる。さらに下層の土層は傾斜面下位に堆積した整地土層や自然流路の埋土である。とくに「整地土」南側直下の埋土は当該地が不安定な立地条件にあることを示している。傾斜変換点付近の水を集めて流れる自然流路が存在している。



第35図　37区西壁・南壁・南斜面整地土断面図

この自然流路が傾斜変換点の上位と下位を隔絶したものであり、墓地域の形成や拡張・整備時の整地の必要を生み出した、「結界溝」の前身であったと考えられる。

95区の標高28.85mをはかる。層序は第１層が現耕作土、第２層が現床土で、それぞれの層厚は0.25・0.10mをはかる。第２層直下は地山で褐色土系の砂礫土であった。旧長滝墓地の東側にあたり、大きく削平をうけた旧安松川のみを検出している。

96区は31区と36・37区に挟まれた農道部分にあたる。このため層序もほとんど変わりはないが、農道としていくぶん盛土がなされたり、両サイドに現在の水路なども穿たれたりしているため、攪乱部分が多い。

２　遺構

各地区で検出した遺構はそのほとんどが旧長滝墓地域内におさまる。墓地域形成以前および以後の遺構を含めて、墓地域を画する溝６条、井戸４基、土坑48基、墓壙102基、建物５棟、柵列・祭祀・池各１、その他不明７、水利施設３基、瓦窯１基、自然流路１条を検出した。

溝は墓地内外を画する「結界溝」である。土坑についてはそのほとんどが木の根の痕跡であるが、二次埋葬土壙および墓壙の確定が出来ないものも含まれる。

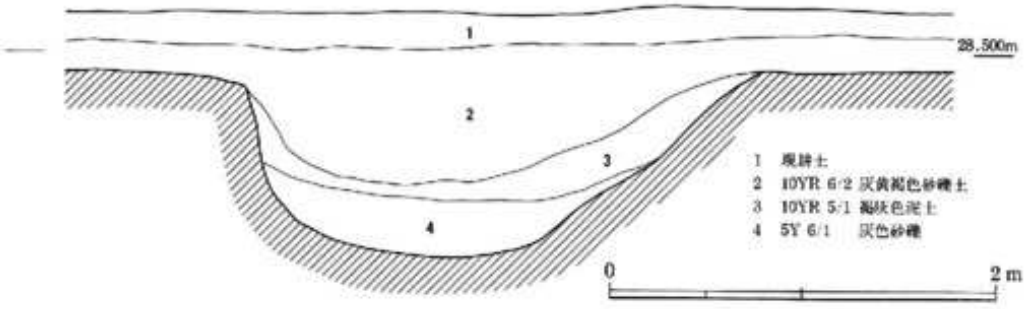
墓壙は数多く検出している。それぞれが掘方をもち棺や埋納骨および副葬品を伴うものではない。中にはかなり不鮮明なものもあるが、掘方の形態やその方向性・位置関係などを考慮して墓壙としている。それら全てを図示し得ないが、位置や配列、集合状態、棺の遺存状態、副葬品などを考慮して抽出し図示した。主体部の形態、法量、副葬品の種類などに加えて六道銭の枚数、集合状態と組合せ、墓域内出土銭貨の全ての種類、石造物の法量など一覧表を作成している。別項を設けて掲載しているので参照願いたい。

水利施設については墓地消滅以後、瓦窯については墓地出現以前の構築である。その他の遺構については墓地存続時のものである。

１－ＯＳ

102区中央部から95・31・96区を縦断し36区北西隅部にいたる溝である。調査地内での検出長は175mにおよび、北西側に突出した弓形をえがく。旧安松川と呼称されており、幹線水路としてさらに北西に延びる。３－ＯＳとの接合部までが旧長滝墓地域を画する「結界溝」にあたる。検出長125mをはかる。調査地が東および南側に削平を受けているため、102区内４－ＯＳとの接続部付近ではほとんど消滅していた。比較的遺存状態が良い31区では、幅2.6m、深度0.9m遺存していた。断面形状は口の開いたやや深いＵ字形を

第36図　旧長滝墓地内遺構（墓壙）配置図

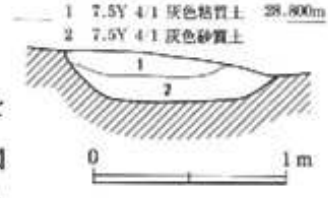


第37図　31区１－ＯＳ断面図

しめし、埋土は、上部が旧飛行場建設時の整地土層が堆積しており、下部は埋設時以前の泥土や砂礫層が堆積していた。断面観察でみるかぎり、埋設時直前の深度は0.6mをはかる。

２－ＯＳ

３－ＯＳと１－ＯＳとの接続部付近から約５ｍ３－ＯＳに入ったところで南西方向に分岐する溝である。接続部付近は削平を受けて消滅している。３－ＯＳ接続部付近は土坑状の広がりを持っており、集水機能と２－ＯＳへの分水機能を持った水利施設の存在が想定される。流路は南西方向に曲折しながら48－ＯＯの湧水土坑（淵）へと続く。明治年間の長瀧村切図によれば48－ＯＯは存在せず、その付近で方向を西南西に変えて調査地外へ伸びている。変わって178－ＯＩが同一方向へと伸びる。水利図によれば墓地域の北西方向を画する「結界溝」である。検出長25m、幅0.4～1.1mをはかる。深度は0.10～0.25mしか遺存しない。断面は口の開いた浅いＵ字形をしめし、埋土は灰色系の粘質および砂質土が堆積している。



第38図　36区３－ＯＳ断面図

３－ＯＳ

１－ＯＳと分岐し西方向に伸びる溝である。検出長33mをはかるが、30区では完全に削平を受け消滅している。水利図によれば延長線上に今井池が存在することから、池に水を貯める導水機能を有していたと考えられる。検出幅0.8～１ｍ、深度0.3mをはかり、埋土は２－ＯＳと変わらない。近世初頭頃の墓壙と考えられる97－ＯＵが南側に存在することから、当時の墓地域の北限を画する「結界溝」の可能性がある。

４－ＯＳ

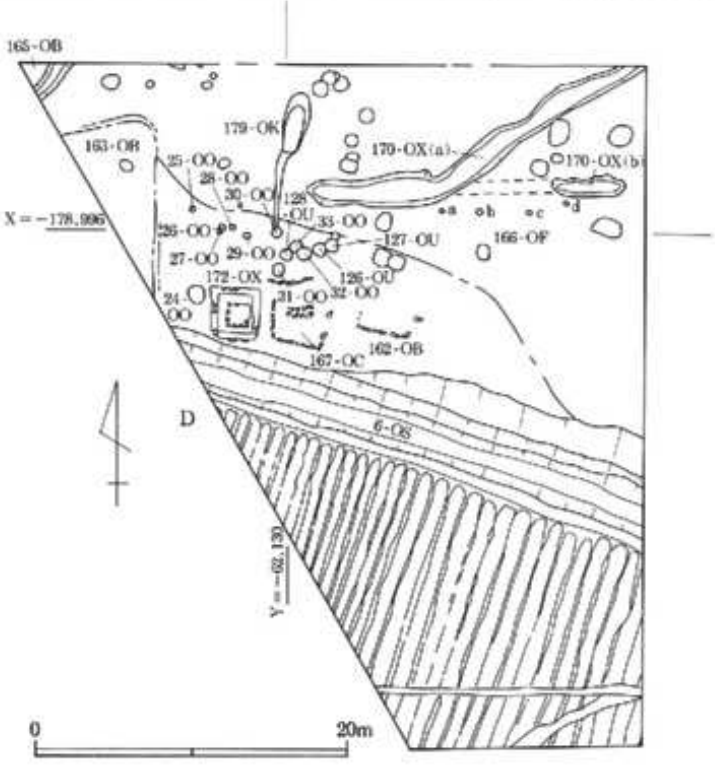
102・115区にまたがる墓地域南東部を画する「結界溝」である。詳細は第８項102区の調査を参照願いたい。

5－OS

4－OSと分岐し北西方向に向かい途中2条に分岐し西南西に屈曲する溝である。水利図によれば墓地域の南西方向を画する「結界溝」であるが、検出遺構面の違いもあり、6－OSとの連続性が不明確である。おそらくは傾斜変換点斜面に施された整地土上を北西方向に進むものであろうが、整地以前の景観の発掘を優先させたため判然としない結果となった。検出長30m、幅0.7～1m、深度0.2mをはかる。断面は口の開いた幾分深いU字形を示し、埋土は褐色土系の礫混じり粘質土が堆積している。

6－OS

5－OSと接続すると考えられるが、幅・深度共に規模が大きい。旧飛行場建設直前時の墓地域南側を画する「結界溝」である。37区の調査では溝を挟んだ対岸部で耕作に伴う多くの畝を検出した。溝肩口近くの墓地域内では溝肩口に並列する多くの木の根の痕跡を確認している。復元し得る当時の景観は墓地外が田畑で、溝を挟んだ墓地域内縁辺部には木立が茂り墓地内を覆い隠していたようである。検出長45m、幅3.5m、深度1.1mをはかる。断面形状は口の開いたやや深いU字形をしめす。埋土は飛行場建設時の整地土で埋められている。これらの埋土は墓地域内に存在する「整地土」を主体とし、墓地域内を削平して埋設されたと考えられる。埋土内には炭層の堆積もみられ、「整地土」崩落による自然な堆積も認めうる。断面観察によればコンクリート製の擁壁が墓地域内溝肩口に並列して据えられており、これらの崩落土の溝内への進入を防いでいたらしい。



第39図　旧長滝墓地域内37区南半部上層遺構配置図

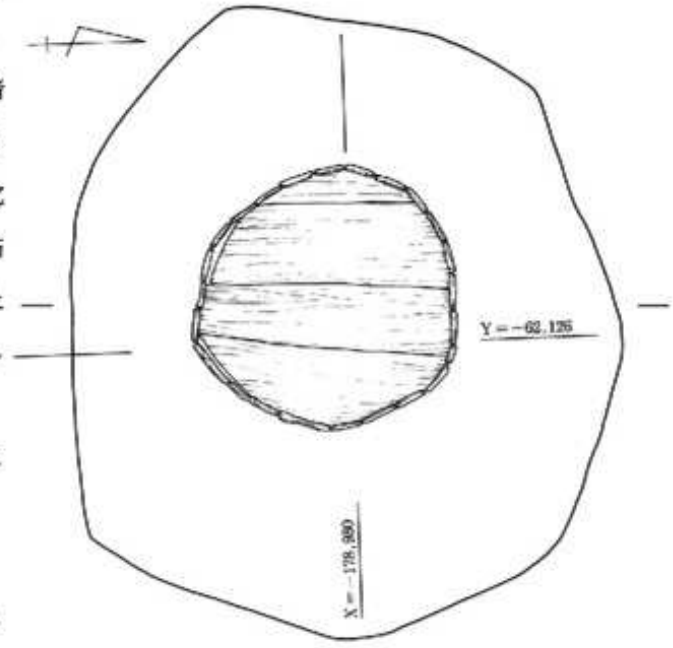
溝の埋設は複雑に配置された水利網を分断することとなる。このため埋設に先立って溝の暗渠化が行われている。４－ＯＳでは土管の埋設と共に土管の沈下防止と安定をはかるために粘土が充填されたが、ここでは土管の埋設に先立ち木杭を打設している。下層遺構面で検出し、177－ＯＩとした杭列がこれにあたる。

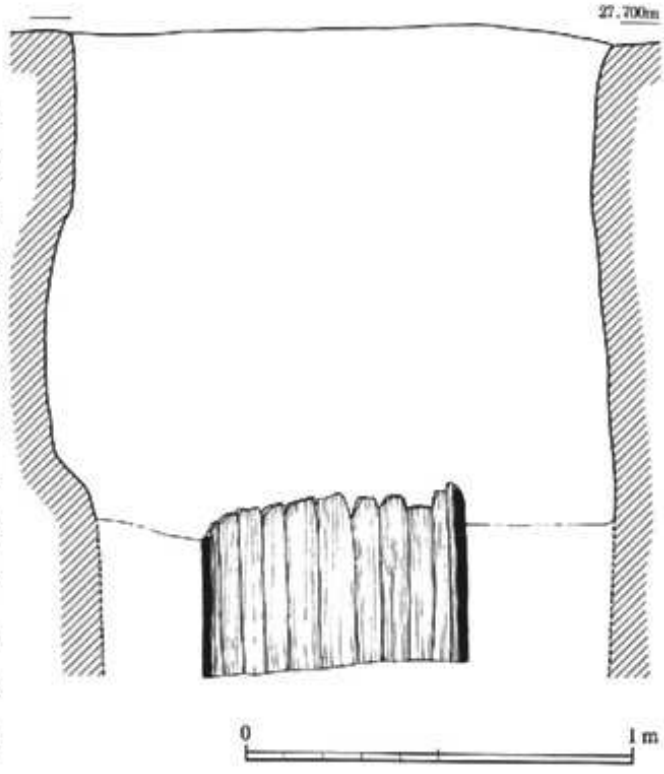
７－ＯＷ

102区の墓地域内で検出した井戸である。詳細は第８項102区の調査を参照されたい。

８－ＯＷ

36区南端中央の37区との地区境で検出した。105－ＯＵと接し137－ＯＵを切り込む。掘方長径1.6m、短径1.4mのやや歪な形状を示す。ほぼ直に掘り込まれており、深度1.65mをはかる。井筒の上部構造は不明である。深度約1.1mで湧水深度となり、最下部の井筒側板の上端に達する。側板上端部は腐食が著しく、さらに上部へと続くかは判然としない。あるいは湧水部に桶状の水溜め部を据えただけの簡便な構造のものかも知れ





第40図　36区８－ＯＷ平面・立面図

ない。水溜め部の桶状井筒の構造は4枚の板目製材を竹製の鎹で接続し円形の底板を作り、側板は幅0.1m前後の板目製材を底板下方に数cm突き出し、外側に25枚巡らす。まさに桶状の構造となっているが、箍の痕跡は観られない。側板の組合せも歪であり、側板と底板との隙間や側板と側板の隙間からの湧水が確認できた。

9－OW

36区南端の西寄りで検出した。164－OB北側に位置する。素掘の井戸で直径1mをはかり、直に掘り込まれていた。深度は0.7mまで確認したが不明である。埋土は明黄褐色礫混じり土（2.5Y6/6）で、泥人形、おはじき、瓦、角釘、鉄、指貫、糸切りもしくは型取り用の極小型のナイフが出土している。出土する遺物に生活臭が濃く、近接の建物に付随する井戸と考えている。

10－OW

36区中央部（1区内）で検出した。長径1.3m、短径1.1mの楕円形を示す素掘の井戸である。断面形状は上部が開き気味で、深度0.5m付近から下方に開く。深度0.9mまで確認したが深さは不明である。近接する48－OOと同時期に埋設されたようで黄褐色土系の土が堆積していた。

11～13・18・19－OO

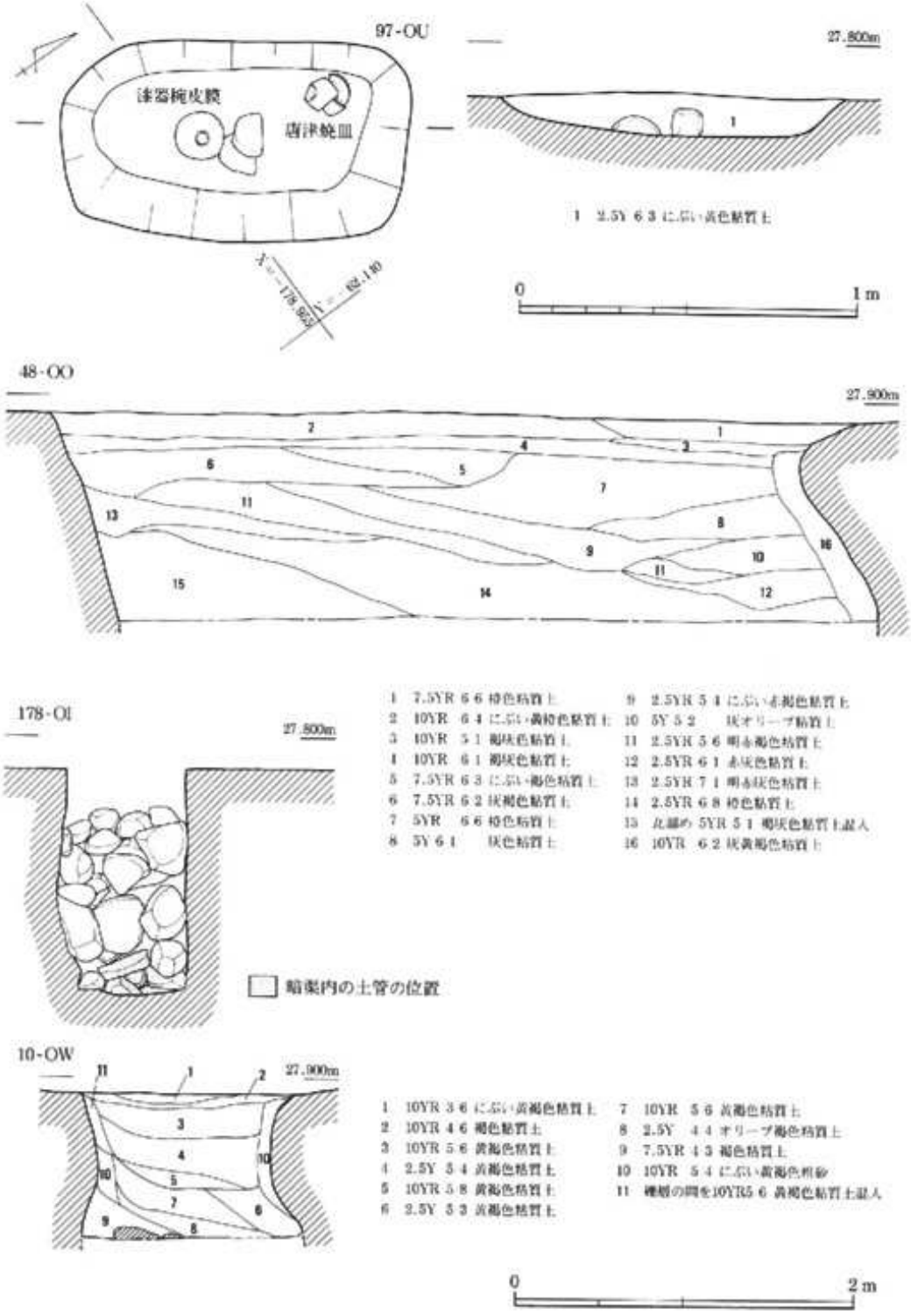
11・12－OOは55区、18・19－OOは31区、13－OOは31区と95区にまたがり検出した。調査当初は墓道のなごりではないかと考えたが、当該地の削平状況を考えると、墓地域消滅以後のものと考えられる。埋土はいずれも褐色土系の地山礫を多く含んでいた。

14－OO

31区南西部で検出した。傾斜変換点斜面より僅かに上位の平坦面で検出した。検出面の標高28.15mをはかり、形状は直径0.65mの円形である。深度は0.1m遺存する。頭蓋骨などが散乱しており、二次埋葬土壙と考えている。

15－OO

31区南西部の傾斜変換点付近の平坦面で検出した。標高28.1mをはかる。形状は直径0.9mの歪な円形をしめす。断面は口の開いたやや深いU字形をしめす。埋土は6層あり、上層から①暗褐色粘質土（10YR3/4）、②褐色粘質土（10YR4/4：粘土ブロック含む）、③黒色粘質土（2.5Y2/1）、④褐灰色粘質土（10YR4/1）、⑤オリーブ黒色粘質土（5Y3/2）、⑥黒色粘質土（2.5Y2/1）が堆積する。④は焼骨を多量に含み、④と⑤の土層は層厚0.03～0.05mの幅で互層をなしている。全層ともに灰および炭を多く含む。14－OOと



第41図　１区（36区内）10－ＯＷ、48－ＯＯ、97－ＯＵ、178－ＯＩ平面・断面図

違い火葬骨を埋葬した二次埋葬土壙と考えている。

16－ＯＯ

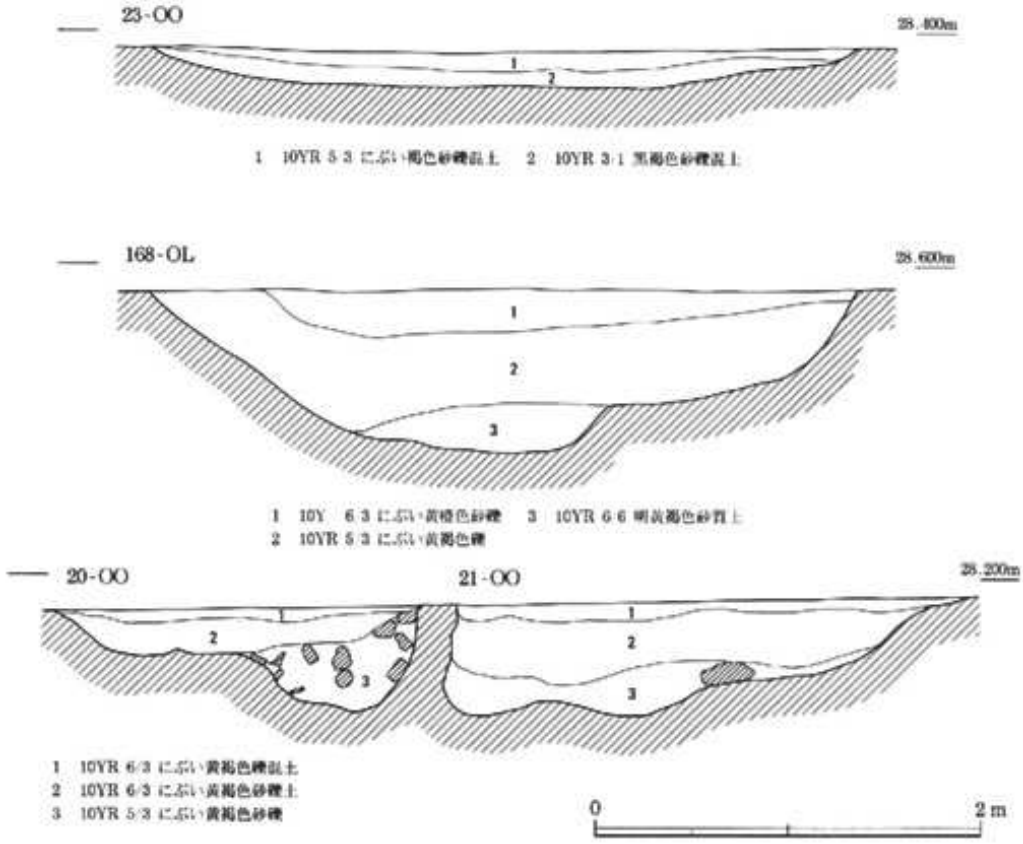
31区中央部で検出した。標高28.35mをはかる。形状は直径0.7mの円形を示す。桶形座棺底部の痕跡と思われるが、副葬品や腐食座棺の痕跡もないが土壙とした。深度は0.02m遺存し、埋土は褐色土系の粘質土が堆積する。

17－ＯＯ

31区中央部西端で検出した。標高28.3mをはかる。不定形土坑である。検出長径11.5m、同短径２mをはかる。深度は0.1～0.3mをはかる。埋土は赤褐色および黄褐色土系の地山ブロックを含む炭・灰などの混合土である。火葬後の炭など塵の廃棄土坑で焼骨を多く含んでいた。墓地域内にはこのような廃棄土坑が多く見られる。

20・21－ＯＯ

31区中央部で検出した粘土採掘坑である。標高28.1mをはかる。20－ＯＯの長径2.8m、



第42図　31区20・21・23－ＯＯ、168－ＯＬ断面図

短径2.0m、深度0.5mをはかる。21－ＯＯの長径４ｍ、短径３ｍ、深度0.55mをはかる。近接した位置にあり、双方とも不整形な形状を示す。断面形状は肩口・底部ともに一定ではない。起伏が著しくオーバーハングした部分も見られる。埋土は黄褐色土系の砂礫土で充塡される。埋土掘削中墓壙と考えられる落ち込みを確認したが、釘など遺物の出土もなく、その時期や先後関係などは不明である。規模は一辺1.1～1.4mの隅丸方形、深度0.6～0.7mをはかる。

22・23－ＯＯ

31区北部で検出した。17－ＯＯとおなじ機能を持つ廃棄坑である。平面形状は不規則で、長径６ｍ、短径２～３ｍ、深度0.18mをはかる。断面形状は口の開いた非常に浅いＵ字形を示し、埋土は炭を多く含む褐色土系の礫混じり土が堆積する。

24－ＯＯ

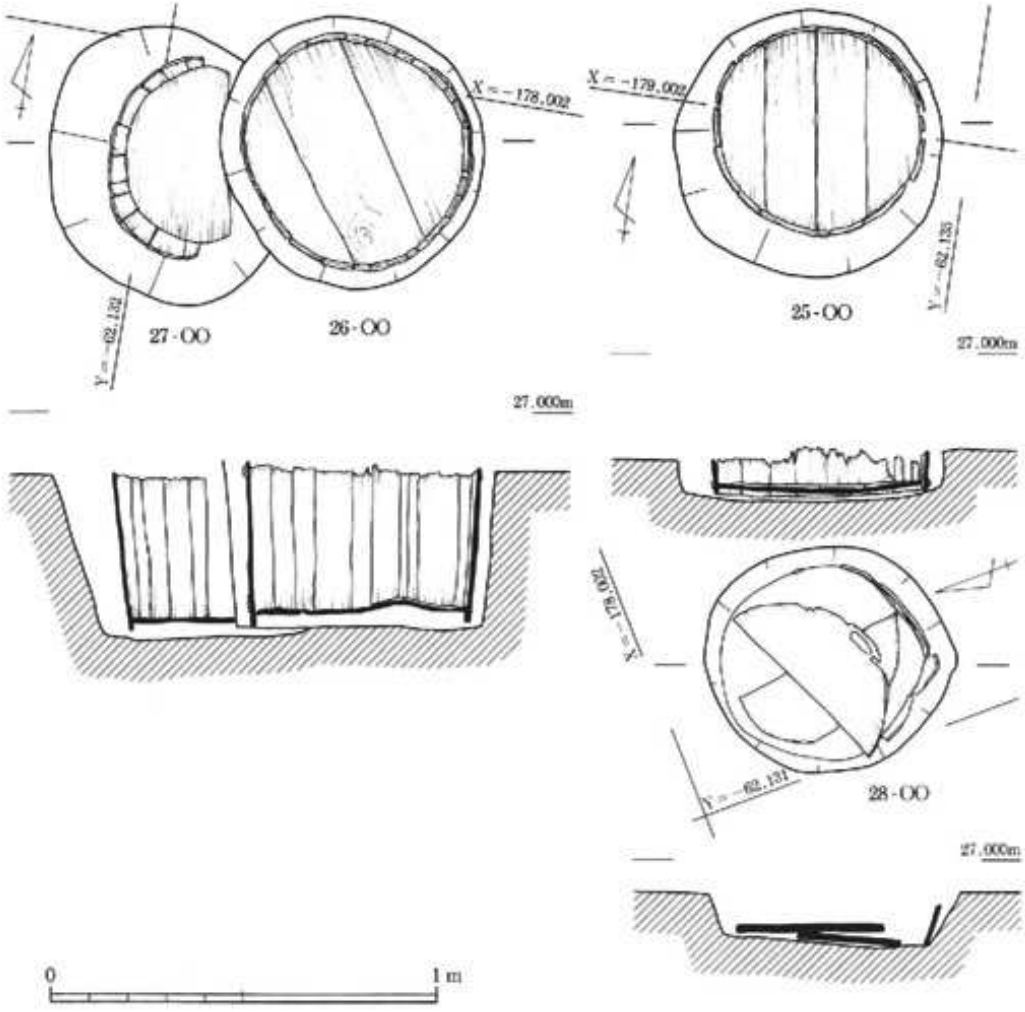
37区南部の「整地土」上面で検出した。標高27.3mをはかる。長径1.2m、短径１ｍの楕円形で、深度は0.3mをはかる。断面形状は口の開いた浅いＵ字形をしめす。埋土は暗褐色土系をしめし、一石五輪塔の残骸とともに充塡される。墓石残骸を廃棄した廃棄土坑と考えている。

25～28－ＯＯ

37区南部の「整地土」を掘り下げる過程で検出した土坑である。雨水あるいは「結界溝」から汲み上げた水を貯める「水桶」と考えている。整地土の断面観察によれば斜面上位付近に小規模であるが幅1.1m、深度0.3mの溝が認められる。溝からは近世瓦、染付磁器の出土をみている。この溝より斜面上位にこれらの土坑が近接して存在することを考えれば、溝は「結界溝」であり、土坑は「水桶」である可能性が高く、一時期の「水場」が想定される。土坑内からの遺物の出土はなく、墓壙副葬品のたぐいの出土もないことから墓壙ではない。墓地出入口付近の水汲み場を想定している。掘方埋土は黄褐色土系の粘質土（シルト）に砂礫を含む。桶内埋土は灰色土系の粘質土（シルト）に有機物を少量含む。

25－ＯＯは標高26.75mで検出した。掘方直径0.7m、残存深度0.13mをはかる。掘方北隅部に寄せて底部直径0.55mの桶を据える。桶底板は４枚の板目製材を竹製鋲で接合する。側板は底板外側に15枚の板目製材を底板から0.03m下位にずらして据え、接合部外側に竹製の箍を巡らし固定する。

26－ＯＯは標高26.85mで検出した。27－ＯＯを切り、掘方直径0.7m、残存深度0.4mをはかる。ほぼ中央に底部直径0.55mの桶を据える。桶底板は３枚の板目製材を竹製鋲で



第43図　37区25～28－ＯＯ平面・立面図

接合する。側板は26枚の板目製材を底板から0.03m下位にずらして据える。箍は底板との接合部は痕跡のみで、上位0.35m付近にも認められる。

27－ＯＯの掘方推定直径は0.65mで形状は歪な円形をしめす。残存深度0.4mをはかり、底板は１枚分、側板は11枚分のみ遺存している。箍は完全に腐食し痕跡も確認出来ない。26－ＯＯ構築時に欠失したものであろう。

28－ＯＯは標高26.92mで検出した。掘方直径0.6m、残存深度0.14mをはかる。ほぼ中央に推定直径0.5mの桶を据える。底板と側板は板目製材が使用されている。底板は破断しており現位置を留めておらず、３枚のうち２枚が遺存する。竹製の鎹による接合痕が観察できた。側板は南側６枚分のみ現位置を留め遺存する。底板との接合痕や箍などの痕跡

は腐食著しく確認出来ない。

29－ＯＯ

37区南部の「整地土」上面で検出している。標高27.3mを測る。直径0.4mの円形で深度0.2mを測る。断面は浅いＵ字形を呈し、埋土は褐色土系の礫混じり粘質土が堆積する。

30－ＯＯ

墓地域形成以前の遺構である179－ＯＫ（瓦窯）の排水溝南端部を切って存在する。標高27.45mで検出した。長径0.65m、短径0.55mをはかり、やや歪な楕円形を示す。深度0.2mをはかり、埋土は褐色土系の粘質土が堆積する。断面形状は２段でともに浅いＵ字形をしめす。形状等より見て墓壙ではないと考えているが、出土遺物もなく土坑とした。

31－ＯＯ

37区南部の「整地土」上面で検出した。標高27.4mをはかる。長径0.65m、短径0.6mの隅丸長方形を示す。深度は0.15m遺存するのみで、断面形状は浅いＵ字形を示す。埋土はやや暗色の褐色土系粘質土に焼土および炭層が堆積し、骨片の確認はできなかったが、火葬後の小規模な廃棄坑または二次埋葬坑と考えられる。

32－ＯＯ

37区南部の「整地土」上面で検出した。標高27.3mをはかる。長径0.95m、短径0.8mの不整な隅丸方形をしめす。深度は0.15m遺存するのみで、最大0.3mの角礫４個を含む褐色土系の埋土が堆積する。埋土中には近代瓦を含む。付近には墓壙が集中して存在するので、二次埋葬土壙かもしれない。

33－ＯＯ

37区南部の「整地土」上面で検出した。標高27.35mをはかる。長径0.7m、短径0.6mの楕円形を示す。深度0.3mをはかり、断面は２段で上部は浅いＵ字形、下部はやや深いＵ字形を示す。埋土は下部に黒褐色粘質土が堆積する。やはりこの土坑も二次埋葬土壙かもしれない。

34～42・49～58－ＯＯ

37区北西部および中央東側で検出した。いずれも木の根の痕跡を示す土坑群と考えている。形状や深度もまちまちで、遺物の出土もない。

34～37－ＯＯは163－ＯＢ北側に位置する。幅約５ｍの検出遺構空白域を挟んだ東側には墓壙集中域がほぼ南北に並ぶ。この空白域は土葬域（埋墓域）とを隔絶するものであり、墓域の南北方向の墓道ではないかと考えている。西側には時間的な隔たりがあるにしても、

164－ＯＢや165－ＯＢの建物跡が存在しており、土葬域（埋墓域）との区画を意識し、建物を覆い隠すように木々が生えていたと考えている。土坑の形状、深度などはさまざまで大小の土坑が集中している。

38～42－ＯＯの立地は37区で検出した170－ＯＸ（ａ）および（ｂ）に挟まれた地域と、（ｂ）の南側地域に大別できる。（ａ）が北側に存在する土葬域（埋墓域）とを隔絶する墓道で、（ｂ）はその枝道である。96区や31区の北半部までは追跡し得るが、墓地域内の遺構検出状況がしめすごとく、墓地域が南東および東方向に大きく削平を受け消滅している。本来同方向に徐々に比高を上げながら枝分かれした墓道が存在したであろう墓地域の景観を想定している。これらの墓道に沿って木立が生い茂っていたもので、土葬域（埋墓域）と詣墓との区画を墓道と共に隔絶するものであったと考えている。

43～46－ＯＯ

36区２－ＯＳ南東部で検出した。いずれも木根の痕跡と考えている。形状や深度もまちまちで遺物の出土もない。

43・44－ＯＯ南側は墓壙集中域が存在し、東側には161－ＯＢが存在する。墓壙域と建物を隔絶する木立を想定しているが、建物と墓壙域とが近接しているので、墓壙と建物との先後関係や木立との関係は不明確である。しかし建物北西側には木立が生い茂っていたようである。

45・46－ＯＯ南側は最大幅約10mの遺構空白域を挟んで墓壙集中域が位置している。この空白域は墓壙域（埋墓域）とを隔絶する東西方向の墓道と考えているが、２－ＯＳと土坑が近接した位置関係にあることや幅が広いことなどを考え合わせると、土坑そのものは「結界溝」内側の木立の痕跡であり、大きく削平を受けた結果空白域が出現したもので、その大部分には詣墓が存在していたと考えられる。

47－ＯＯ

36区２－ＯＳ北西部で検出した。明治年間作成の「切図」では墓地域外にあたる。長径1.2m、短径0.9mをはかる。深度0.2mをはかり、埋土は褐色土系の砂混じり粘質土が堆積している。

48－ＯＯ

36区２－ＯＳ南西端部に穿たれた、湧水土坑（淵）である。「切図」には該当するものはなく、２－ＯＳが屈曲しながら引き続き南西方向へと伸びる。旧飛行場建設時に埋設され暗渠化が計られている。その結果２－ＯＳと１－ＯＳとの機能的なつながりは完全に断

たれた。替わって48－ＯＯと178－ＯＩの暗渠施設がその機能を受け継ぐこととなる。すなわち第一義的には今井池への導水機能であり、今井池への水利供給の一つの根幹を成す独立した拠点水利施設としての機能である。

長径6.3m、短径３mをはかる。深度は２mをはかる。埋土は検出面から約1.4mまでが旧飛行場建設時の埋土である。埋土中からは軍国色の色濃い海軍旗をあしらった赤絵の磁器や棒を差し込んだ状態の一升瓶などが出土した。さらに下層には青灰色土系のヘドロ状の腐植土が堆積している。埋土中からは白磁の花瓶や組合せ式五輪塔の地輪などが出土している。土坑壁面の湧水層は西壁に観られた。検出面からの深度１～1.8mの間に幅0.1～0.18m、礫の径0.05～0.15mをはかる湧水礫層が３層観察できる。

59－ＯＵ

31区中央西寄りで検出した。標高28.4mをはかる。墓道170－ＯＸ北側に位置する。掘方直径0.7mの円形で深度0.1m遺存する。棺の形態は桶形座棺（早桶）である。座棺直径0.55m、高さ0.07m遺存する。副葬品は銭貨（六道銭）・煙管・火打金のほか蠟石が出土した。銭は煙管の下の棺底部で背元銭２枚を含む新寛永銭６枚が出土した。煙管は竹管部分腐食するが、出土位置より復元長14cmをはかる。

60－ＯＵ

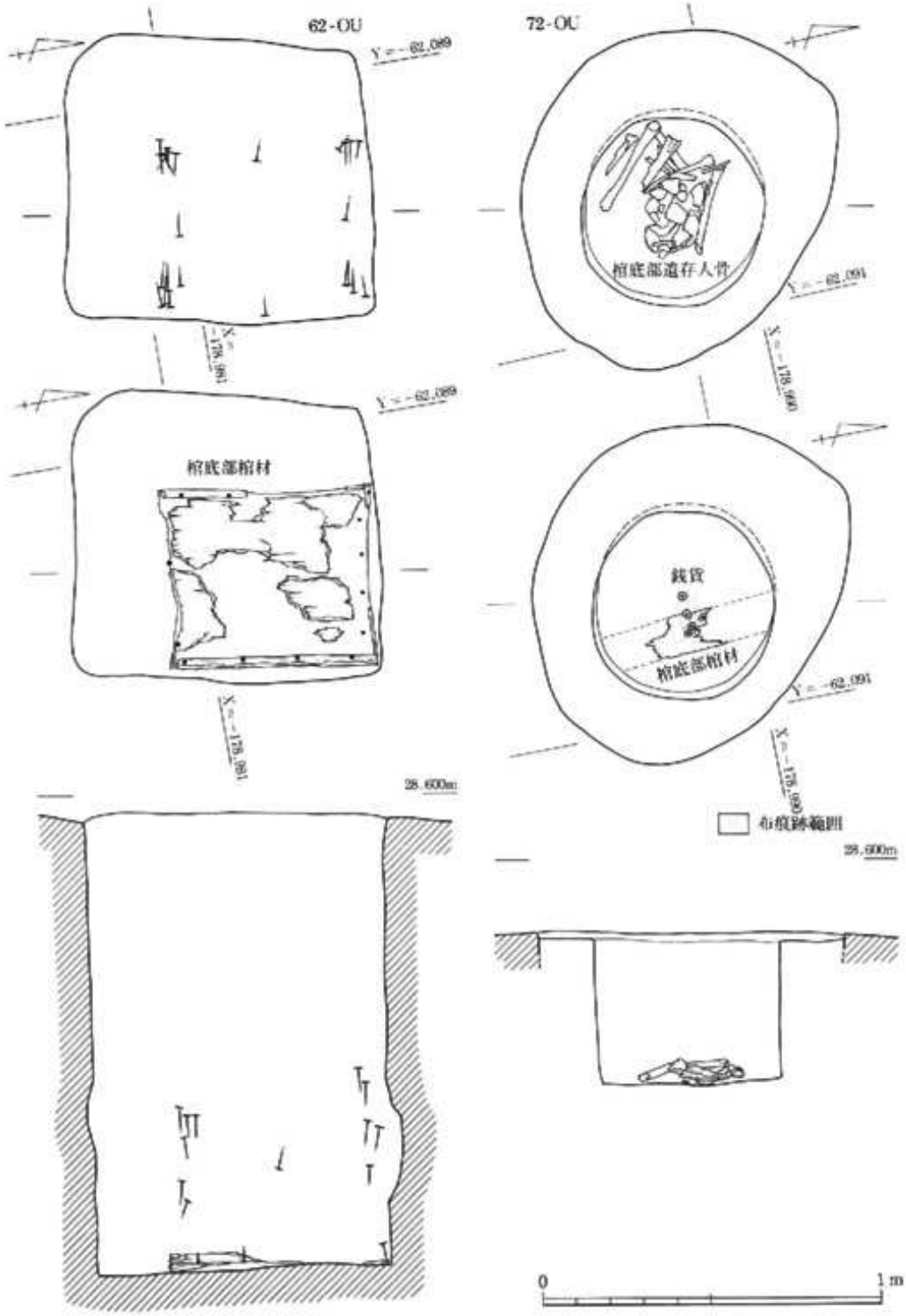
31区中央西端部で検出した。標高28.2mをはかる。調査区側溝掘削時に断面で確認した。棺の形態は箱形座棺と思われるが掘方等の規模などは不明である。掘削中偶然にも古伊万里杯の出土を見ている。他に出土した遺物はない。

62－ＯＵ

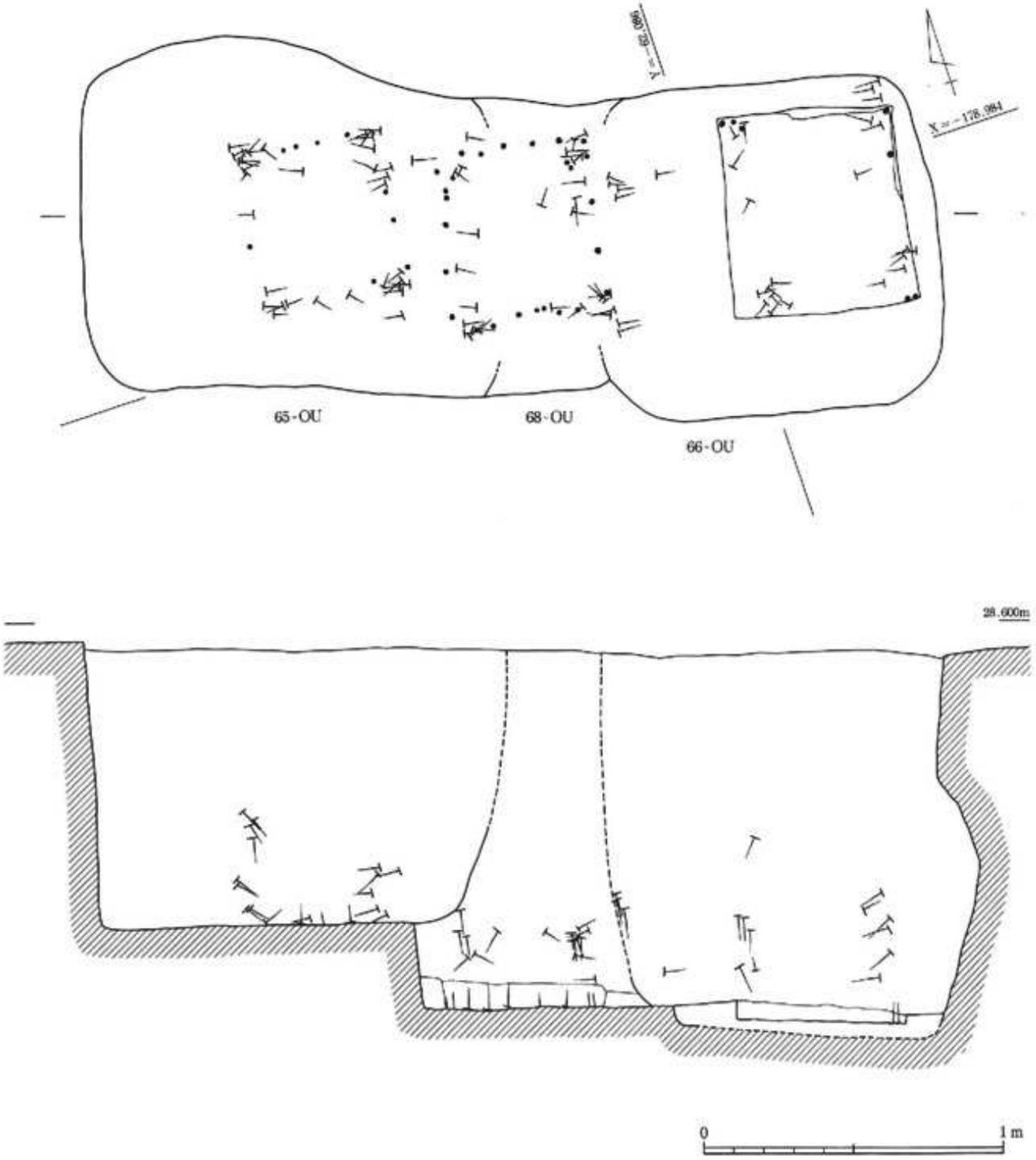
31区中央部で検出した。標高28.55mをはかる。褐色土系の地山礫を直に掘っており、埋土もほとんど変わらず、乾くと判別が難しい。掘方長径0.88m、短径0.85mをはかる隅丸方形の墓壙である。深度は1.36mをはかり、他の墓壙より極めて深い一群にはいる。棺の形態は箱形座棺である。北東隅部にほぼ接して座棺を検出した。一部座棺底部が遺存している。座棺長径0.62m、短径0.58mをはかる。出土した角釘の位置より観て高さは0.58m遺存する。釘は座棺底部から側板に向かって打ち上げられている。副葬品は検出していない。

63－ＯＵ

31区中央部で検出した。標高28.25mをはかる。62－ＯＵと同様遺存深度が深い。掘方長径1.2m、短径1.15mの隅丸方形をしめし、深度1.15m遺存する。棺の形態は箱形座棺



第44図　31区62・72－ＯＵ平面・立面図



第45図　31区65・66・68－ＯＵ平面・立面図

である。座棺長径0.5m、短径0.45mをはかる。高さは角釘の出土位置より0.72m遺存するので、ほぼ座棺の高さを反映したものであろう。副葬品は鼈甲製の笄が出土した。

65・66・68－ＯＵ

31区中央部で検出した。標高28.55mをはかる。３基の墓壙がほぼ東西方向に並ぶ。血族関係のある墓壙群であろう。棺の形態は箱形座棺である。切り合い関係より観て68－ＯＵが古く、掘方や座棺は65・66－ＯＵ掘方に削平を受ける。墓壙深度が深い一群である。座棺はそれぞれ北東隅に寄った位置で検出した。座棺の向きはやや振れはあるが４側面が東西南北の正位置（以後正位置と呼ぶ）を向く。角釘は全て座棺底部から側板に向かって打ち上げられた状態で検出した。側板は底板の上に据えられたことがわかる。掘方深度の深さは立地条件を反映したものであろう。すなわち付近の地形が平坦であったと考えるのが妥当であろう。

65－ＯＵは掘方直径1.1mをはかる。掘方深度は３基中最も浅く0.95mをはかる。座棺法量は角釘の出土位置より求めた。直径0.53m、高さは0.38mしか確認出来ない。副葬品は検出していない。

66－ＯＵは掘方復元直径1.1mをはかる。掘方深度は３基中最も深く1.25mをはかる。座棺長径0.67m、短径0.6mをはかり、高さ0.6mをはかる。副葬品は検出していない。

68－ＯＵは両サイドの墓壙の削平を受け、掘方は南北方向一辺１mの規模のみ確認しえた。深度は1.2mをはかる。座棺長径0.6m、短径0.5mをはかり、高さは削平を受け0.35mのみ遺存する。副葬品は検出していない。

72－ＯＵ

31区中央部で検出した。標高28.4mをはかる。掘方長径１m、短径0.85mをはかる。楕円形の掘方をもつ墓壙である。棺の形態は桶形座棺（早桶）である。座棺長径0.55m、短径0.52mをはかる。検出時にやや歪みが観られた。高さは0.45m遺存する。桶箍の痕跡は確認できない。座棺内には埋葬人骨と棺底部棺材の一部が遺存する。副葬品は銭貨（六道銭）・数珠玉（朱漆の皮膜のみ遺存）を検出した。また棺底部には布の痕跡が観られる。銭は古寛永銭や文銭などの新寛永銭６枚が棺底部に散乱した状態で出土した。

76－ＯＵ

31区中央西寄りで検出した。標高28.3mをはかる。墓道170－ＯＸ南側に位置し、東西に並ぶ墓壙列の一角を占める。掘方長径0.85m、短径0.82mの楕円形をしめす。棺の形態は桶形座棺（早桶）である。座棺直径0.55mで高さは0.3m遺存する。埋葬人骨は比較的

良く遺存する。副葬品は銭貨・銅製リングが出土した。銭は1枚出土した。鉄分多く腐食が著しく鉄銭の可能性がある。六道銭として副葬されたものであろうが、枚数や材質などは通常の近世埋葬習俗とも違和感がある。銅製リングはまさしく指輪であり、近代以降の墓壙と言える。

80－ＯＵ

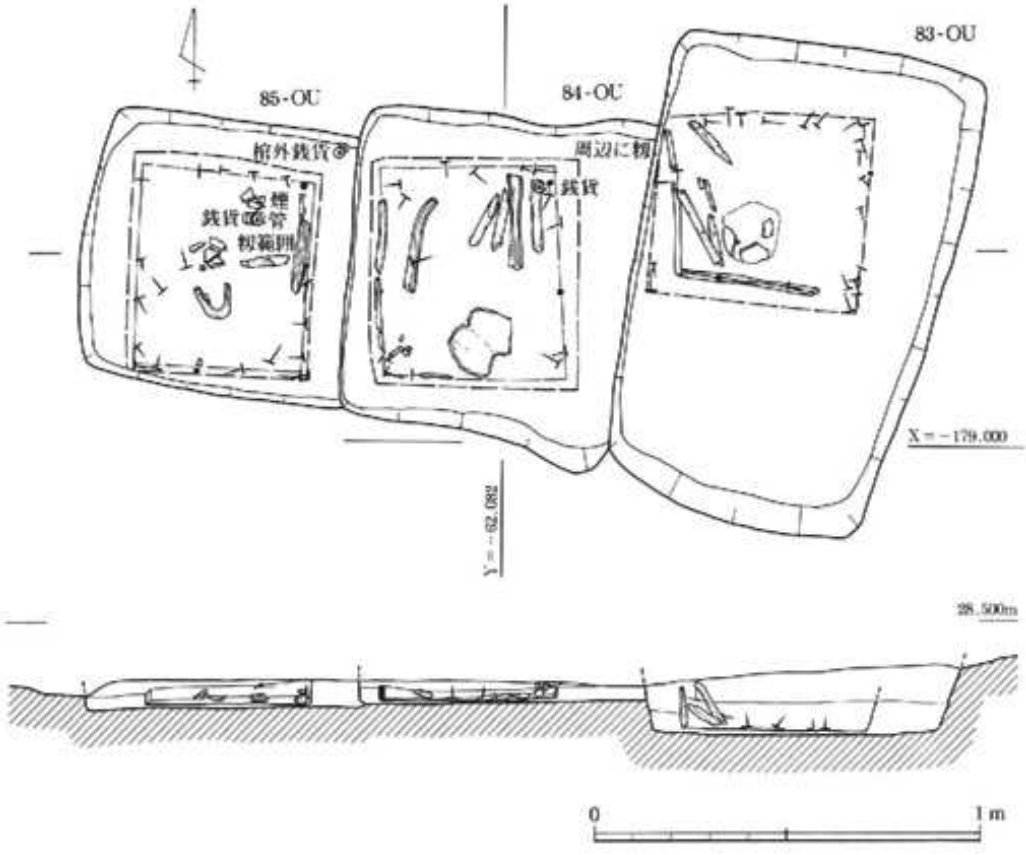
31区中央部で検出した。標高28.35mをはかる。東西2.55m、南北0.8mの区画の中に3基の墓壙が並ぶ。最も西寄りで検出した。東側に81－ＯＵ・82－ＯＵが並ぶが切り合い関係は不明である。棺の形態は全て箱形座棺である。血族関係のある墓壙群であろうと思われるがその先後関係も不明である。3基の墓壙中唯一副葬品が出土した。刀（脇差し）柄部分の一部のみ遺存する。鍔は遺存せず縁金具と鮫革上に四菱の目貫金具が左右に少しずつずれて装着される。頭部分の遺存はない。座棺長径0.55m、短径0.5mをはかり、高さは0.05m遺存する。

83～85－ＯＵ

31区中央部で検出した。標高28.40～28.35mをはかる。3基の墓壙がほぼ東西方向に並ぶ。血族関係のある墓壙群であろう。各墓壙の切り合い関係より観て85－ＯＵが古く、83－ＯＵが最も新しい。棺の形態は箱形座棺である。座棺の掘方内の位置は83－ＯＵが北寄りに位置するほかほぼ中央に位置する。各座棺の方向は全て正位置である。棺内には埋葬人骨が遺存している。角釘は全て底からの打ち上げである。遺存する墓壙深度は極めて浅い一群である。検出墓壙群から南東方向には墓壙は検出されておらず、1－ＯＳも削平を受け南東方向に行くほど幅を狭め深度もなくなり消滅する。すなわち北東方向を中心として比高を上げる景観が復元できる。

83－ＯＵは掘方長径1.25m、短径0.8mをはかる。掘方深度は3基中最も深いが0.2mしか遺存しない。座棺長径0.55m、短径0.5mをはかる。高さ0.1m遺存する。副葬品は検出していない。

84－ＯＵは掘方長径0.8m、推定短径0.7mをはかる。掘方深度は0.06m遺存する。座棺長径0.6m、短径0.55mをはかる。高さ0.05m遺存する。副葬品は銭貨（六道銭）・煙管・籾殻を検出した。銭は座棺北東隅部に文銭6枚が麻布に包まれて出土したほか、南西隅部にも煙管と無背銭3枚が集合して出土している。それぞれ銭周辺には籾殻を検出している。また綿入れ状の被服の痕跡と思われるものも観られることより、両脇袖に一握りの籾と共に銭・煙管が入れられたようである。いわゆる頭陀袋の痕跡はなかった。

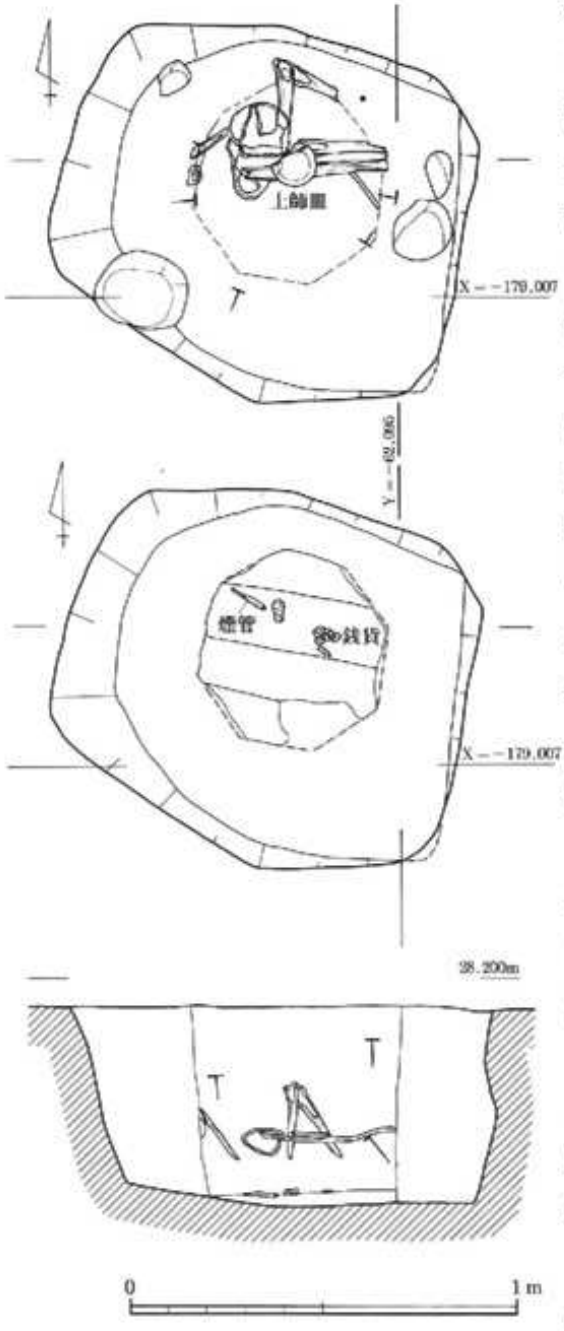


第46図　31区83～85－ＯＵ平面・立面図

85－ＯＵは一辺が0.7mの方形の掘方を推定している。掘方深度は0.08m遺存する。座棺長径0.55m、短径0.47mをはかる。高さ0.05m遺存する。副葬品は銭貨（六道銭）・煙管・靫穀を座棺北東部で検出した。煙管は座棺東側板に沿って吸い口を北に向け出土した。現位置を保つと考えられ、推定長22cmをはかる。銭は古寛永銭や新寛永銭６枚が革に包まれて出土している。革の上に靫・布が付着しており、布に包まれていたことがわかる。布はいわゆる頭陀袋の痕跡と考えられる。

87－ＯＵ

31区南半部の西寄りで検出した。標高28.13mをはかる。掘方形状は歪な多角形を示し、長径1.05m、短径0.95mをはかる。掘方深度は0.5m遺存する。座棺は掘方中央やや北寄りに据えられる。座棺棺底部はその痕跡より４枚の板材により構成されていたようである。墓壙一覧表では棺の形態を桶形座棺としている。厳密には出土角釘や棺底部形状より八角形の筒形であり、八角形の筒形座棺である。検出事例の有無は知り得ないが、旧長滝墓地



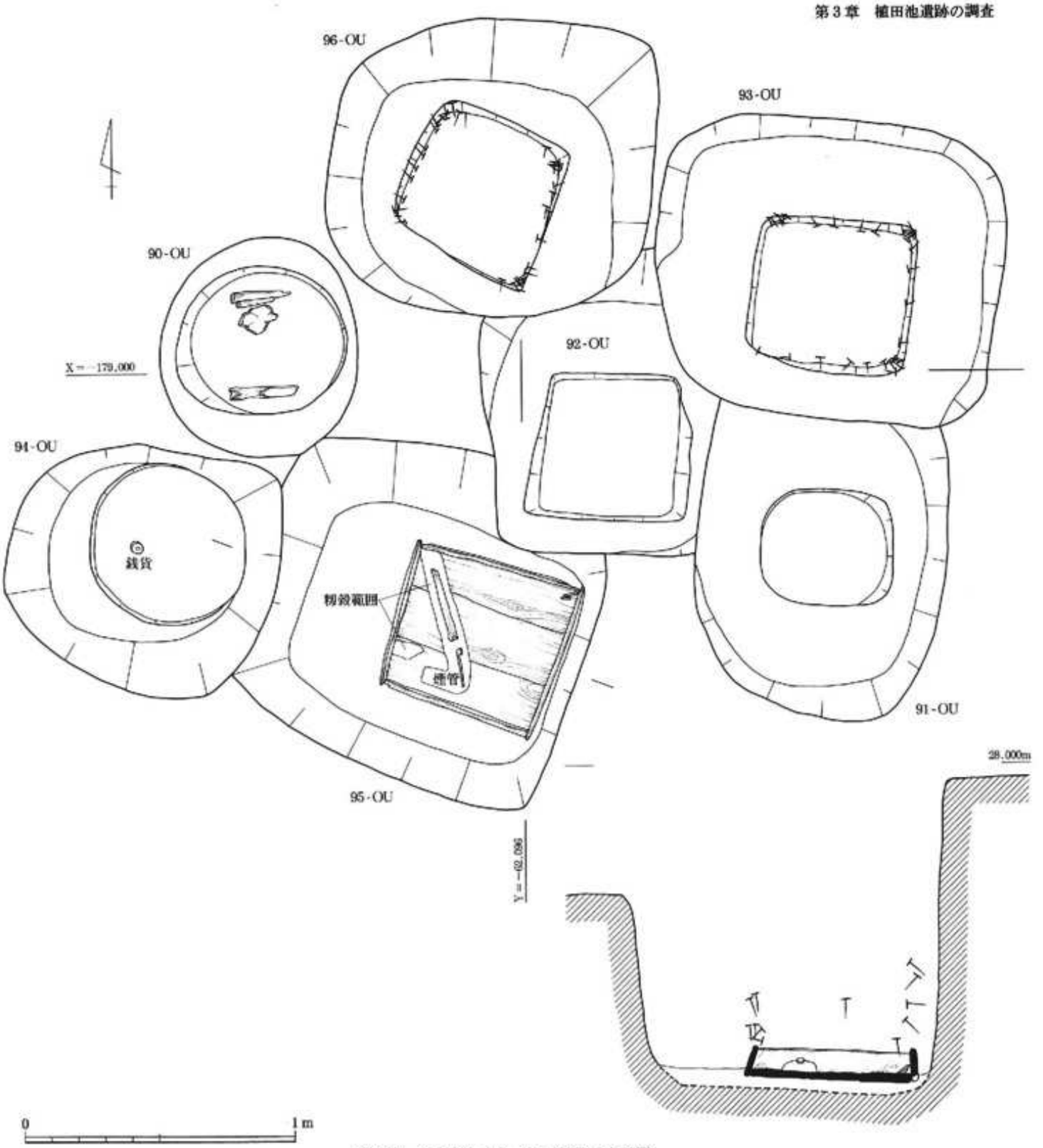
第47図　31区87－ＯＵ平面・立面図

域検出の墓壙群の中では、特殊な形状をしめす。座棺直径0.5m、高さ0.45m遺存し、副葬品は銭貨（六道銭）・煙管・土師皿・剃刀を検出した。銭は棺底部に散乱した状態で出土している。腐食著しく種類の判別は出来ないが、布の付着が観られる。煙管・剃刀も棺底部で出土している。煙管は北西方向に吸い口を向け雁首方向に直線的に伸びる。竹管部分は腐食し失われているが、現位置を保つと思われ、推定長31cmをはかる。埋葬人骨も遺存しており、検出レベルは銭・煙管・剃刀よりも上位に位置することから、副葬品の埋納は埋葬遺骸に先行し、土師皿が最終の埋納品である。

90～96－ＯＵ

31区中央部やや南西寄りで検出した７基が集合する墓壙群である。標高28.1mをはかる。棺の形態は箱形・桶形座棺両方あり。箱形座棺４基、桶形座棺（早桶）３基で構成される。墓壙の切り合い関係よりみた先後関係は95→90・92・94→91・96→93－ＯＵの順である。箱形座棺では95→92→93・96－ＯＵ、桶形では判然としない。棺底部の痕跡を残すものは90・92・93・94・95－ＯＵで95－ＯＵが最も遺存状態が良い。埋葬遺骸は90－ＯＵのみ遺存していた。副葬品は94－ＯＵで銭貨（六道銭）５枚（全て新寛永銭）、92・95－ＯＵで煙管を検出した。

７基の墓壙が全て血族関係のあるものとは断定できないが、少なくとも墓壙座棺の重複



第48図　31区90～96－ＯＵ平面・立面図

はなく、それぞれの墓壙の位置を意識した、あるいは記憶したうえでの埋葬であったと考えられる。掘方に対する座棺の位置はほぼ中央に据えられるものが多い。箱形座棺は正位置に据えられるものが２基、北北東に向くもの２基が見られる。角釘は全て底板からの打ち上げである。各墓壙の法量等は一覧表によられたい。ここでは最も棺底部の遺存する95－ＯＵについてのみ詳細を報告する。

掘方長径1.25m、短径1.2mをはかる。最大深度1.1mをはかる。形状は方形をしめす。座棺の棺底部長径0.54m、短径0.5mをはかる。形状はやや歪な長方形を示す。高さ0.45mまで確認し得た。座棺底板は３枚の板目製材を竹製の鎹で接続する。側板は底板上に据え、底板から側板に向け角釘を打ち上げる。座棺検出当初側板の据える位置に盛り上がりを認めたが、細部の検討の結果側板との接合面のみが腐食をまぬがれ盛り上がって残ったものと判明した。側板同士の結合は短側板（ここでは単に短い側板の意）に「凹」状の枘溝を穿ち、長側板内側のみを切り込んだ半「凸」状の枘を差し込み固定し、短側板外側から角釘を打ち込む。棺底部から一段目までの構造を把握することが出来た。側板の二段目との接合方法は一段目側板上部の腐食が著しく不明である。副葬品の出土状況は棺底部に接して籾殻や藁が認められ、その上に煙管の出土を観ており、さらに上部に埋葬人骨の一部も認められる。このことから導きだされる座棺内の遺骸安置手順は籾殻あるいは藁を棺底部に敷き詰めた後副葬品を納め最終的に遺骸が安置されたことをしめす。故人に対し丁重に安置したことを想像させる。

97－ＯＵ

１区（36区内）北西寄りで検出した。掘方長径1.05m、短径0.6mをはかる。形状は楕円形を示す。深度は0.1mしか遺存しない。標高27.65mをはかる。棺の痕跡は確認出来なかった。墓壙内出土遺物や棺外より落ち込んだと観られる複数の拳大の礫の存在より、木棺の直葬が考えられる。掘方形状より観て棺の形態は寝棺と考えているが判然としない。出土遺物は漆器椀と唐津焼の皿を検出した。漆器椀は黒漆の上に赤漆が塗り重ねられた皮膜のみが遺存していた。器高４㎝、口径15㎝をはかる。唐津焼の皿は２個体分が重なるように出土した。取り上げ後現場にて実測している。図示したのはその実測図である。しかし現物は調査終了後の展示会を経て、調査事務所にて一時行方不明となった。本報告書作成担当を受け持った後の出土遺物点検時に判明した。貴重な遺物が行方不明という事実に愕然としたが、不自然な状態ではあれ発見され調査地区の担当者として安堵した。

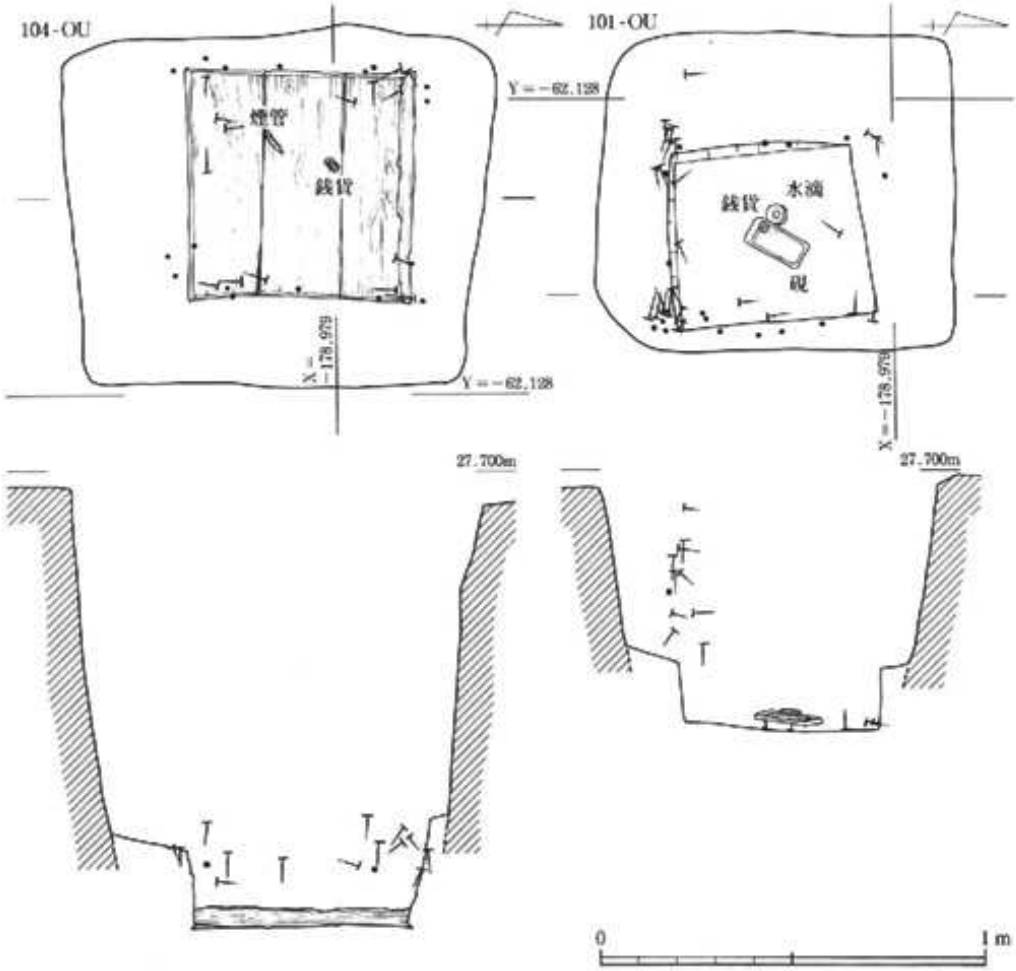
検出地点付近には他に墓壙の検出はない。明治年間作成の「切図」による北西側「結界

溝」外にあたり、出土遺物から観ても江戸初期は降らない。「長滝村極楽寺三昧境内図」が描かれた時期とは時間的な隔たりがある。

「整地土」中に包含される近世初頭の瓦により想定される165－ＯＢ以降の建物と97－ＯＵが時期的にも近く、３－ＯＳ付近が「三昧図」以前の墓域北限ではないかと考えている。

101－ＯＵ

36区南部中央で検出した。標高27.65mをはかる。掘方長径0.92m、短径0.82mをはかる。形状は隅丸方形をしめす。掘方深度は0.65m遺存する。棺の形態は箱形座棺である。掘方東側に寄った位置で検出している。方向はほぼ正位置である。座棺長径0.52m、短径0.45mをはかる。高さは0.5m遺存する。棺底部は痕跡のみ認められる。角釘は棺底部から打ち上げられた状態で検出している。掘方埋土はにぶい黄橙色礫混じり土（10Ｙ R6/3）



第49図　36区101・104－ＯＵ平面・立面図

が堆積し、座棺内部にはにぶい黄橙色礫混じり土（10ＹＲ6/4）が堆積する。副葬品は棺底部に接して銭貨（六道銭）・硯・水滴のほか墨を検出した。銭は計７枚出土した。６枚が布に包まれて出土しており籾殻が付着する。１枚は棺底部木片に付着して出土している。硯・水滴・墨は被葬者の日常の生活に使用した物であり、銭共々座棺中央で近接した位置より出土している。散逸した状態にないことやその出土位置より、頭陀袋に納められていたと考えられる。

104－ＯＵ

36区南端部中央で検出した。標高27.65ｍをはかる。掘方長径1.1ｍ、短径0.9ｍをはかる。形状は西側にやや開き気味の隅丸方形をしめす。掘方深度は1.15ｍをはかる。棺の形態は箱形座棺である。北寄り中央に位置し、方向は正位置をしめす。座棺長径0.6ｍ、短径0.58ｍをはかる。高さは0.28ｍ遺存する。棺底部は比較的よく遺存するが、棺底部端部や側板は完全に失われている。棺底は３枚の板目製材を鉄製の鋲で接続する。角釘は全て棺底部からの打ち上げである。埋土中より飾り金具の出土を観ている。墓地域出土の飾り金具のほとんどは「整地土」中の炭層よりの出土である。またいわゆるビー玉も出土した。副葬品は銭貨（六道銭）・煙管を検出した。銭は棺内で６枚出土しており、布の付着が見られる。新寛永銭と木銭２枚が出土した。棺外からは18枚の出土を見ており、明治一銭銅貨を含む。棺外埋土中の銭などや座棺を飾っていたと考えられる飾り金具の出土より観て、近代の埋葬墓壙である。

108－ＯＵ

36区南部で検出した。標高27.8ｍをはかる。掘方長径1.1ｍ、短径1.0ｍをはかる。深度は0.67ｍ遺存する。形状は隅丸方形を示す。棺の形態は箱形座棺である。座棺長径0.6ｍ、短径0.5ｍをはかる。高さは0.67ｍ遺存する。座棺痕跡はかなり良く観察できた。棺底部に側板を積み上げ、側板の横方向と縦方向の接合を考えて、角釘を斜め下方に打ち込む簡便な構造である。棺蓋の痕跡は確認できなかったがほぼ座棺の高さに近いものであろう。副葬品は煙管のみ検出した。

110－ＯＵ

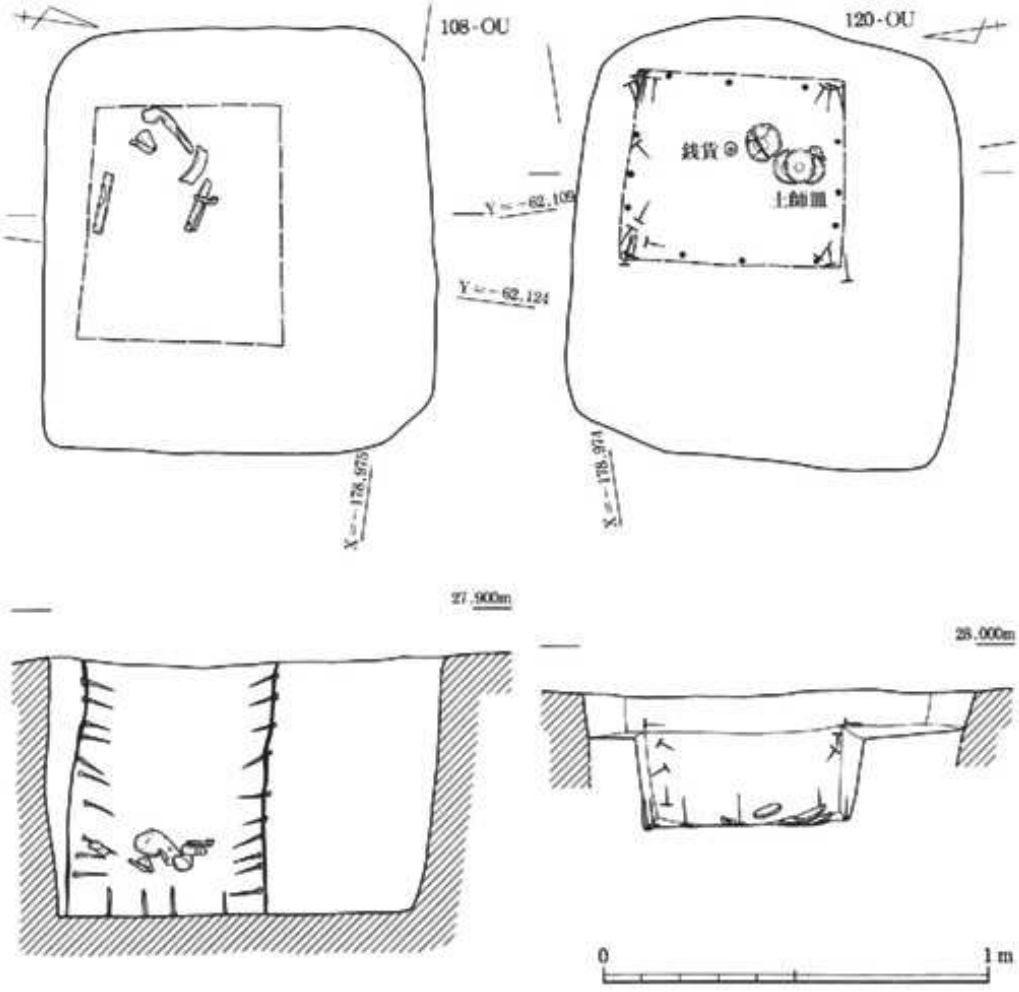
36区南部で検出した。埋墓域北限に東西方向に並ぶ墓壙中の１基である。標高27.8ｍで検出した。掘方長径1.15ｍ、短径1.1ｍをはかり、隅丸方形をしめす。深度は0.75ｍ遺存する。棺の形態は箱形座棺である。座棺長径0.6ｍ、短径0.55ｍをはかり、高さは0.65ｍ遺存する。副葬品は銭貨（六道銭）・煙管・笄・刀子を検出した。銭は背佐銭１枚を含む

新寛永銭６枚が革で包まれて出土している。煙管は竹管部分が腐食しているが、出土位置より復元長28.5cmをはかる。笄は２枚の銅板を金糸で縛り結束させている。刀子は鍔もなく刃部は鎬もない。茎から切っ先にかけて幅を狭め、帽子の形は直線的で、切っ先先端部へといたる。茎も短く細い。小刀のようなものでもあり、護り刀とは断定はできない。

112・113・114－ＯＵ

36区南端やや東寄りで検出した。標高27.8mをはかる。近接して存在しており、血族関係のある墓壙群であろう。それぞれ掘方は円形で棺の形態は桶形座棺（早桶）である。座棺は遺存せず棺底部に炭化した痕跡のみ確認でき、埋葬骨の一部と副葬品を検出した。

112－ＯＵ掘方直径0.8m、深度0.1mをはかる。座棺直径0.45m、高さ0.1m遺存する。

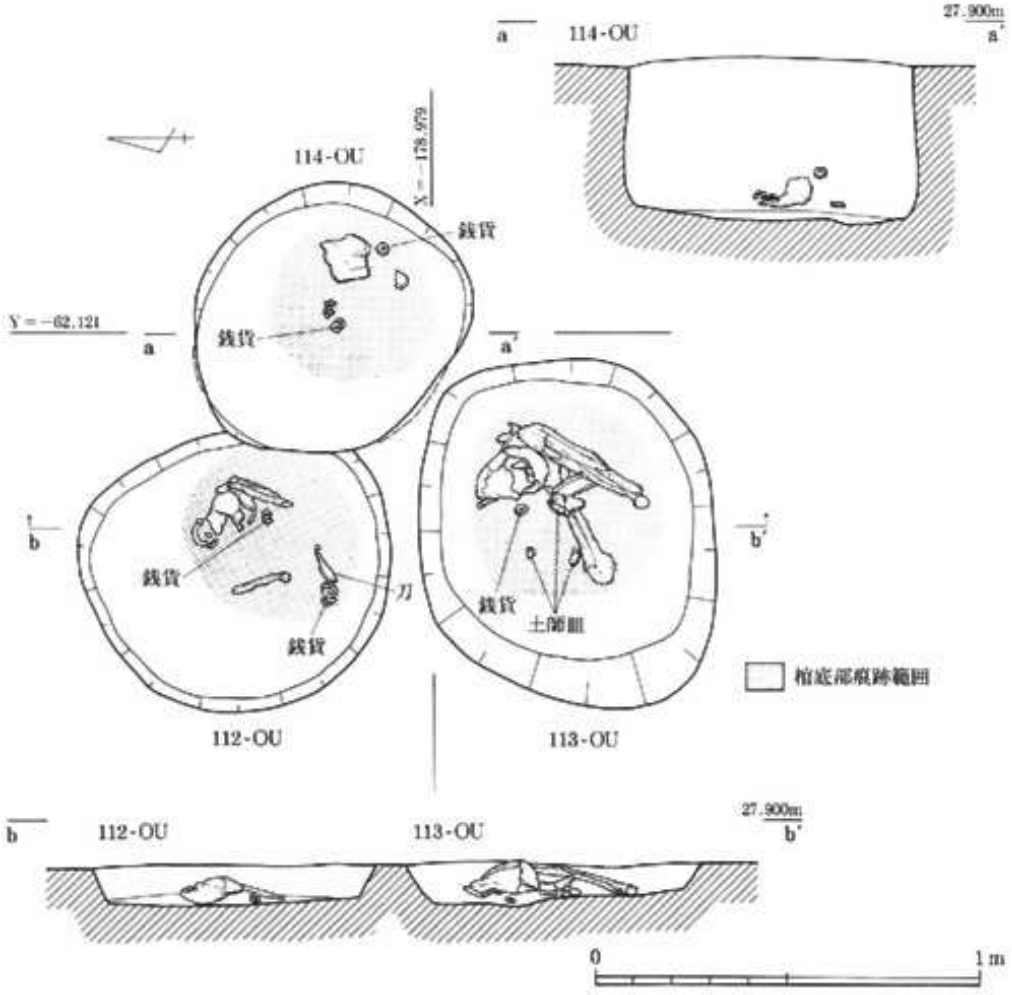


第50図　36区108・120－ＯＵ平面・立面図

副葬品は銭貨（六道銭）・刀を検出した。銭は古寛永銭や新寛永銭合わせて12枚出土した。6枚ずつ集合しており、一組は紐で縛り密着する。刀は小型だが鍔をもつ。

113－ＯＵ掘方直径0.8m、深度0.1mをはかる。座棺直径0.5m、高さ0.1m遺存する。副葬品は銭貨（六道銭）・土師皿を検出した。銭は文銭２枚を含む新寛永銭６枚が集合して出土した。銭には藁の付着が認められる。棺底部に藁を敷き詰めていたのであろうか。

114－ＯＵ掘方直径0.75m、深度0.43mをはかる。112－ＯＵを切る。座棺直径0.43m、高さ0.38m遺存する。副葬品は銭貨（六道銭）のみ検出した。銭は嘉祐通宝（宋銭）・熙寧元宝（宋銭）・永楽通宝（明銭）などの渡来銭各１枚と文銭・背元銭などの新寛永銭６枚が出土した。新寛永銭は６枚が集合しており、紙の繊維質の付着がみられることから、紙に包まれていたと考えられる。



第51図　36区112～114－ＯＵ平面・立面図

117－ＯＵ

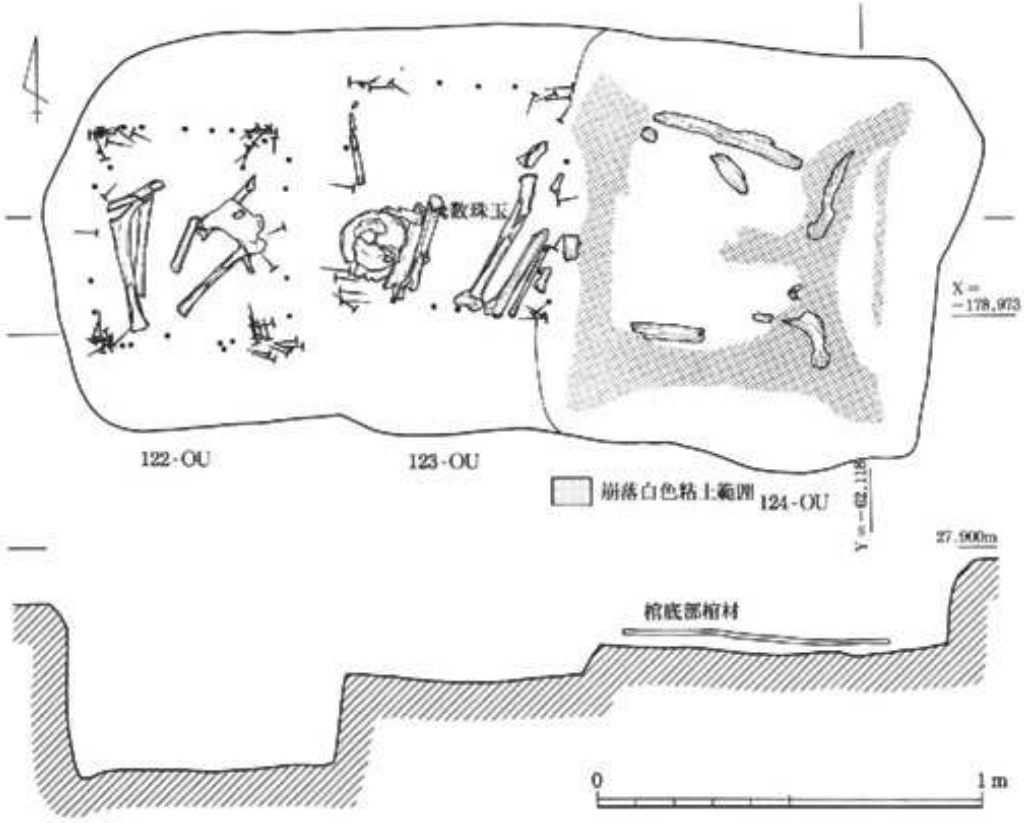
36区南部東寄りで検出した。標高27.8mをはかる。検出墓壙中最も新しい。掘方は歪な楕円形で棺の形態は箱形座棺であったが、座棺の規模も大きく丸釘・角釘の併用が見られる。掘削が進むにつれ埋葬の時期や副葬の習俗が判明した時点で掘削を中止し、丁重に埋め戻している。銭貨等の副葬もされており、丁重に埋葬されたことがわかる。

120－ＯＵ

36区南東端部で検出した。掘方長径1.1m、短径1.0mをはかる。深度は0.35m遺存する。棺の形態は箱形座棺である。座棺長径0.55m、短径0.5mをはかる。高さは0.25m遺存する。角釘は座棺底部よりの打ち上げである。副葬品は銭貨（六道銭）・土師皿４枚を検出した。銭は古寛永銭や新寛永銭５枚が集合して出土した。

122・123・124－ＯＵ

36区南部のやや東寄りで検出した。３基の墓壙が東西方向に連なる。98・109・110・111－ＯＵと東西方向に列をなす。埋墓域の北限に位置する墓壙群である。棺の形態は箱



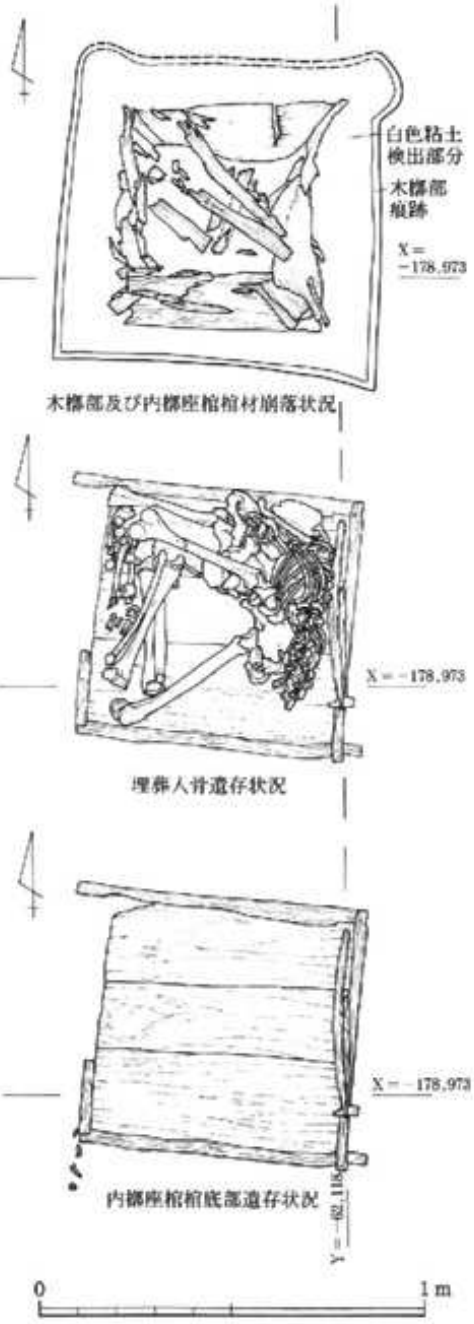
第52図　36区122～124－ＯＵ平面・立面図

形座棺である。それぞれ個別に掘方を持ち、122→123→124の順に古く、古い墓壙を新しい墓壙が切る。標高は122－ＯＵが27.76m、124－ＯＵが27.84mをはかる。検出した標高も西側に位置する122－ＯＵが低い。また掘方深度や座棺の高さも３基中最も多く遺存する。東側に位置する124－ＯＵは標高も高く、掘方深度や座棺の高さの遺存が少ない。断ち割り断面の観察では西側の122－ＯＵから東側の124－ＯＵに向かって墓壙底部の標高が階段状に比高を上げる様子が見える。これらのことは墓壙構築時の地形を反映しているものと考えられる。

122・123－ＯＵの座棺は棺底部から側板に向けて角釘を打ち上げる簡便な構造をしているが、124－ＯＵについては作り付けの木槨とも言うべきものである。各墓壙ともに埋葬人骨を確認している。124－ＯＵについては棺の構造の影響からかほぼ完全に遺存する。

122－ＯＵは掘方長径・短径１ｍをはかり、深度0.45m遺存する。座棺長径0.58m、短径0.5mをはかり、高さ0.35m遺存する。副葬品の検出はなかった。

123－ＯＵは掘方長径・短径推定1.05mをはかり、深度0.3m遺存する。座棺長径・短径0.6mをはかり、高さ0.2m遺存する。副葬品は滑石製の数珠玉３個（直径４㎜前後）のみ検出した。



第53図　36区124－ＯＵ木槨内検出状況

124－ＯＵは掘方長径・短径1.05mをはかり、深度0.25m遺存する。棺の形態は作り付けの木槨構造である。まず掘方底部に接して直接漆喰状の粘土を貼り、ほぼ水平に近い木

槨底部を作る。その上に東西0.83m、南北推定0.8mの規模で木槨の外郭を作る。北東・北西隅部が突出しており、北側部分は判然としない。内側に漆喰状の粘土を充塡しつつ、さらに内側に長径0.7m、短径0.67mの規模で箱形座棺状に材を組みあげ、内郭部遺骸埋納空間を創出している。

遺構検出時外郭部は痕跡のみ確認し得た。内郭部は側板や棺蓋と思われる棺材が漆喰状の粘土とともに棺中央部に向かって崩落している。棺材は腐食著しく変形している。棺材や粘土を除去すると、埋葬遺骸は頭を下にした状態で露呈した。作り付けの棺構造による遺骸埋納方法の問題なのかそれともいわゆる「異常死」の埋葬例なのか判然としないが、粘土により覆い囲み封じ込められた印象は拭えない。密閉された状態と削平を免れたためにほぼ完全に遺存したと考えられる。

棺底部は3枚の板目材とそれを井桁状に囲む棒状の材により構成される。腐食激しく接合部は判然としない。少なくとも鉄製の鋸の出土は観ておらず、鋸が使用されているならば竹製が考えられる。側板は板目材を積み上げる構造である。角釘は棺底隅部に少し使用されるのみであり、側板同士の接合に鋸や角釘の使用は認められない。このことから底板接合には鋸の使用がなかった可能性が高い。棺底底板周縁の材は少し高く「凸」状の突起部を巡らせたように見える。突起部外側に側板を積み上げ、側板外側に充塡される粘土により棺底部と側板の接合面を固定していたようである。内側に崩落した側板外側にも横方向の「凸」状の突起部の痕跡が認められる。これは棺蓋止めの突起ではなかったかと考えている。副葬品は鉄製の極小破片のみ検出したが、図示できず割愛した。

漆喰状の粘土は浅黄色から灰白色（2.5Y7/4～2.5Y8/1）を呈する極細砂で、とくに底部は硬く締まる。掘方槨外埋土は明黄褐色（10YR7/4）および橙色（5YR6/8）細砂を充塡する。

125－OU

36区南部東端で検出した。標高27.85mをはかる。掘方長径1.1m、推定短径0.8mの隅丸方形を示す。深度は0.6m遺存する。棺の形態は箱形座棺である。座棺長径0.6m、短径0.5mをはかり、高さは0.25m遺存する。副葬品は煙管・刀（脇差し）を検出した。煙管は棺底中央部に刀と直交するように置かれている。竹管部分は腐食し欠失するが、検出状況から原位置を保つもので推定復元長30cmをはかる。刀は鍔を持つもので木質部分も遺存する。脇差しと考えている。これらの副葬品は被葬者の膝のうえに置かれたのであろうか。

128－ＯＵ

37区「整地土」上面で検出した上層の遺構である。標高27.35mをはかる。掘方長径0.7m、短径0.6mの歪な円形をしめす。深度は0.07m遺存する。掘方形状より棺の形態は桶形座棺（早桶）と考えられるが明確な痕跡はない。出土遺物等より観て墓壙であることは明確であるが、座棺の規模は不明である。副葬品は銭貨・薬瓶・ストローを検出した。薬瓶・ストローはともに硝子製で瓶の口にはコルクと共にストローが差し込まれた状態で出土している。薬瓶には図示したごとくのローマ字が描かれている。銭貨（六道銭）は瓶の直下より出土している。明和６年初鋳の波銭３枚が布に包まれて出土している。副葬品のセット関係は重要なことを示している。波銭のごとき寛永通宝銭の出土をもって遺構の時期を決定することは少なくとも旧長滝墓地では非常に危険である。銭貨の副葬は埋葬習俗の一つであり、備蓄銭（古銭の意味）の使用頻度が高い。

130－ＯＵ

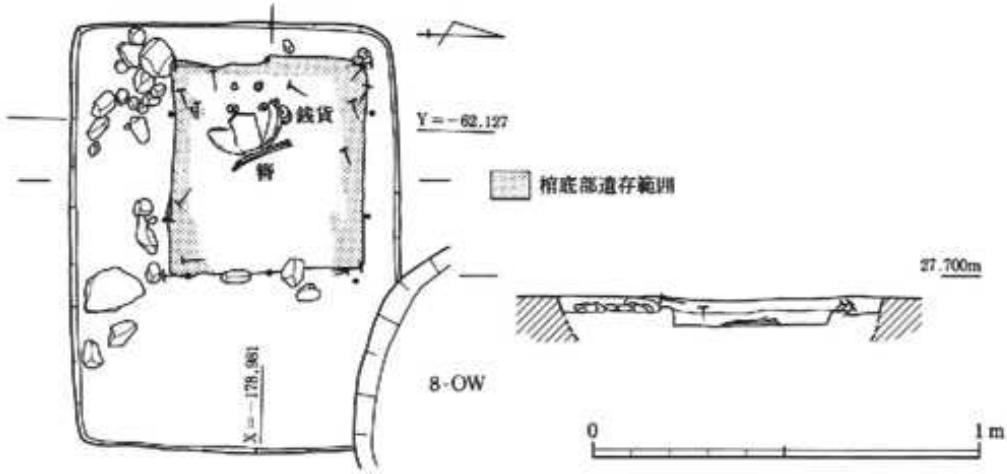
37区北部中央付近で検出した。標高27.65mをはかる。掘方長径0.9m短径0.85mのやや歪んだ円形をしめす。深度は0.1m遺存する。棺の形態は桶形座棺（早桶）である。座棺直径0.5mをはかり、高さは0.1m遺存する。149－ＯＵと掘方がほとんど重複する。129－ＯＵ、131－ＯＵ、149－ＯＵと切り合い関係を持つ。129－ＯＵに掘方が切られることや他の２基の墓壙と比べて遺存深度が浅いことを考え合わせると、墓壙立地面の比高差が考えられる。切り合い関係と遺存深度を考えると、古い墓壙上に盛土がなされた後129・130－ＯＵの墓壙が穿たれたと考えられる。

副葬品は銭貨（六道銭）６枚と泥人形を検出した。銭は文銭３枚を含む新寛永通宝銭で、泥人形は人形座像と鳥形２個体がある。副葬品から子墓（未成人の意味）の可能性もある。

137－ＯＵ

37区北端中央部で検出した。掘方長径1.1m、短径0.85mをはかり、北西隅の一部は36区８－ＯＷ掘方に切られる。棺の形態は箱形座棺である。座棺は掘方北西隅に寄った位置に据えられ、方向は正位置を示す。座棺長径0.6m、短径0.55mをはかり、高さは0.06m遺存する。座棺底部の棺材の痕跡は「凸」状の突起を示している。東側が開く「コ」の字状に遺存する。座棺の構造を考えた場合、角釘は棺底部からの打ち上げにより側板を接合する簡便なもので、座棺の補強を考えた構造かもしれない。

副葬品は銭貨（六道銭）と簪を検出した。銭は文銭２枚を含む新寛永銭６枚が集合して出土した。簪の出土より考えて女性の被葬者かも知れない。



第54図　37区137－ＯＵ平面・立面図

154－ＯＵ

37区中央東寄りで検出した。墓道170－ＯＸ（ｂ）と「整地土」に挟まれた場所に位置し、36・37区にまたがる埋墓域中心部とは離れて位置する。標高27.4mをはかる。掘方長径0.8m、短径0.75mの不整楕円形を示す。深度は0.35m遺存する。棺の形態は桶形座棺（早桶）である。座棺直径0.55mをはかり、高さは0.2m遺存している。

副葬品は銭貨（六道銭）・煙管・数珠玉・銅製品・鉄製品を検出した。銭は文銭４枚を含む新寛永通宝６枚が集合して出土した。布の付着を認め得る。煙管は出土状況より復元長26.5cmをはかる。数珠は土玉７個を確認した。銅製品は煙草入れの口金具部分と考えている。鉄製品は茎状のもので用途は不明である。

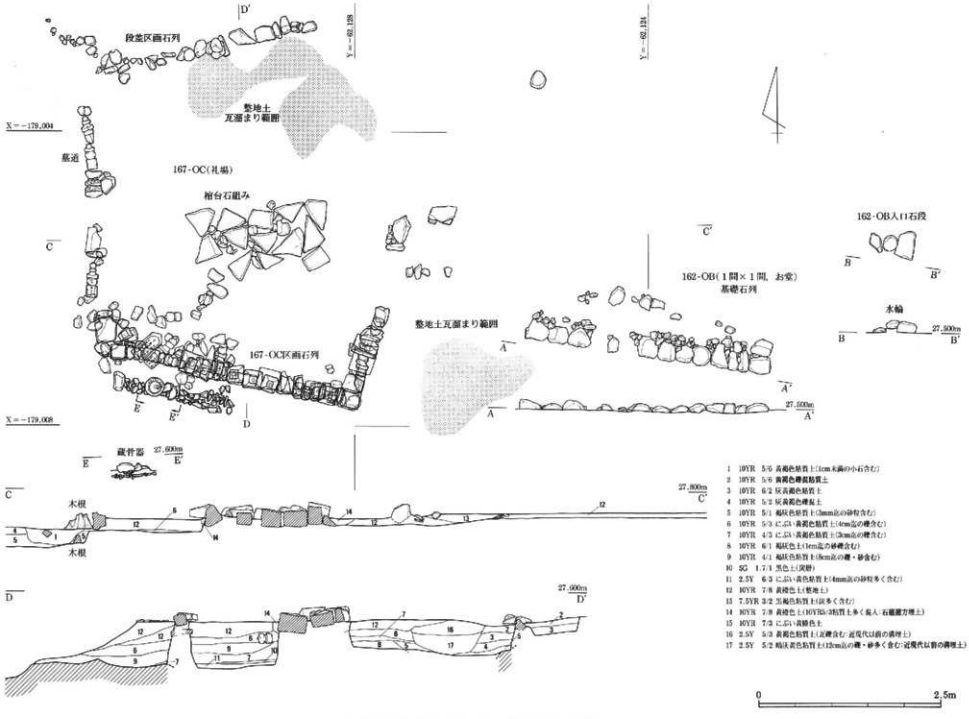
156－ＯＵ

96区中央で検出した。調査区は里道部分にあたり、削平や盛土がされており、さらに現代の水路掘削もあり攪乱が著しい。標高28mをはかる。掘方長径・短径0.8mの不整な方形をしめす。深度0.35m遺存する。棺の形態は不明である。桶形座棺ではなかったかとも思えるが、掘方形状もどちらとも言えない。棺底部の痕跡は確認できなかった。角釘は１点のみ出土しているが数量からすれば絶対数が足りない。

副葬品は銭貨・古伊万里杯・鉄製品を検出した。人骨も検出しているので墓壙であることに間違いはない。銭および鉄製品は行方が不明である。このため図示も出来ず用途や種類も不明であり、銭貨一覧表から止むなく除外した。

161－ＯＢ

31・96区にかけて検出した。標高28.5mをはかる。ほぼ東西南北方向の正位置に向いた



第55図　37区162－ＯＢ、167－ＯＣ平面・断面図

「コ」の字に巡る溝に画された区画を建物跡と想定している。溝内側は平坦で柱穴・礎石の検出はない。地区境の断面観察によると旧飛行場建設時の整地層直下に旧長滝墓地存続時の整地層が観察される。溝内にも整地層が堆積し、建物の構造に関わる痕跡も削平されたと考えられる。

溝内側は直径10mをはかり、100㎡程度の区画が考えられる。溝検出長25m、幅0.4～１m、深度0.15～0.3mをはかる。埋土は褐灰色粘質土（10ＹＲ4/1、３㎝までの小石・炭・骨片含む）をしめす。溝は東側で幅0.4m、深度0.4mの直に掘られた小溝で168－ＯＬとつながる。周囲を囲む溝は排水溝として機能する。溝が遺存することは大きく削平を受けていないことをしめす。溝の切れる西側は木立が茂り東側に比べて高く、北側および東側は墓壙の検出もない空白域で、南東側に位置する墓壙群付近までは平坦であったと考えられる。

162－ＯＢ

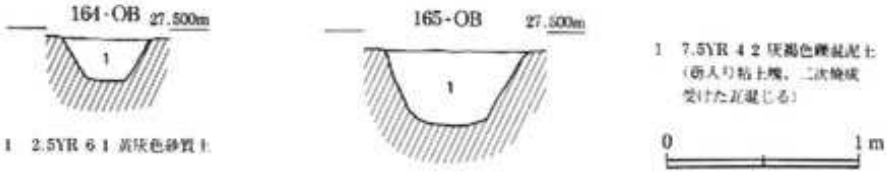
37区中央部の「整地土」上で検出した。標高27.0mをはかる。南側基壇の石列と出入口の石段のみ遺存する。１間×１間の規模の「お堂」であったらしい。民俗調査によれば大正年間に建てられ、旧飛行場建設のおり移転先の現長滝墓地に移設され現存する。石列は人頭大の河原石を東西方向に並べる簡素なものである。石段は河原石や組合せ五輪塔の水輪を半分に断ち割ったものを階段状に並べた簡素なものである。

163－ＯＢ

37区中央の「整地土」西端部で検出した。「整地土」上に構築された建物の区画である。標高27.4mをはかる。建物の痕跡はなく、北側および東側で雨落ち溝の一部を検出している。溝に囲まれた範囲を建物の区画と考えている。区画内の土層はバラス状の小石が敷き詰められ基壇状に硬く締まる。土層中には二次焼成を受けた中世瓦や迸入粘土塊等のほか白土器の破片が散見される。調査地外にも拡がるため全容は不明である。検出長径11.5m、短径６mをはかる。雨落ち溝の検出長６m、幅0.2～0.4m、深度0.05mをはかる。

164－ＯＢ

37区北西隅部で検出した。建物区画溝である。165－ＯＢ区画溝を切る。標高27.4mをはかる。やや開き気味の逆「Ｌ」字状を示す。検出長11.2m、幅0.45～0.8m、深度0.2mをはかる。民俗調査によると墓地北側に休憩所に使われた建物があったらしい。北側に隣接する９－ＯＷには生活臭のする遺物の投棄が観られる。付随する建物であろう。また48－ＯＯの大量の近現代瓦等の投棄はこの建物廃絶によるものと考えられる。埋土は黄灰色砂質土（2.5ＹＲ6/1）が堆積する。



第56図　37区164・165－ＯＢ断面図

165－ＯＢ

37区北西隅部で検出した。建物区画溝である。164－ＯＢに切られる。標高27.4mをはかる。基本的に逆「Ｌ」字状を示す。方形の区画を考えているが、そのほとんどは調査地外であり、全容は不明である。残念なことに水路を挟んだ西側は30区と同様に大きく削平を受け、遺構の遺存する可能性はない。検出長7.4m、幅0.65～1.2m、深度0.4mをはかる。溝埋土中からは二次焼成を受けた砂入粘土塊や中世瓦（15C後半以降）の出土を見ている。埋土は灰褐色礫混じり泥土（7.5ＹＲ4/2）が堆積する。

南側の「整地土」中にも二次焼成を受けた中世瓦等が大量に廃棄されているので、罹災した堂宇を想定している。長滝墓地関連の検出遺構中では最も古い遺構であり施設でもある。瓦等の遺物の年代観から考えれば、時代の移り変わる過渡期にもあたり、堂宇の罹災の原因を想像することも出来るが、広範囲なデータの蓄積を待たねばならない。北側に存在する97－ＯＵの墓壙との時期差から、墓地の一時期の断絶も暗示する貴重な発掘資料といえよう。

166－ＯＦ

37区で中央東寄りで検出した。いわゆるピット列である。墓道170－ＯＸ（ａ）屈曲部南側のピットａから墓道170－ＯＸ（ｂ）南側のピットｄまで続く。柱間距離は2.5～３ｍと一定せず直線的でもない。掘方直径0.25～0.4m、深度0.1～0.4mでばらつきがある。南側にも若干の墓壙が存在していたと考えているので、埋墓域と墓道とを隔絶する簡便な柵かも知れない。しかし検出ピットに柱痕も見られず、規模もばらつきが見られることから、墓道沿いの立ち木の痕跡の可能性もある。

167－ＯＣ

37区中央の「整地土」上で検出した。標高27.4mをはかる。南側は「結界溝」に面し墓地入り口からの墓道東側に位置する。故人との最後のお別れをする場所である「礼場」と考えている。区画の形状は上部がやや開いた変形した四角形を想定している。北東隅部に区画石列がなく判然としないが、推定長径５ｍ、短径3.7mの区画を想定している。区画